

ORIGAMI

TANTEIDAN

折紙探偵団

M A G A Z I N E

クローズアップ Close-up

第5回折り紙の著作権に関する 国際会議 報告(前編)

The 5th International Meeting on
Origami Copyright Report (Part 1)

西川誠司

Nishikawa Seiji

折り図 Diagrams

不思議の国のウサギ

Rabbit in Wonderland

松田景吾

Matsuda Keigo

箱ティッシュ

Facial Tissue Paper Box

谷田尚之

Yada Naoyuki

へび

Snake

小松英夫

Komatsu Hideo

展開図折りに挑戦! Crease Pattern Challenge!

映画女優

Actress

松井英里香

Matsui Erika

つまみおり Information

秋の学生折り紙展レポート

The Fall Students' Origami Exhibition Report



通巻 136 号

日本折紙学会 (JOAS) の理念

The Purpose of Japan Origami Academic Society

第一章 名称と目的

第一条 会の名称

1. 本会の名称は日本折紙学会とする。
2. 本会の英語での名称は、Japan Origami Academic Societyとする。
3. 本会の略称は、JOASとする。

第二条 会の目的

1. 本会は、折り紙の専門研究と折り紙の普及の促進、ならびに、それらを通しての広く国内、外の折り紙愛好家との交流の促進を目的とする。
2. 第一項の折り紙の専門研究とは、折り紙の創作、折り紙の創作技術の研究、折り紙に関する批評・評論、数学研究、教育研究、歴史・書誌研究、知的財産権等の研究、工学・商業デザインの研究等を意味する。
3. 第一項の折り紙の普及とは、折り紙の社会的認知度の向上活動、折り紙愛好者層の拡大活動、折り紙に関する人材の育成と発掘等を意味する。

規約第1章より抜粋

Chapter 1: Name and Purpose

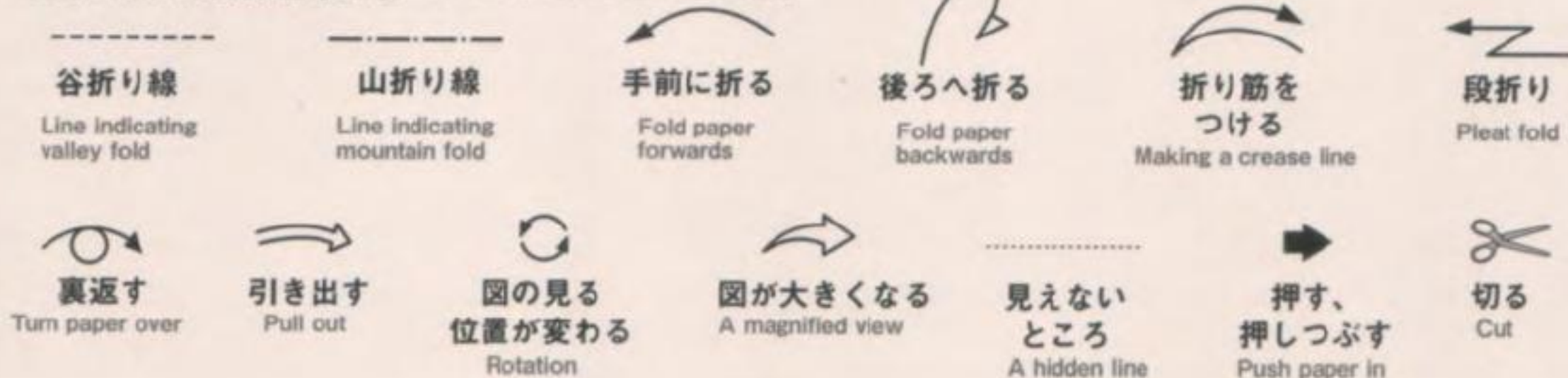
Article 1: Name

1. This society is to be called Nihon Origami Gakkai in Japanese.
2. This society is to be called Japan Origami Academic Society in English.
3. The abbreviated name of this society is JOAS.

Article 2: Purpose

1. The purpose of JOAS is to promote studies of origami, diffusion of origami, and both domestic and international association of all origami-lovers.
2. The studies of origami mentioned above includes designing, designing techniques, criticism, mathematical studies, educational studies, history, bibliography, studies of the intellectual property rights, studies of industrial and commercial design, and so on.
3. The diffusion of origami mentioned above includes widening appreciation of origami, expansion of the community of origami-lovers, scouting and rearing the origami talent, and so on.

●折り方の約束記号 SYMBOLS FOR FOLDING



映画女優
Actress

作: 松井英里香 (P.34)
by Matsui Erika (P.34)

■折り紙にまつわるさまざまな既存イメージを軽やかにすり抜ける、不思議な新鮮さを内包する造形。作例のような優雅な完成形を目指すなら、曖昧さを極力なくした「キレのあるぐらい折り」が多数必要になります。手間と時間をかけて試作を繰り返し、理想のバランスを見極めてから本折りに取りかかりましょう。 (解説: 北條高史) Comments: Hojyo Takashi



Actress: Matsui Erika

クローズアップ / Close-up

P.11 第5回折り紙の著作権に関する国際会議 報告(前編)

The 5th International Meeting on Origami Copyright Report (Part 1)

西川誠司
Nishikawa Seiji

折り図 / Diagrams and Crease Pattern

P.22 不思議の国のウサギ
Rabbit in Wonderland

松田景吾
Matsuda Keigo

P.26 箱ティッシュ
Facial Tissue Paper Box

谷田尚之
Yada Naoyuki

P.31 へび
Snake

小松英夫
Komatsu Hideo

P.34 展開図折りに挑戦!
Crease Pattern Challenge!

映画女優
Actress

松井英里香
Matsui Erika

カラーページ / Color

P.20 オリガミ・フォトギャラリー
Origami Photo Gallery

解説・北條高史
Comments: Hojyo Takashi

折り図 / Thematic Series with Diagrams

P.4 知子の部屋
Tomoko's Room

なでしこ
Pink

布施知子
Fuse Tomoko

P.8 おりがみ我楽多市
Origami Odds and Ends

サンタクロース正四面体BOX
Santa Claus Tetrahedron Box

やまぐち真
Yamaguchi Makoto

読み物 / Articles

P.14 折形算法散歩

Strolling around Origami Math in Japan
一之宮神社と竜湖寺 一折鶴の計算問題 -
Ichinomiya Shrine and Ryuko-ji Temple - Computational Problems of Orizuru -

前川 淳
Maekawa Jun

P.16 折紙図書館の本棚から

From the Bookshelves of the JOAS Library
「デザイナーのための折りのテクニック 平面から立体へ」
"Folding Techniques for Designers (Japanese Edition)"

三谷 純
Mitani Jun

P.18 ぼくらは折紙探偵団

Here We Are, THE ORRRIGAMI TANTEIDAN
アニメ化される折り紙
Anime-rized Origami

小松英夫
Komatsu Hideo

P.35 ペーパーフォルダーの横顔

Paper Folders on File
アン・ラビン
Anne LaVin

取材: 鶴 知宏
Tachi Tomohiro

コラム / Columns

P.7 折り紙の周辺

Origami and Its Neighbors

布施知子
Fuse Tomoko

P.32 おりすじ

Orisuzi ("Fold-Creases")

大場雅人
Oba Masato

P.33 折紙三昧

Origami-Zanmai (This Origami and That)

西川誠司
Nishikawa Seiji

情報 / Information

P.36 つまみおり Rabbit Ear

秋の学生折り紙展レポート
The Fall Students' Origami Exhibition Report

知子の部屋

Tomoko's Room 第16回
なでしこ
Pink

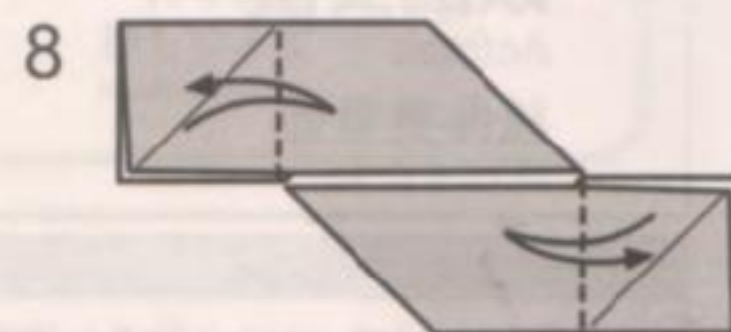
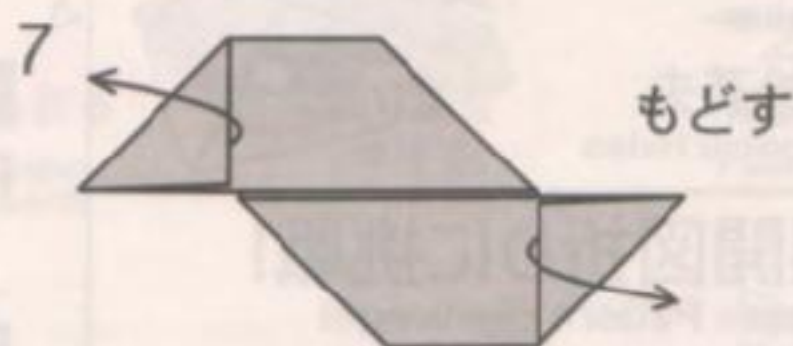
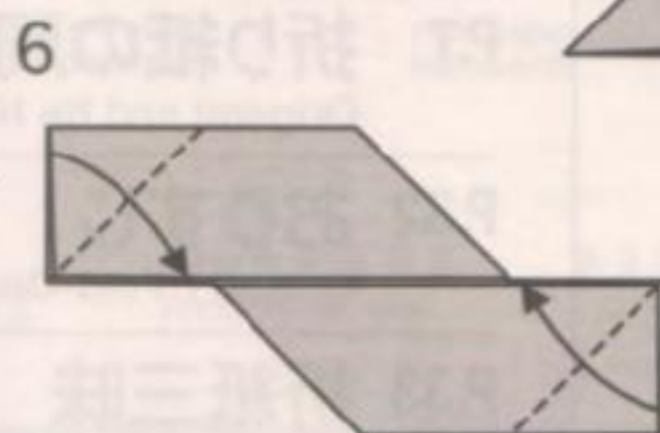
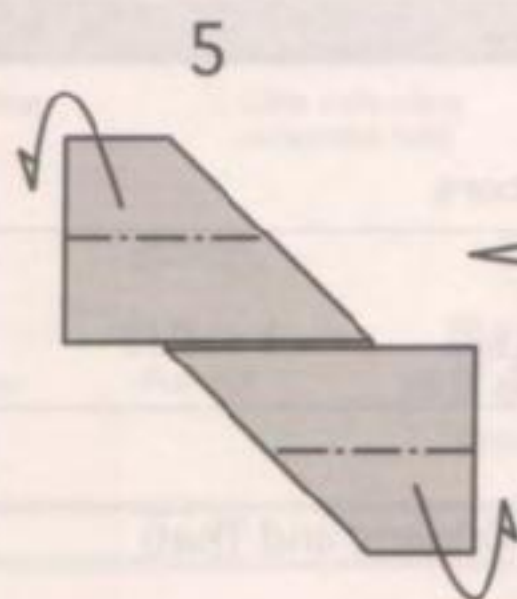
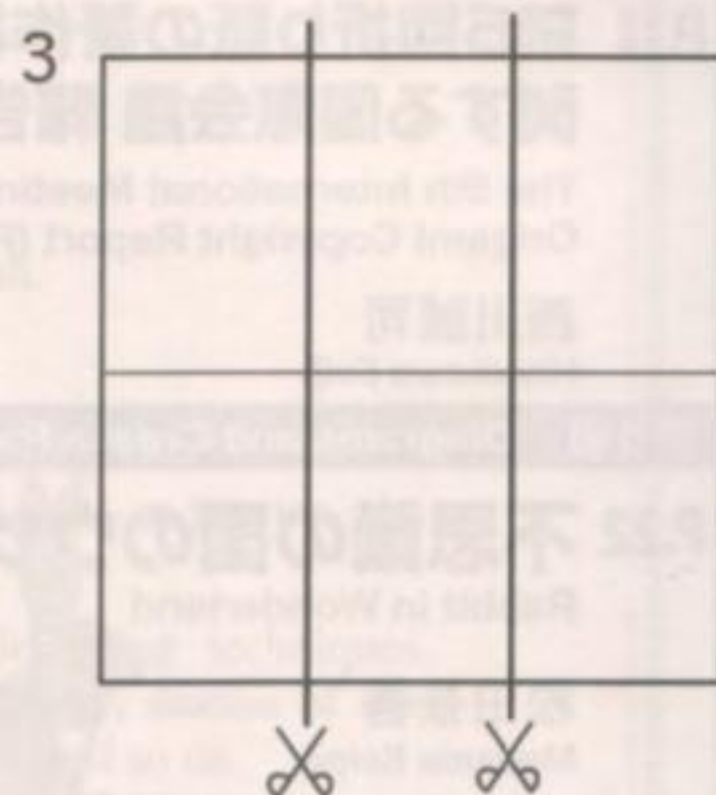
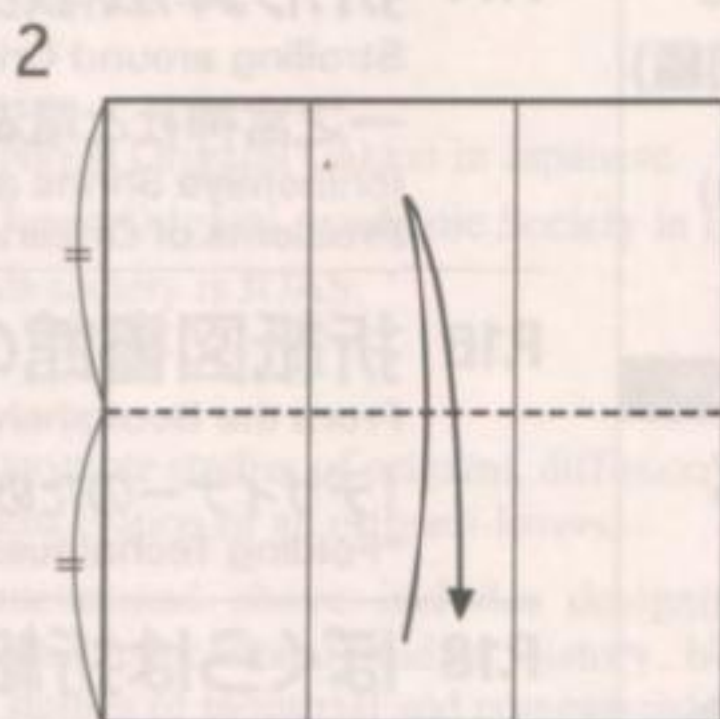
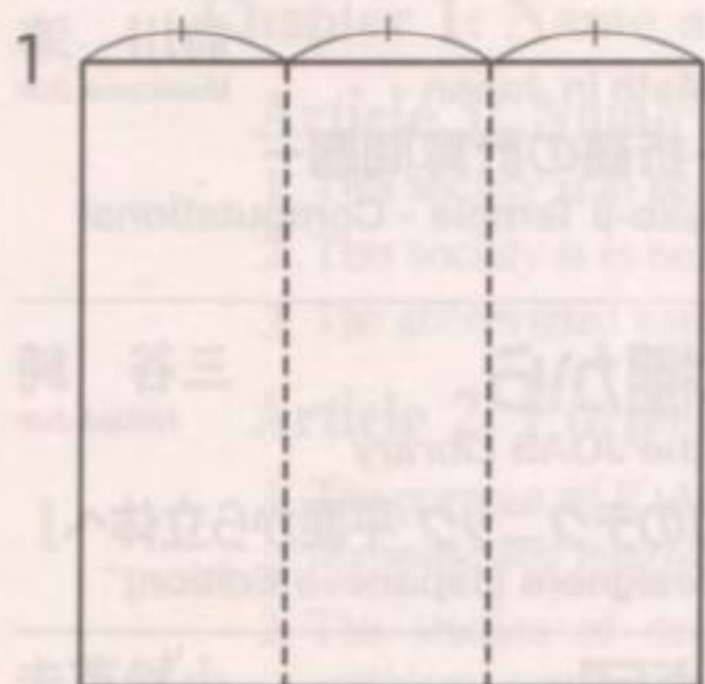
布施 知子
Fuse Tomoko

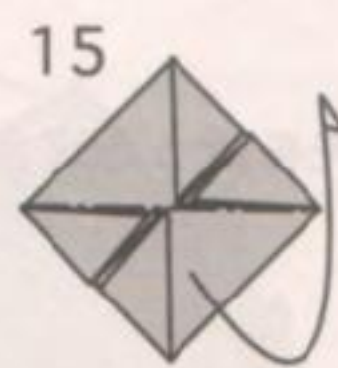
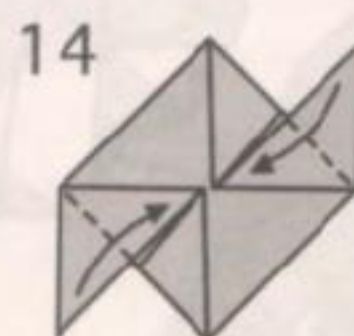
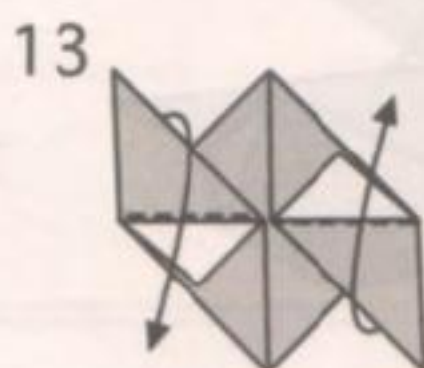
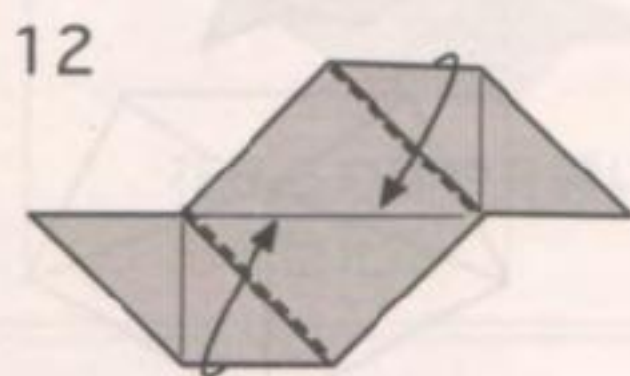
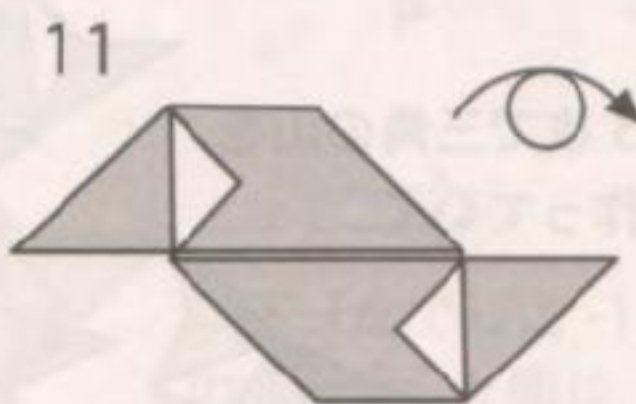
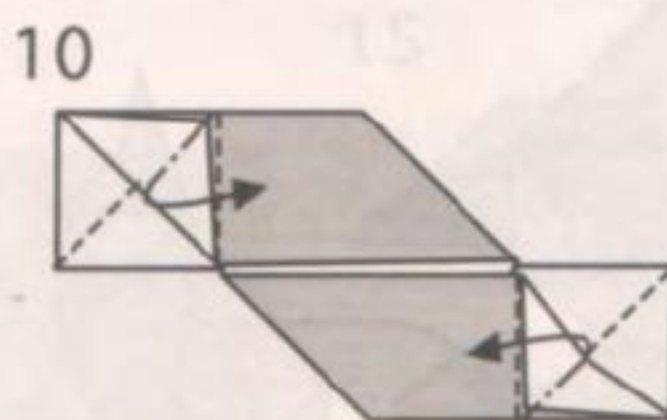
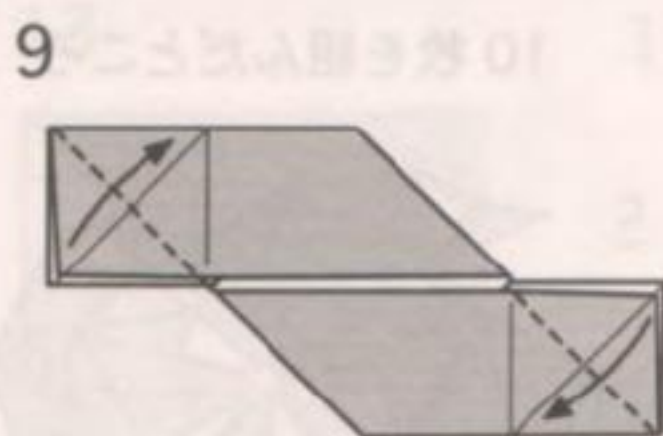
130号と同様に30枚組が楽しい「花くす玉」です。
辺の比が1:3の紙から折ります。しっかりしたでき
あがりになります。



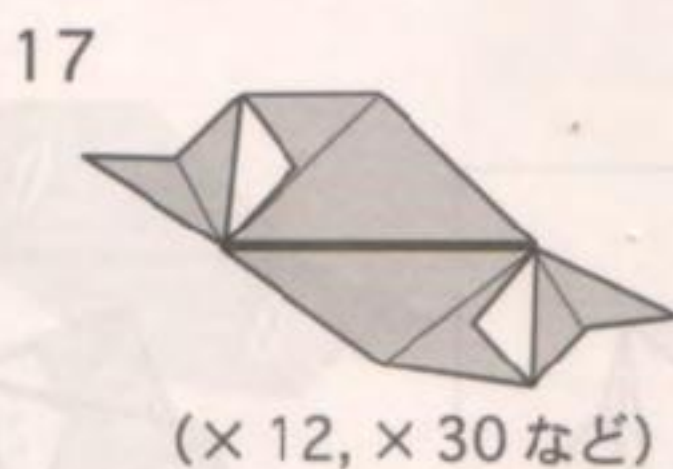
なでしこ -1

基準：15 × 15cm から切り出す

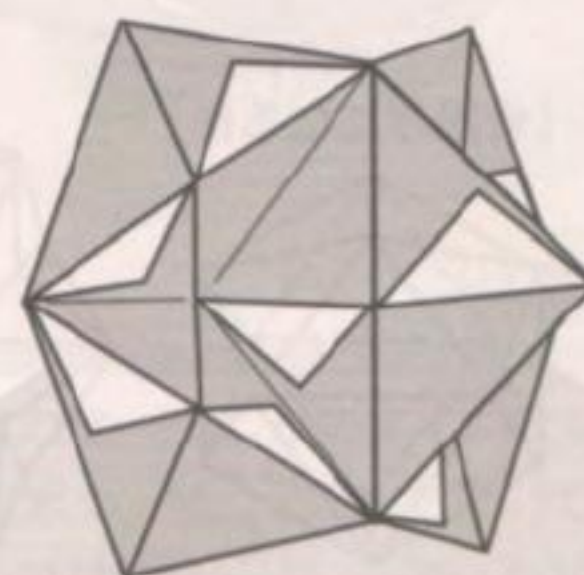




半分に折る



参考：12枚組



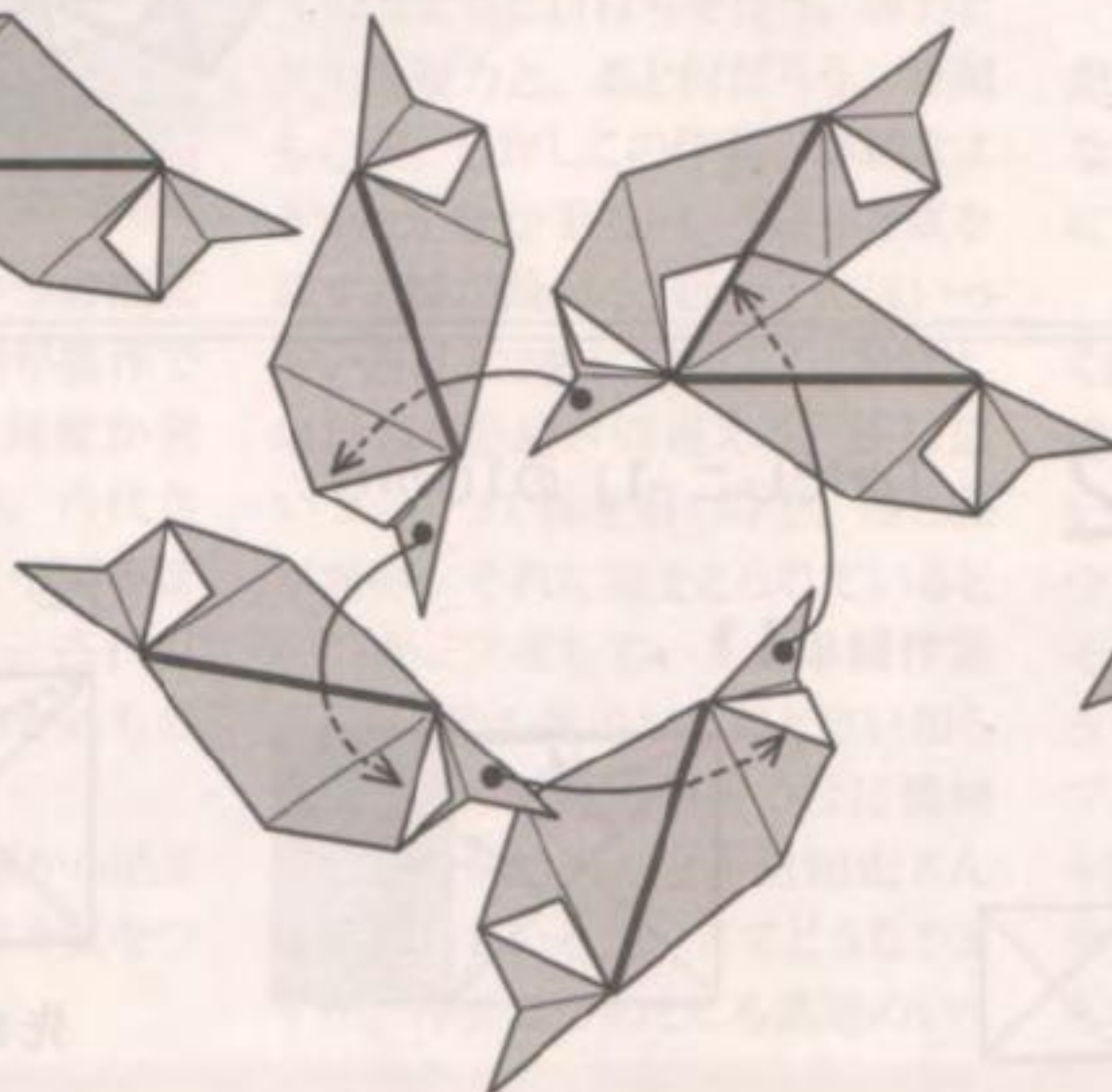
12枚組はまず4枚を組む

[30枚組の組み方]



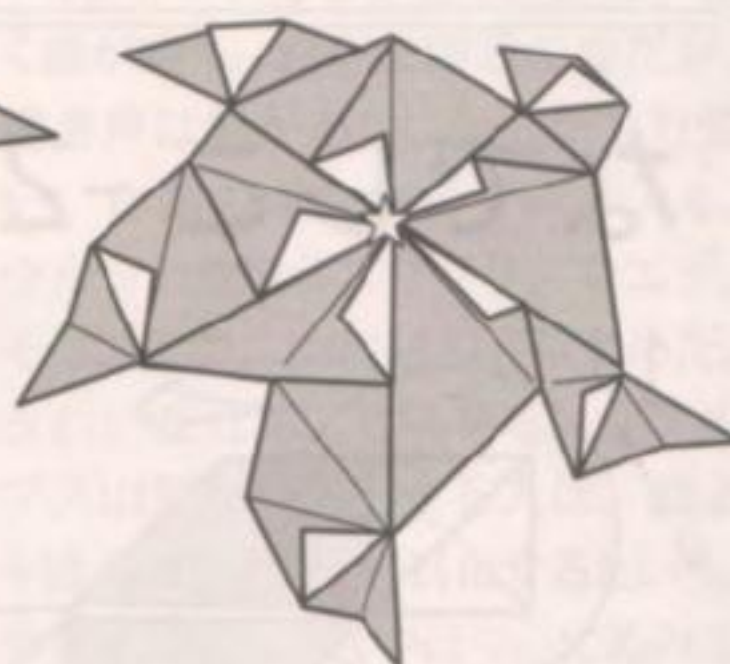
凹凸を合わせて
しっかり差し込む

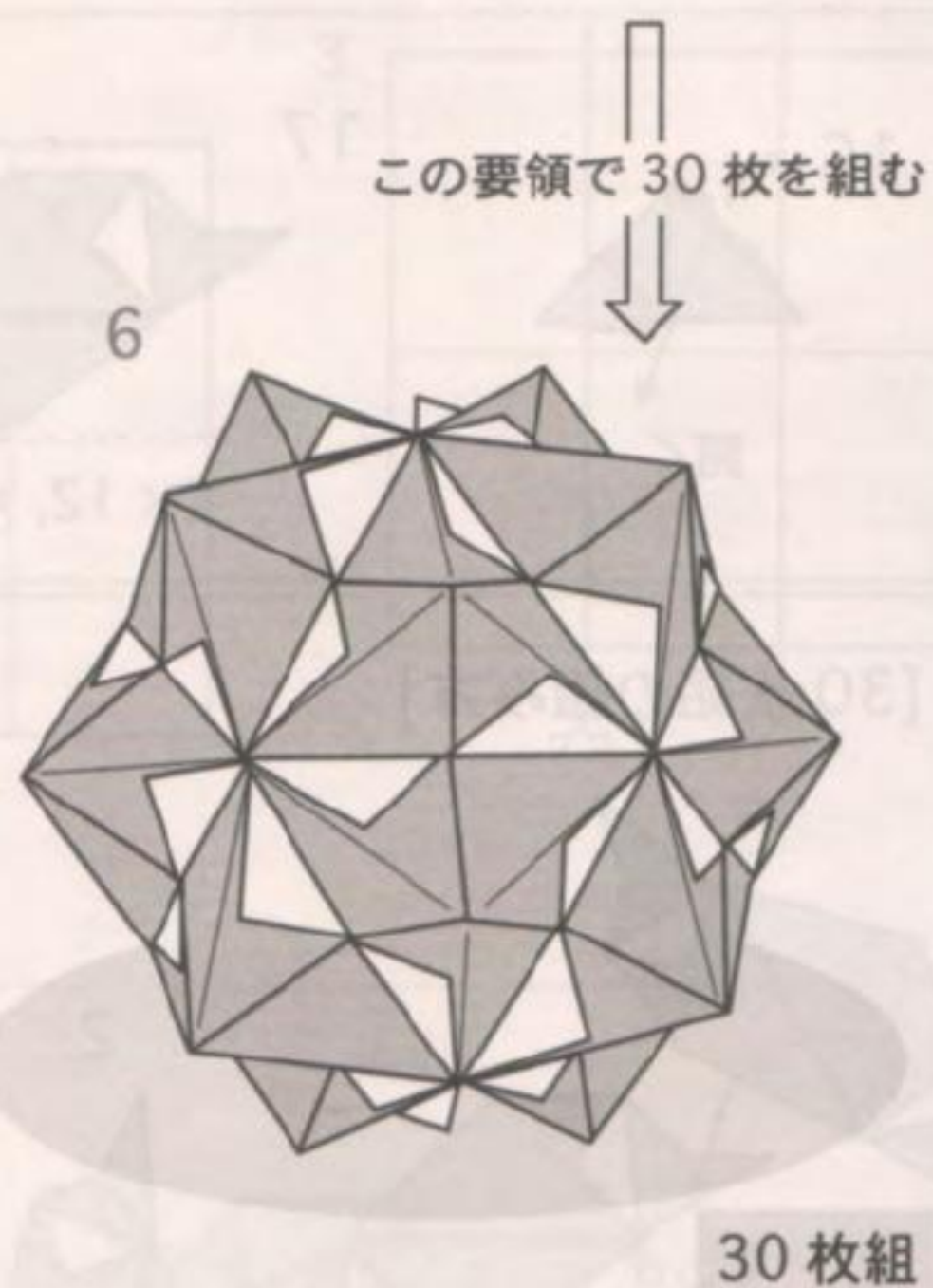
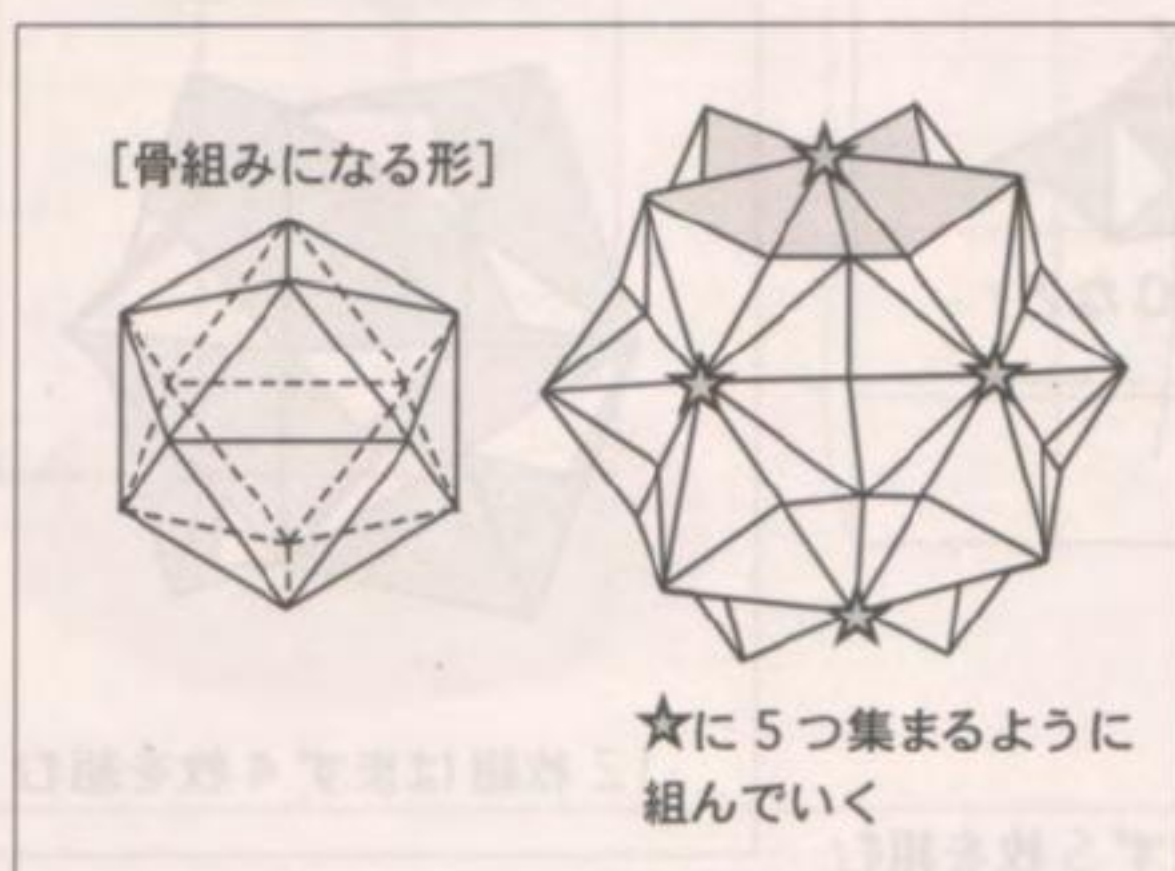
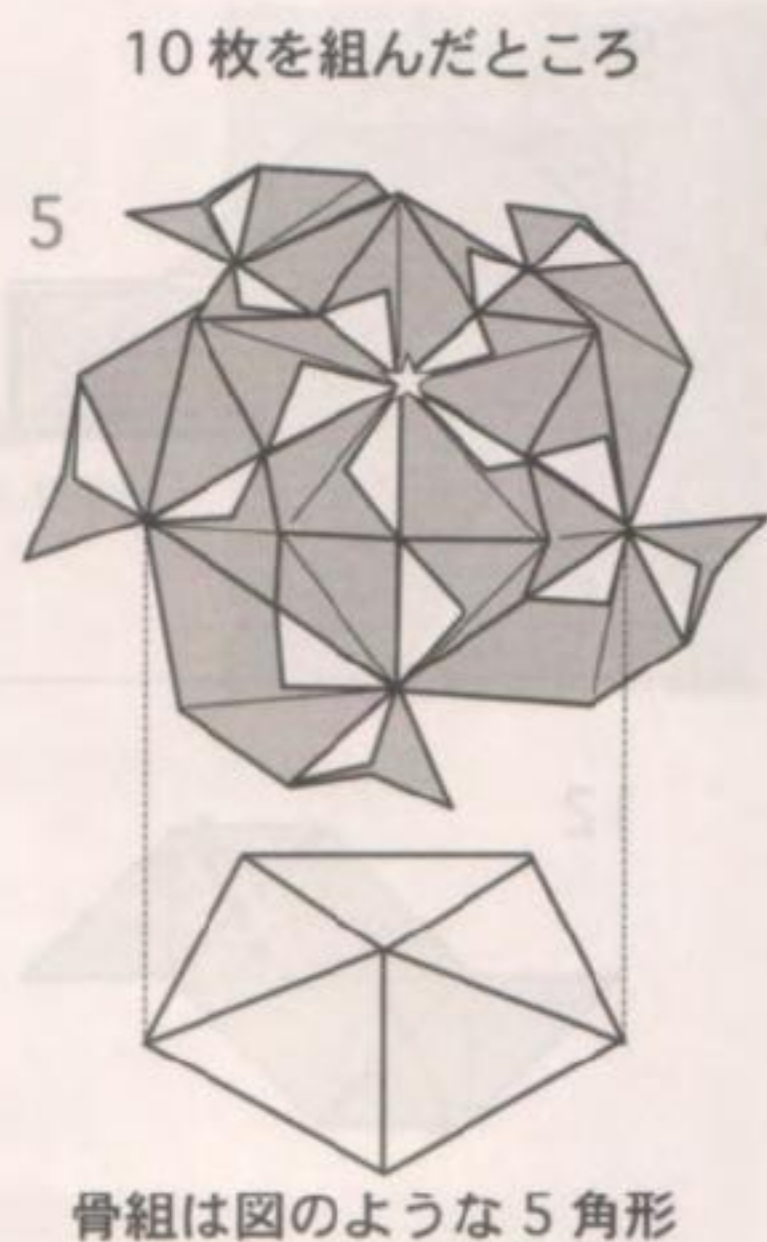
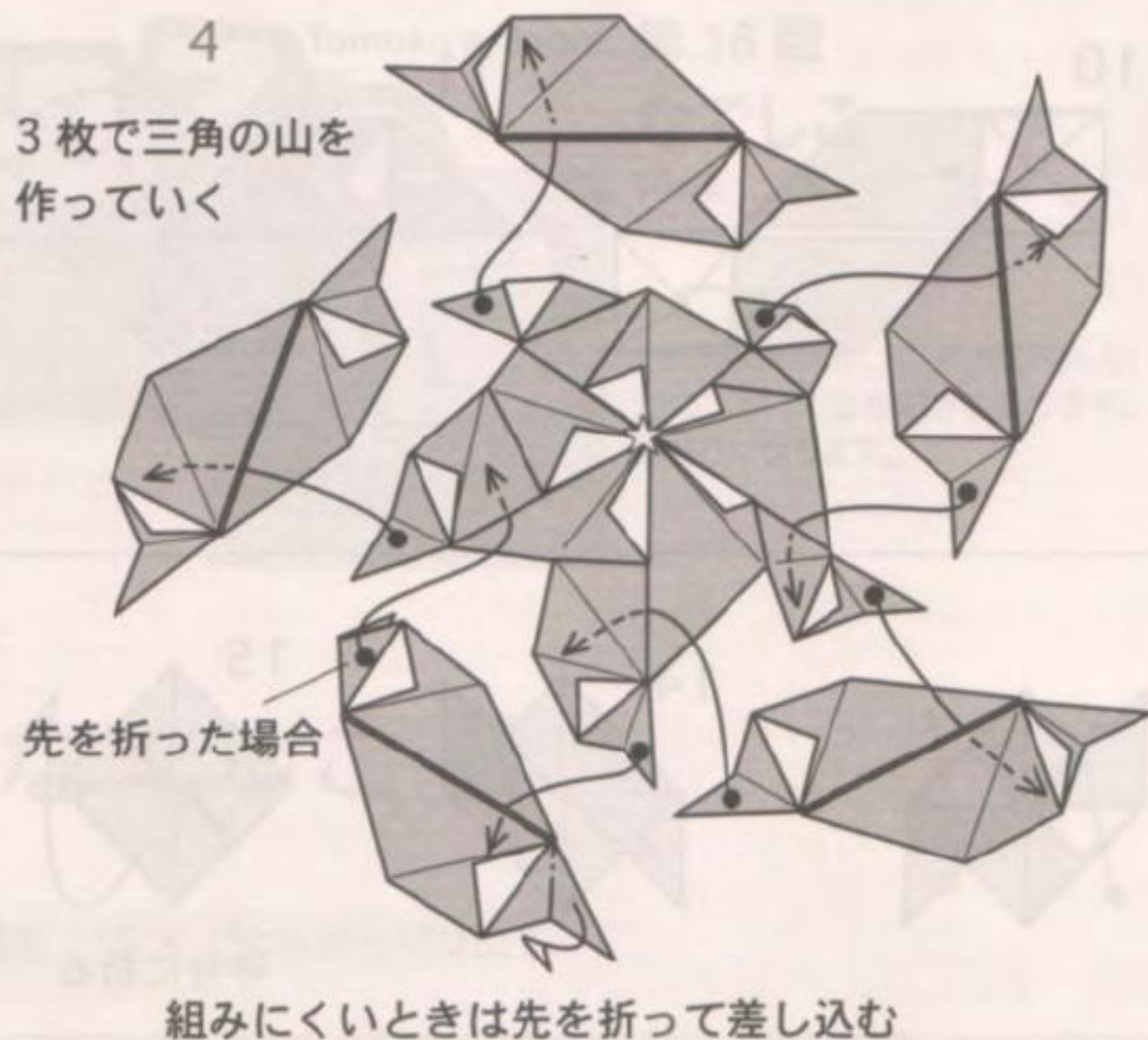
2 まず5枚を組む



3

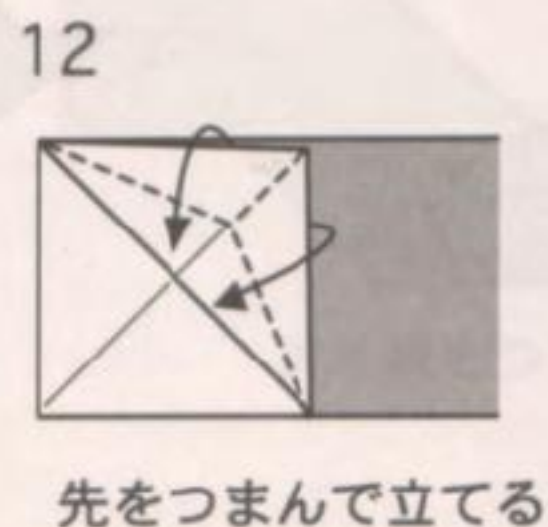
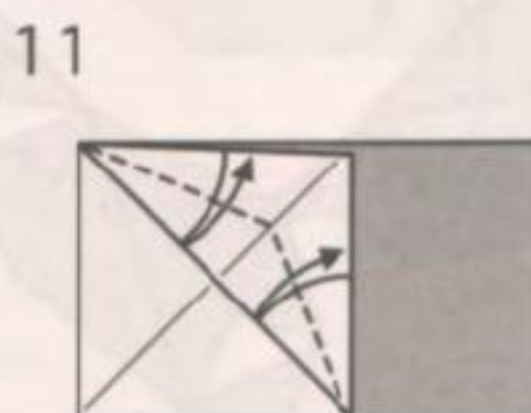
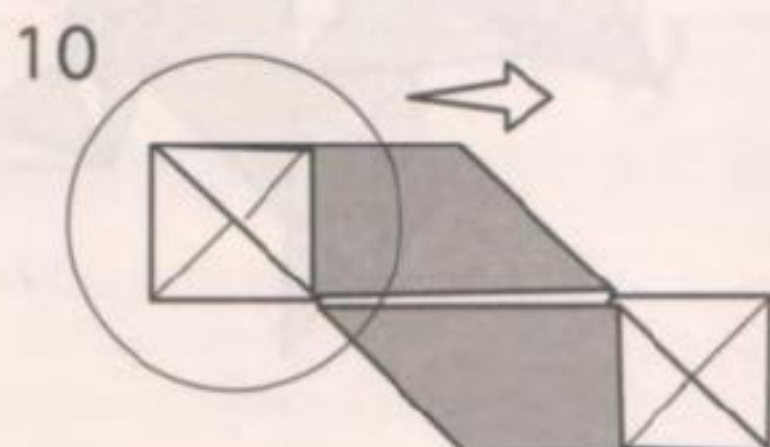
5枚を組んだところ



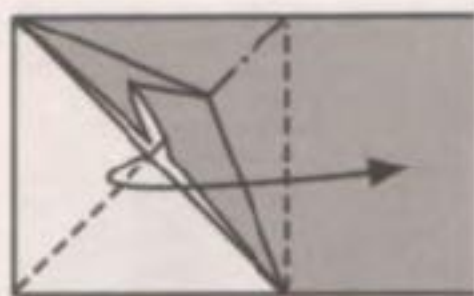


なでしこ-2

「なでしこ-1」の10から



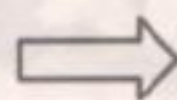
13



14

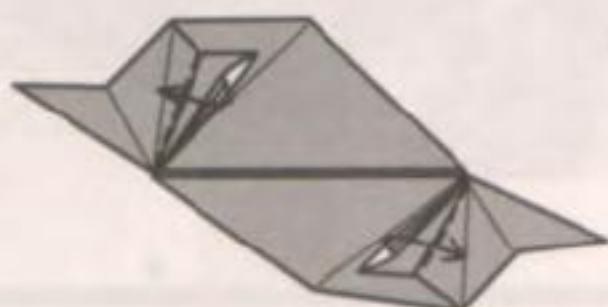


15



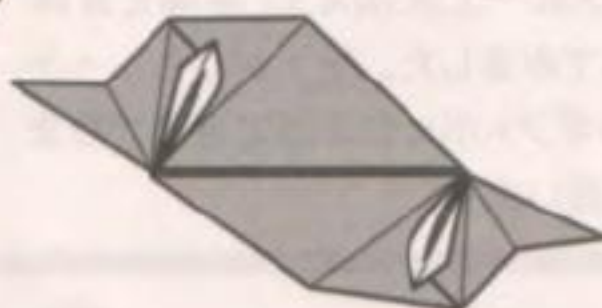
以下「なでしこ-1」
の11からと同じ

16



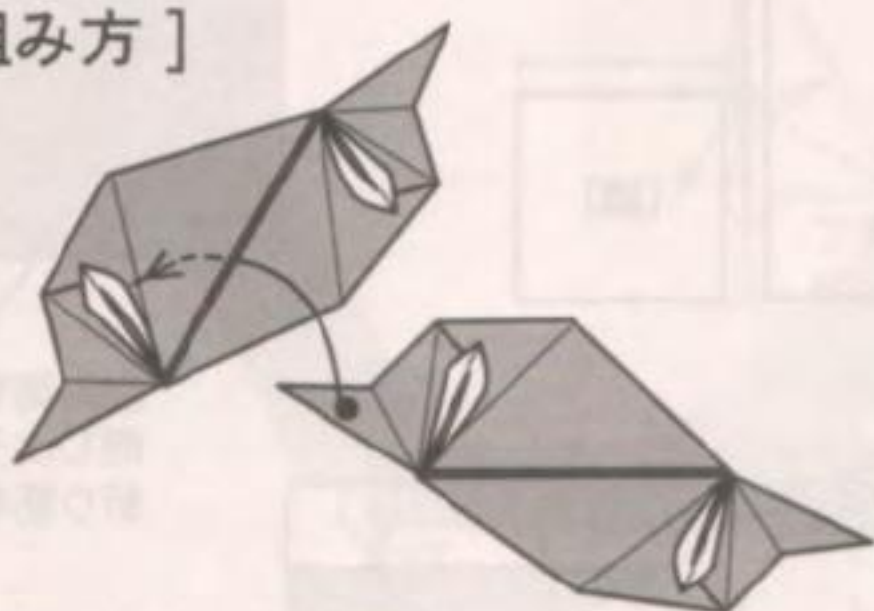
花びらの部分を開いて
形を整える

17

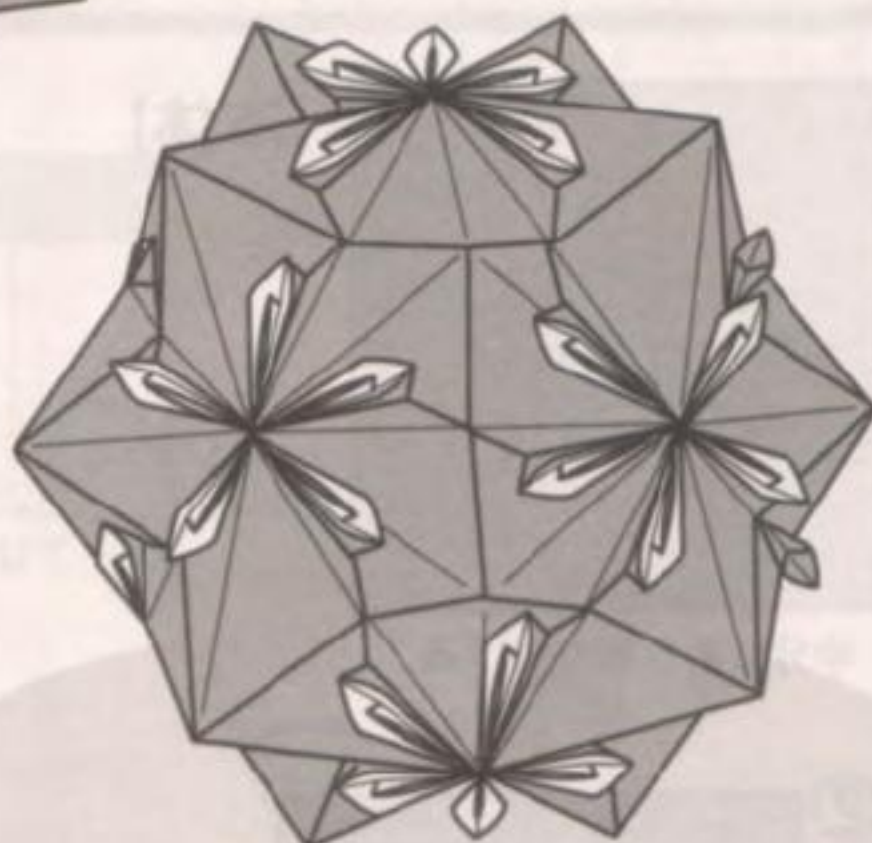


(× 12, × 30 など)

[組み方]



「なでしこ-1」と同じ



30 枚組

折り紙の 周辺

Origami and
Its Neighbors

布施知子 Fuse Tomoko

第56回 単純作業 Routine Work

暑い夏だったのに、いつの間にか秋になった。今年は栗が豊作でたくさん拾った。夕飯は何度か米のかわりにゆで栗が登場。古代食だね、といいながら、皮や実をぼろぼろ散らかして食べた。古代食(原始食?)は食卓が散らかるものらしい。

クマの出没も夏の終わり頃から始まり、新聞だねにならないよう気をつけている。

季節のめぐりと一緒に、いつの間にやら60才をひとつふたつ越えた。体力があるうちに、と平面の大作に取り組んでいる。まず単純な折り線つけを長々と延々とやらなくてはならない。1メートルの物差しと先のなまった目打ちを使う。体力と気力と視力と、あと何だろう、時間も必要。しかしこの作業、単純なようでなかなか手強い。ちょっと気を許すと線が曲がる、紙の下にはいつかゴミで紙に穴があく、物差しの目盛りを読み間違える。床に這いつくばって線を引くので、膝と腰が痛み、それに気をとられているといつかミスをしている。単純作業だからこその集中が必要と思い知らされた。単純な基本線つけは機械でできないものかと、館知宏さんに相談しているが、さてどうなりますか。作品は今のところ満足のいく

ものは一つしかできていない。死屍累々、紙ゴミの山を築いている。ネコが部屋にはいらないように戸を閉めて作業しているので、手ならいつでも貸すといっているネコは不満らしい。

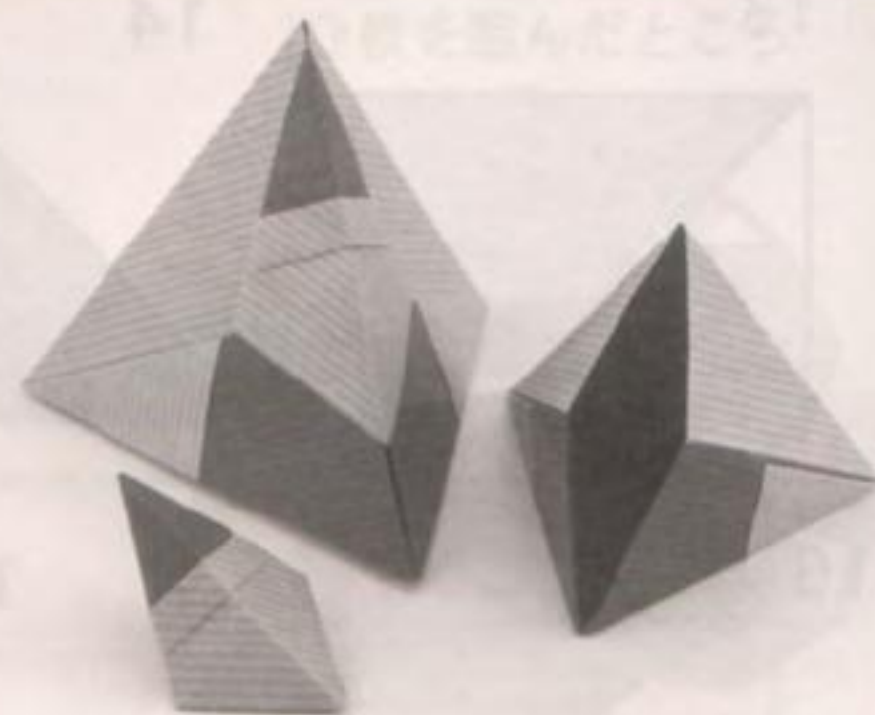
折り紙は思い通りにいかない。思い通りにいかないから思いがけない造形に出会える。それを励みにしている。

10月の中旬をすぎて、夕方、よく鹿が鳴く。食害で問題の鹿だが、鳴き声は艶がありしなやかで力強い。作業の手を休めて聞き入る。ウルシ、ウワミズザクラ、カエデ、モミジの類。山は色づきはじめた。きれいだなあ、と眺める。北アルプス山麓に住まいする人は、鹿より猿の鳴き声をよく耳にするという。秋に鳴く猿の声はやはり心に沁みるものらしい。

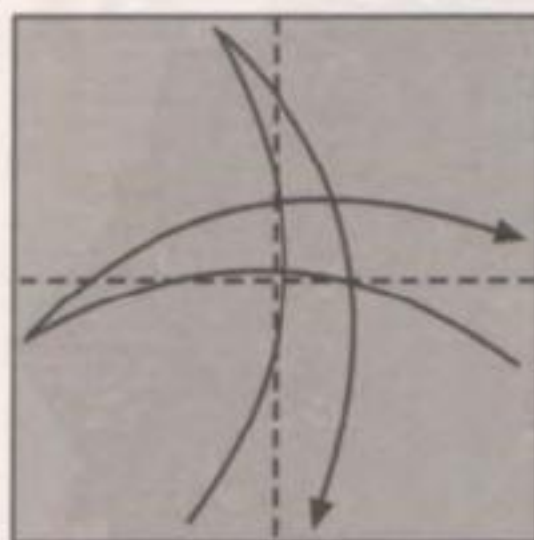
第57回 **サンタクロース正四面体BOX**

Santa Claus Tetrahedron Box

大分昔に創作した正四面体ギフトボックスに一工夫加えて、本体を身体にして、ストッパーの部分をサンタの顔にしてみました。仕上がりもしっかりしていて、実用に堪えられるかわいらしいギフトボックスができ上がりました。小さなクリスマスプレゼントに良いと思います。

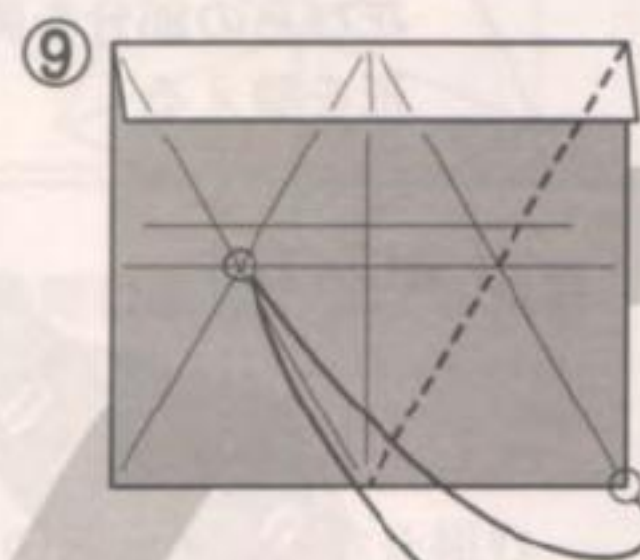


① [本体]

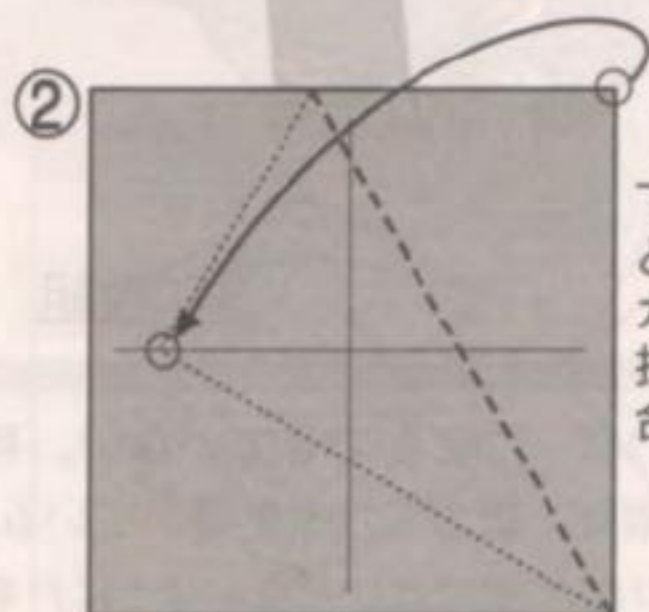


半分に折り筋をつける

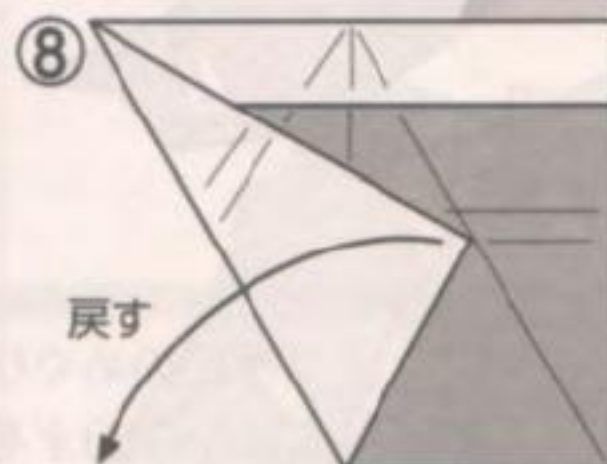
[紙の比率]



反対側も
同じようにして
折り筋をつける



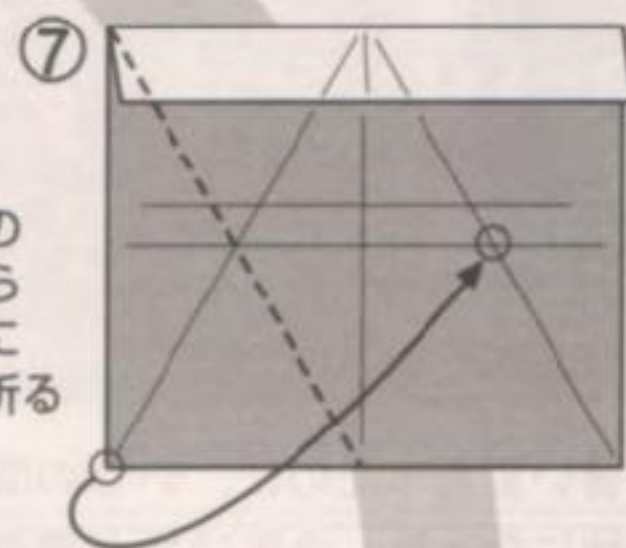
下のカドの
ところから
カドを○の
折り筋に
合わせて折る



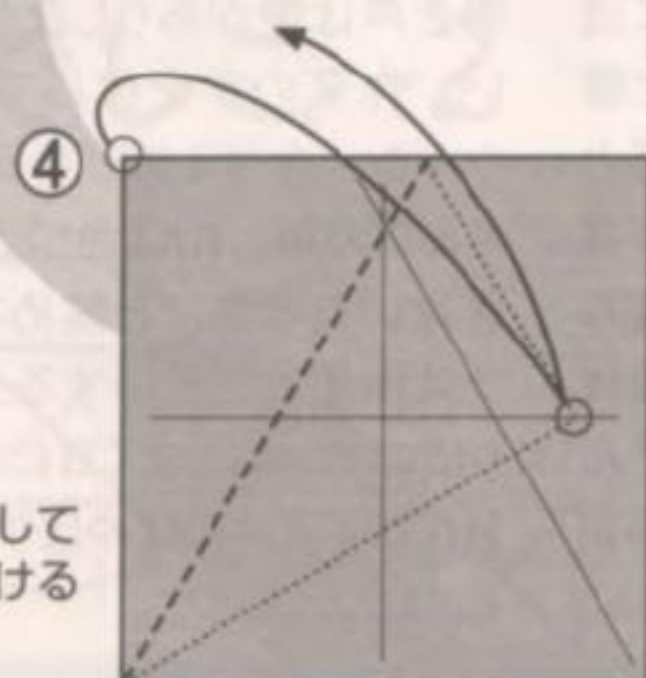
戻す



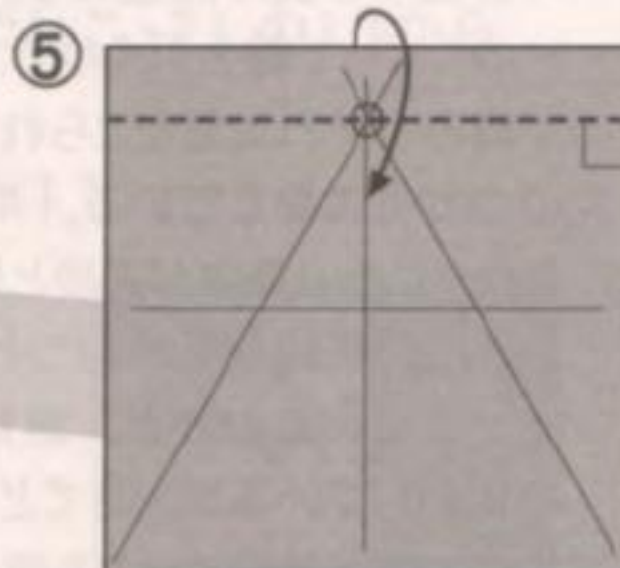
戻す



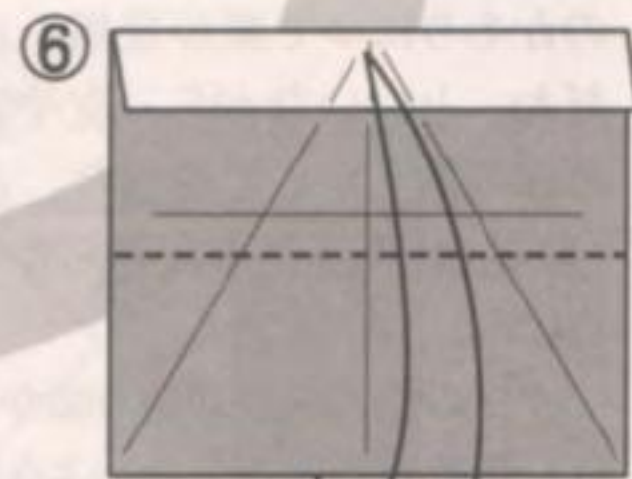
上のカドの
ところから
カドを○に
合わせて折る



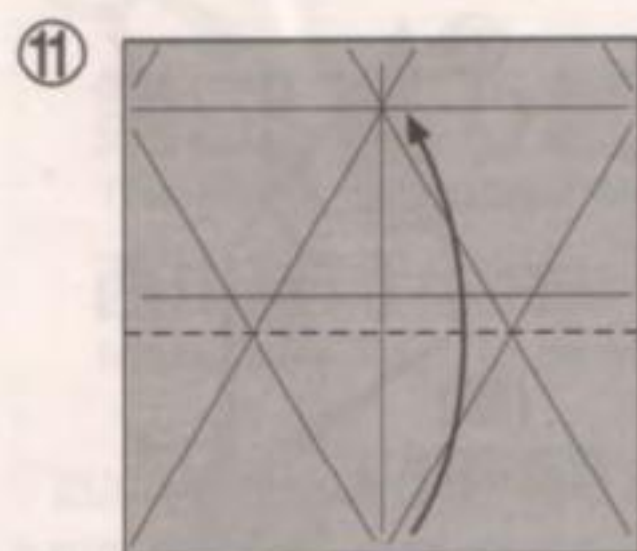
反対側も
同じようにして
折り筋をつける



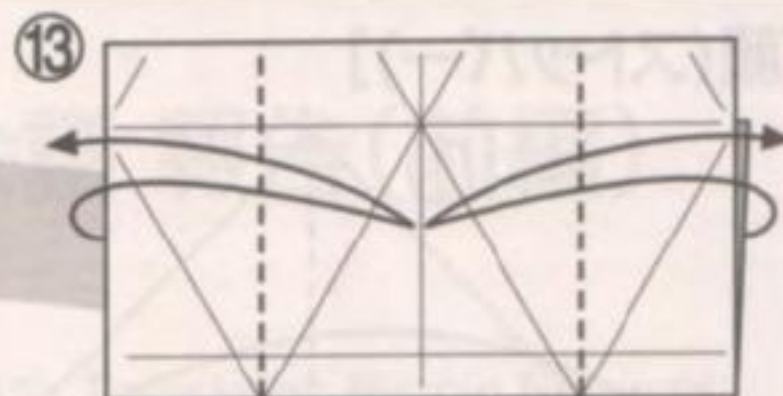
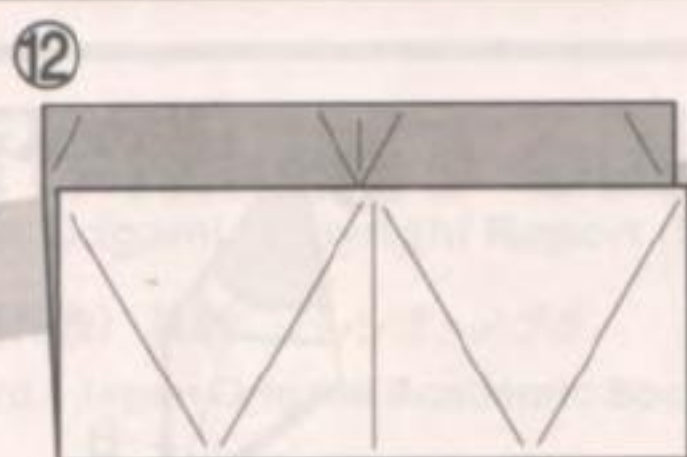
フチを○のところで折る



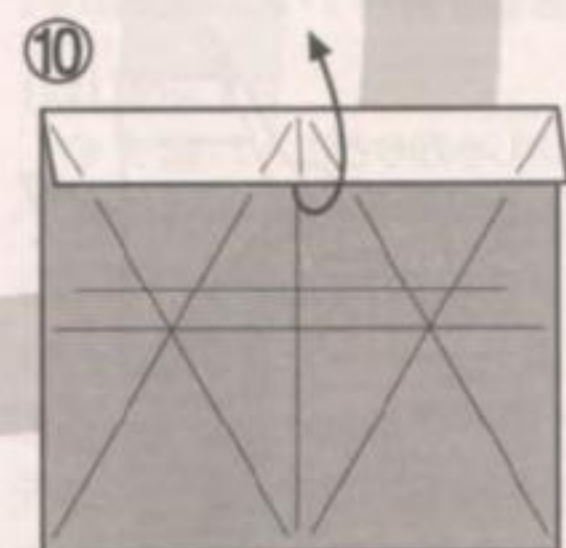
フチとフチを
合わせて折り筋をつける



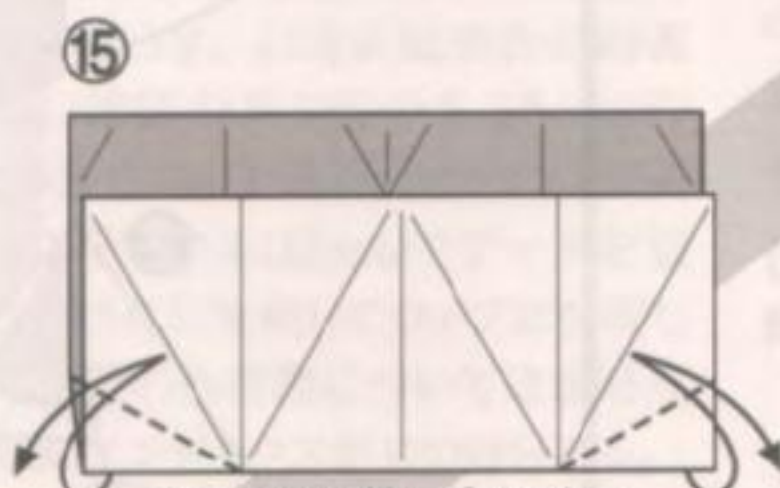
⑪ ついている折り筋で折る



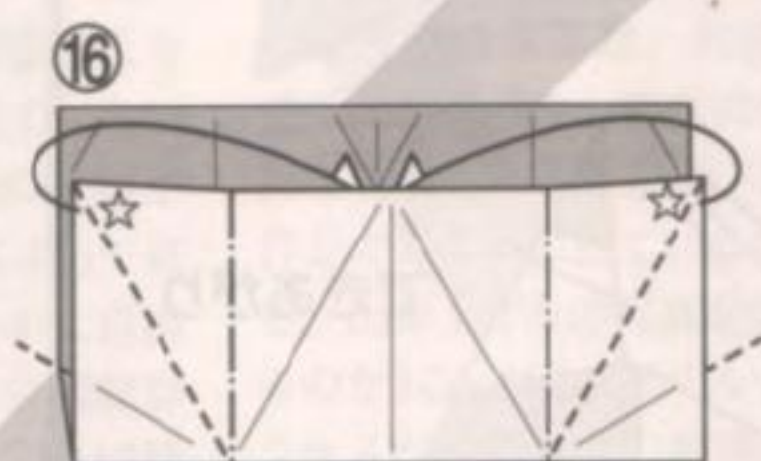
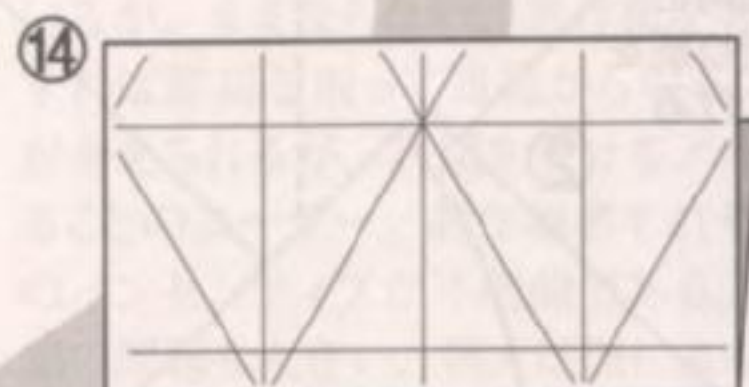
⑬ フチを折り筋に合わせて折り筋をつける



⑩ 戻す



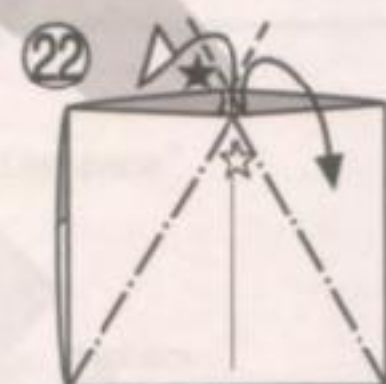
⑮ フチを折り筋に合わせて折り筋をつける



⑯ ついている折り筋で引き寄せるようにカドを内側に折る



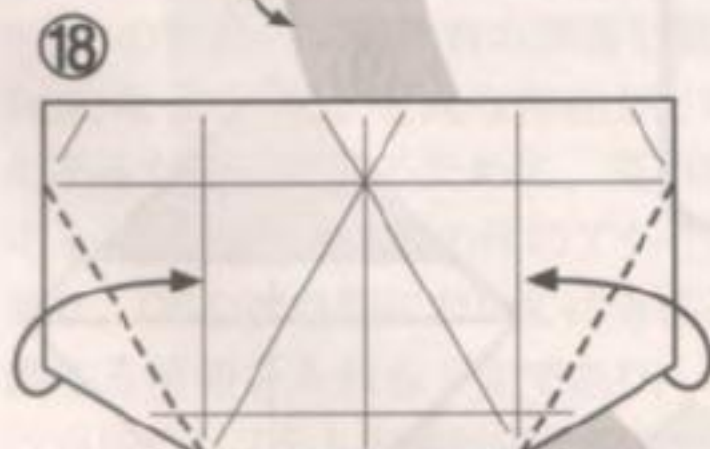
途中の図



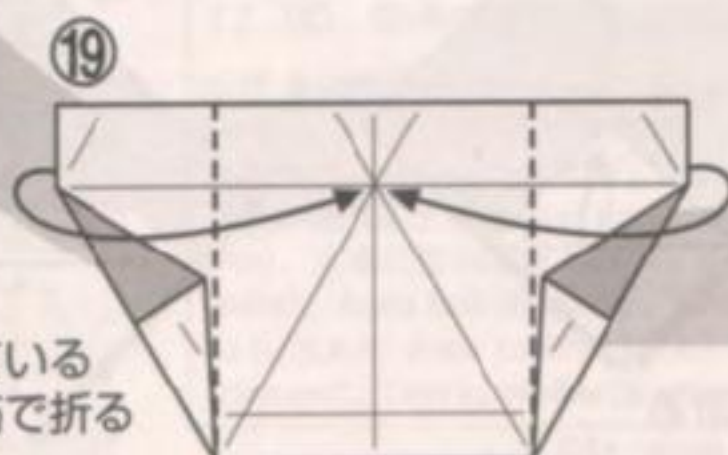
⑫ 内側をひろげてついている折り筋で立体にする



⑭ [本体] できあがり



⑮ カドをついている折り筋で折る

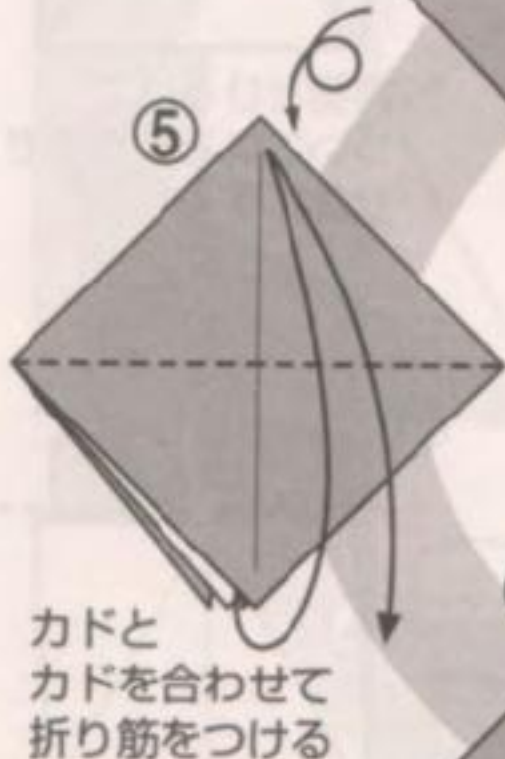
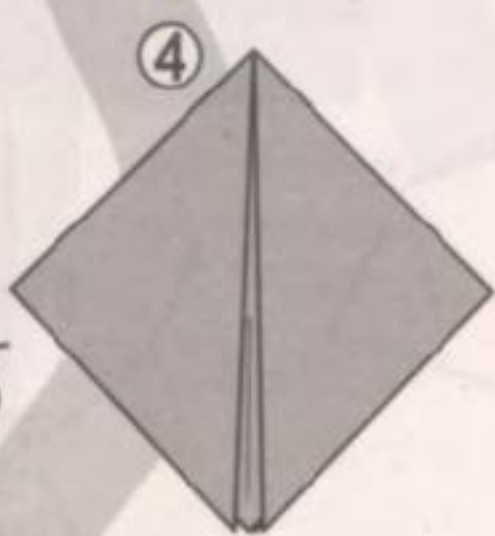
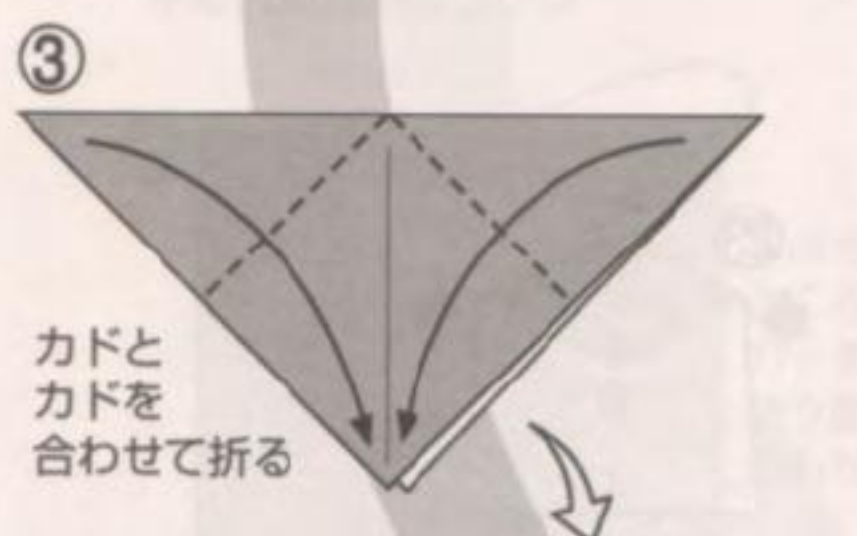
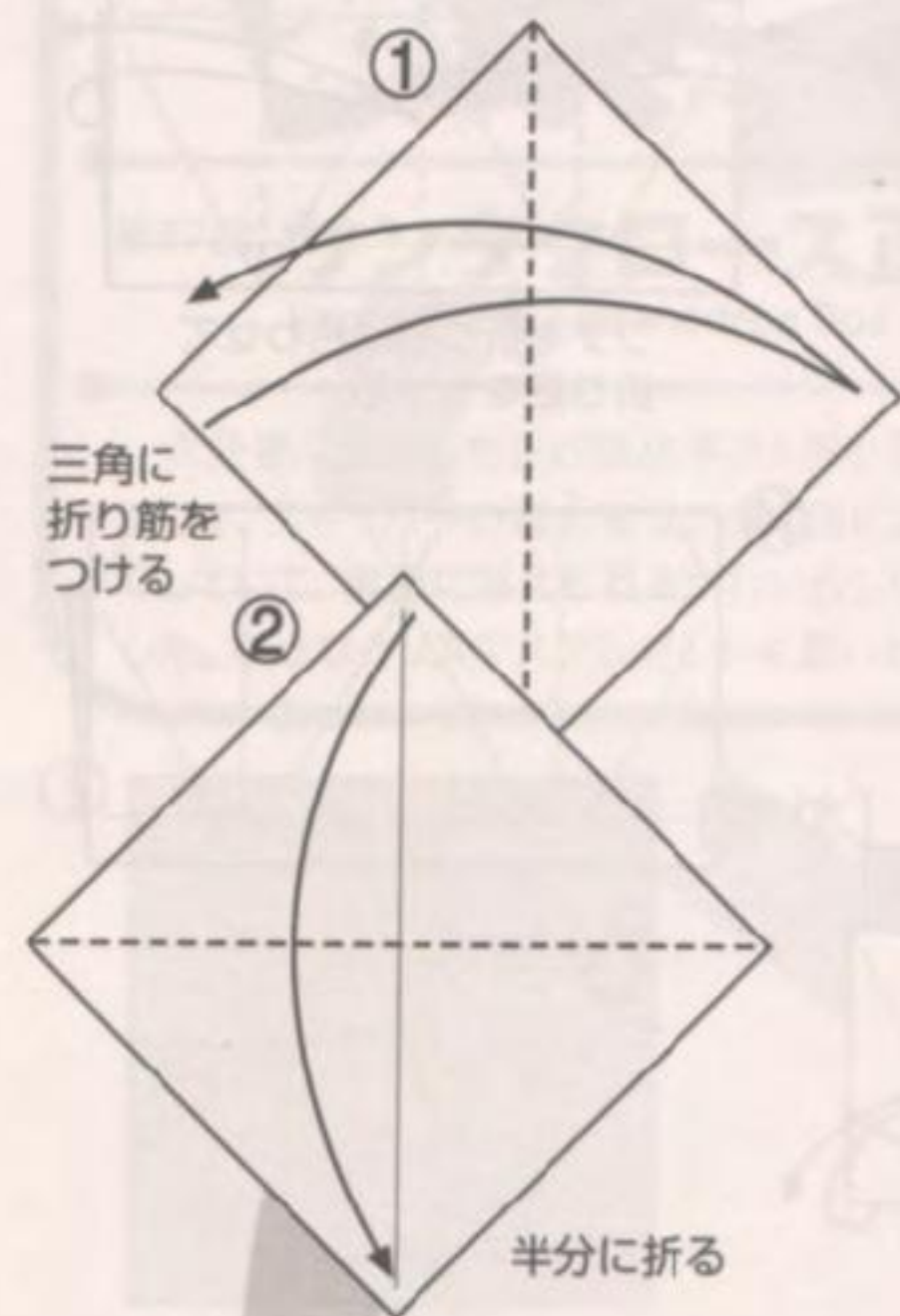


⑮ ついている折り筋で折る



⑮ ついている折り筋を使ってフチをすき間に折り込む

[顔(ストッパー)]



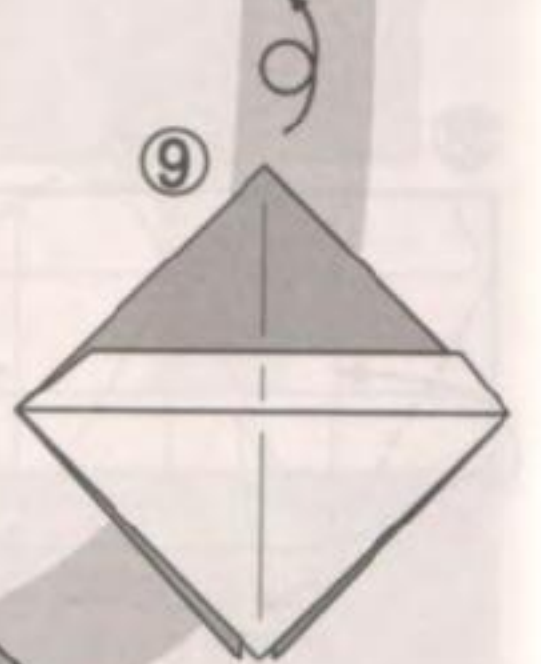
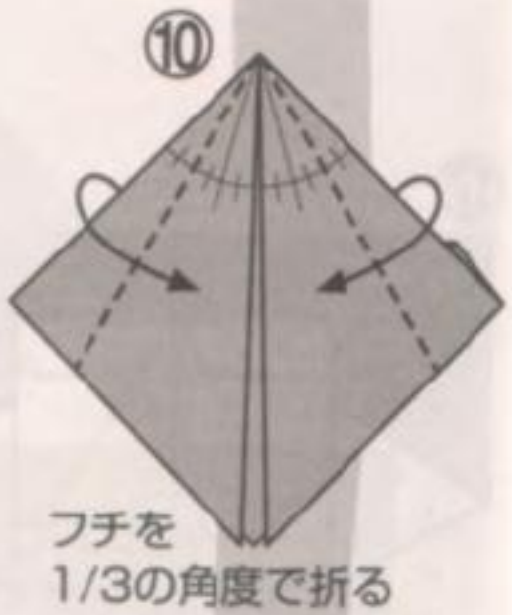
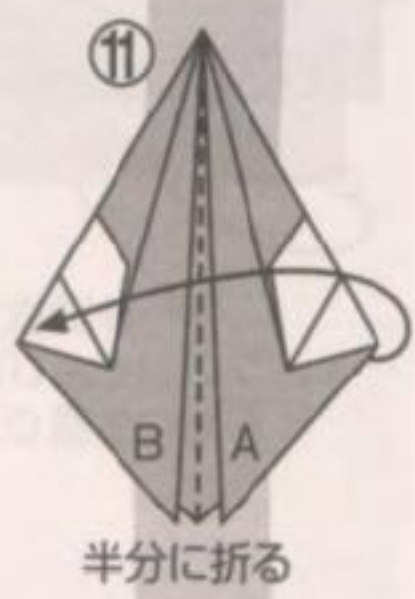
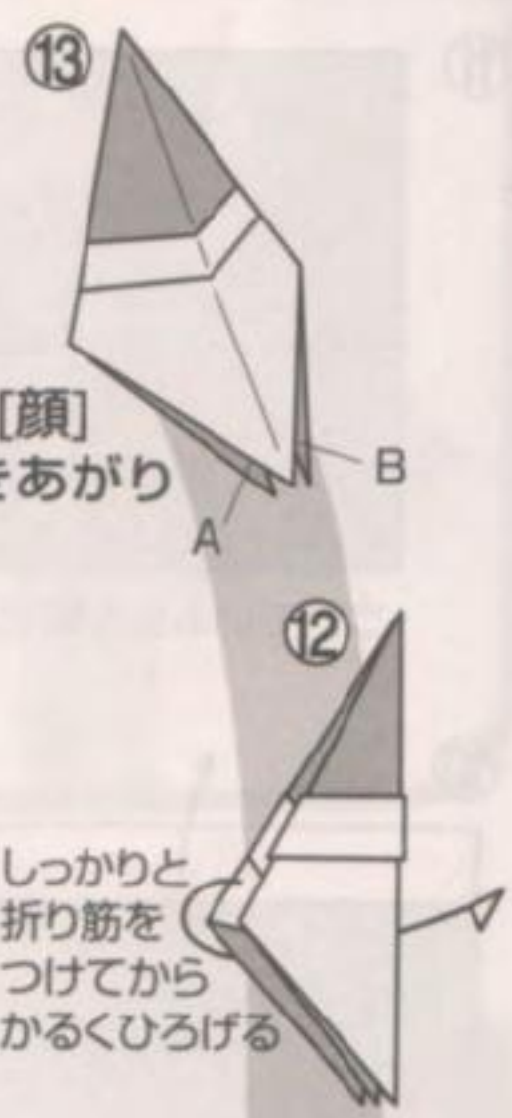
[組み立て]

① [顔]の後ろのカドをそれぞれ[本体]のすき間に差し込む

② できあがり

[ワンポイントアドバイス]

紙の厚みで差し込みにくくなる場合は③でこの部分にすき間をあけるとよい



第5回折り紙の著作権に関する国際会議 報告(前編)

The 5th International Meeting on Origami Copyright Report (Part 1)

西川誠司 (日本折紙学会評議員代表) 英訳: マルシオ・ノグチ

Nishikawa Seiji, Chair of the Board - Japan Origami Academic Society (JOAS) Translator: Marcio Noguchi

2008年に折り紙作家・山口真氏の呼びかけで開催された「折り紙の著作権に関する国際会議」は、今回で5回目^[1]になる。これまで、日本折紙学会は評議員を中心に準備／運営などに協力してきた。本稿では、第5回折り紙の著作権に関する国際会議での議論について概要を報告する。

【はじめに】

今会議は、第18回折紙探偵団コンベンションの吉野一生基金招待者として、世界で最も大規模で広く利用されている折り紙データベース(DB)『The Origami Database』^[2]の主宰者であるデニス・ウォーカー氏をイギリスから迎え、またこの会議のために日本折紙学会の「折り紙の知的財産権検討基金」より、折り紙インデックス『おりがみ「あい」うえお』^[3]の主宰者である岡雅夫氏を九州から招き、「折り紙著作権とDB」というテーマを中心に現状と課題の討議がなされた。図1に示した進行によって前半3題の話題提供があり、後半に自由討議の形式で進められた。本会議録詳細は和・英文で作成しており、JOAS図書館で閲覧できる。

【基調講演 デニス・ウォーカー】

ウォーカー氏は、1991年頃に自身の持つ折り紙本やBOSマガジンの整理のためにDBを作り始め、インターネットの普及にともない、7年くらい前からネット上で検索機能やユーザーから画像を登録できる機能を加えて、現在45,000作品(折り図あるいは展開図が公表されている)の作品名や制作者の情報を備えるDBになっている。どんな作品がどの本にあるかを先ず知るために、英語圏を中心に1日およそ1,000件のアクセスがある。DBの改良版においては著作権に関する情報を入れる予定であり、現在改良版のシステムの設計中とのこと。

【折り紙インデックスの作成について 岡雅夫】

岡氏は、自身の蔵書リストの作成を始め、九州で折り紙のサークルに入ったことから折り紙のインデックスを作り公開を始めた。2001年に登録を開始

し2012年8月1日時点で日本折紙協会、おりがみはうす、日本折紙学会の39書籍、622雑誌の折り図のある8,990作品を50音で検索できるインデックスである。インデックスはExcelでデータを管理し、HTMLに変換してウェブに公開している。その他書籍については現時点で目次のインデックスが180冊分ある。

両DBで課題は共通する部分が多い。同一作品が複数の書籍で公表されている場合の統合問題、共にボランティアでの活動であり、現在の規模がほぼ限界と感ぜられる。また、どんな名前の作品がどの本に出ていることがわかって、出来上がりの写真を揃える(誰が折るのか)ことがむずかしい。書籍へのアクセスが絶版などの問題で容易でないことも多い。ウォーカー氏のものは現在、

ボランティアが折って写真をアップしているが、ままならない。著作権を考慮すれば許諾を取って書籍から取ることが考えられるが、許諾を受ける／与えることのユーザー／著作権者それぞれのインセンティブが不明瞭である。言語の問題も大きい、例えば国による人名の形式の違いなど煩雑である。

【どんな情報が折り紙データベースに登録されるべきか 西川誠司】

今回、欧米と日本の主要なDBの主宰者を会議に呼ぶことができ、現状の課題について共有いただくことができた。西川からは幾つかスライドを示し、議論のきっかけとした。

<スライド1枚目/図版の掲載は省略>

1) JOASは、2005年にまずガイドラインをつくり課題を研究してきた。まず、法律と折り紙の創造性とのあいだで折り合いをどうやってつけるか。たとえば「コンピュータプログラムは元々著作権で整理しきれないテクノロジー問題を含

・開催日: 8/13 10:00-17:30	Date: 13 August 2012, 10:00-17:30
・場所: JOASホール	Location: JOAS Hall
・議題: 「折り紙著作権とデータベース」	Agenda: "Origami Copyright and Database"
・議長: デビッド・ブリル	Chairman: David Brill
・議事録: ジェイソン・クー、館 知宏、北條高史	Minutes: Jason Ku, Tachi Tomohiro, Hojyo Takashi
・通訳: マルシオ・ノグチ、羽鳥公士郎	Translator: Marcio Noguchi, Hatori Koshiro
10:00	開会の挨拶/山口 真 Opening remarks: Yamaguchi Makoto
10:10	基調講演/デニス・ウォーカー Keynote lecture: Dennis Walker
11:20	折り紙インデックスの作成について/岡雅夫 About the Construction of the Origami Index: Oka Masao
12:00	昼食休憩 Lunch Break
13:30	どんな情報が折り紙データベースに登録されるべきか —折り紙の著作権に関連して—/西川誠司 What Kind of Information Might Be Registered into an Origami Database: Nishikawa Seiji
14:10	参加者からの発言と討議 Remarks and discussion by the participants
16:00	まとめ、今後のアイデア、次回の開催など/デビッド・ブリル、アン・ラビン、西川誠司 Summary, ideas for the future, next meeting: David Brill, Anne LaVin, Nishikawa Seiji
17:00	閉会の挨拶/三浦公亮 Closing remarks: Miura Koryo
出席者: 26名 Attendance: 26 people 日本15名 (Japan, 15) 岡雅夫 (Oka Masao)、霞 誠志 (Kasumi Seishi)、川村みゆき (Kawamura Miyuki)、小松英夫 (Komatsu Hideo)、佐藤直幹 (Sato Naomiki, France)、重松祥司 (Shigematsu Shoji)、津田良夫 (Tsuda Yoshio)、館 知宏 (Tachi Tomohiro)、西川誠司 (Nishikawa Seiji)、羽鳥公士郎 (Hatori Koshiro)、北條高史 (Hojyo Takashi)、前川淳 (Maekawa Jun)、松浦英子 (Matsuura Eiko)、三浦公亮 (Miura Koryo)、山口真 (Yamaguchi Makoto) 海外11名 (Overseas, 11) Himanshu Agawal (India)、Assia Brill (England)、David Brill (England)、Taekyung Chung (Korea)、Chris Itoh (U.S.A.)、Jason Ku (U.S.A.)、Anne LaVin (U.S.A.)、Marcio Noguchi (U.S.A.)、Kyung Hae Oh (Korea)、Hoang Tien Quyet (Vietnam)、Dennis Walker (Scotland)	

図1 会議次第 / Figure 1: Conference Program

んでいたが、大きな経済的価値を持っていたこともあり新しく法律をつくることになった」というように概ね法律はあとからついてくる。現時点では折り紙専用の法律は考えようがなく、折り合いをつけるという観点を基本として持たなければいけない。ここでは折り紙をまず基本的にファインアートとして見ましょうという姿勢で考えることにしたい。そうすると folding (折ること) は copy となる^[4]。そして、創作者は copy (折ること) に対して制限する権利を持つ。創作者による折り方の公表は、私的な copy (折ること) を許可していることにはなるだろうが、第3者が勝手に私的範囲を越えて折り図コピーを配布するなどして不特定多数へのさらなるモデルの copy 作成を許容していると見るのはおかしいと言える。

2) ただし、copy を制限する権利というのは、そこだけ考えると非常に強い。そこで創作者はおそらく文化の発展貢献を考慮して、うまく権利を解放することであることを考えることになるだろう。

3) 「ファインアート」については広く解釈をすることができるが、形のみ(例えば単なるハート型や立方体など)の作品では、著作権的表現として扱うために、積極的な理論構築が必要になると思う^[5]。

4) 我々が創作と信じているほとんどの折り紙作品は、この論法で「著作物」と言えると思っている。シンプルな作品でも、デザインとして十分に表現されているということは言えるであろう。

<スライド2枚目/図2>

折り紙作品の世界をイメージした図である。例えば「EJ」はエリック・ジョワゼルを示す。ファインアートの特徴・コンプレックス度合の双方についての傾向が強い作風である。一方、折り紙には「作品を、自分でも(折り図など

を見て) 折りたい」と考え、面白い折り方を楽しむという側面が重要なので representational art^[6]としての位置付けも考えたい。そのような観点から折り紙を音楽と比較して考える、というような議論がある。音楽のようでファインアートのようなものでもある、というものについては、パッチリ適合する法律は見えていない。法律との相性を考えると、ファインアートとしての議論をベースに持っている必要がある。

<スライド3枚目/図版の掲載は省略>

そこで、著作権のDBとして考えられるものを例として作ってみた。folding を copy のひとつというふうに考えれば、permission (許諾) ということを「作品 copy の permission」として定義することができる。一般的には“fair use”のことは特に指示内容を書かなくていいと思われるかもしれないが、書いたほうが親切であろう。沢山の人を相手にするとき、有償と無償のときなど対応が違ってくる。許可を得るための連絡先の情報も必要だろう。このような著作権者側からのポジティブリストは有用だと考えている。作者の意図に反した場合、たとえば、西川作品「セキレイ」について無断でCDジャケットに使用されたケースで抗議したことがあった。

<スライド4枚目/図3>

DBは、ウォーカーさんや岡さんの「どんな折り紙作品が世界(日本)に存在するのか」をまとめる目的のものもあれば、著作権者に承認されたダウンロードサイト、コピーライトのDBなど、それぞれに機能がある。これらのネットワーク化を考えることになると思う。絶版本にどうアクセスするかということについては、図書館とリンクすることである程度フォローされるだろう^[7]。

これは概念図の段階であり、どう立ち上げるかは別問題だが、このように頭の整理をすると現時点では、承認されたダウンロードサイト、コピーライトのDBが明確に整備されていないことがわかる。(以下次号)

<注>

- [1] これまでの「折り紙の著作権に関する国際会議」：■2008年10月 第1回 JOASホール(記事『折紙探偵団』112号, 2008) ■2009年6月 第2回 NYコンベンション(記事『折紙探偵団』117号, 2009) ■2010年8月 第3回 東洋大学(JOAS講演会と共同開催)(記事『折紙探偵団』123号, 2010) ■2011年8月 第4回 JOASホール(記事『折紙探偵団』129号, 2011)
- [2] <http://www.origamidatabase.com/>
- [3] <http://homepage2.nifty.com/noachikugo/aiueo/00i.htm>
- [4] 『折紙探偵団』76号, 2002. の逆瀬川貴司氏の記事クローズアップ「コロブスの卵」に同様の指摘がある。
- [5] 例えば、「動くハート」などは明らかに単なるハート型ではなく創作的表現と言えよう。
- [6] ここでの意味は、音楽のような時間芸術(a temporal art)あるいは演劇のようなperforming art(再現芸術)と言った方が適切かもしれない。
- [7] 実際、JOASの図書館ページから『おりがみ「あいうえお」』に、ウォーカー氏のDBからはBOSとOUSAの図書館にリンクが張られている。

Created in 2008 by Origami artist Yamaguchi Makoto, this was the fifth installment^[1] of the International Origami Copyright Conference. So far, the Japan Origami Academic Society (JOAS) has organized and administered the meetings with the support of its board members. This article provides an overview report of the 5th International Origami Copyright Conference.

Introduction

This conference was notable given the participation of Dennis Walker from Scotland, 18th Origami Tanteidan Convention Yoshino Issei Fund special guest and creator of the Origami Database.^[2] Also, funded by the Origami Intellectual Rights Studies of JOAS, Oka Masao from Kyushu, creator of the Origami Index (Origami "ABC")^[3] was invited. The theme of the conference was centered around Origami Copyright and Database, which promoted discussions of the present situation and challenges faced. As indicated in Figure

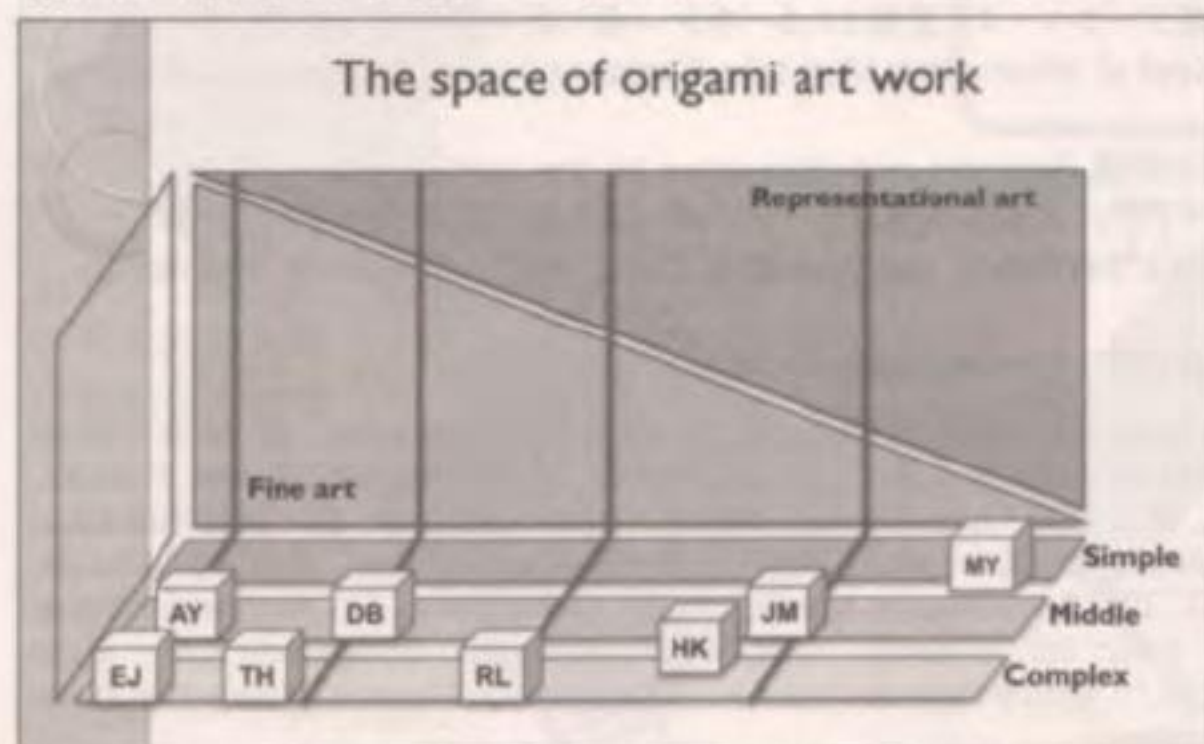


図2 スライド2枚目/ Figure 2: Slide 2

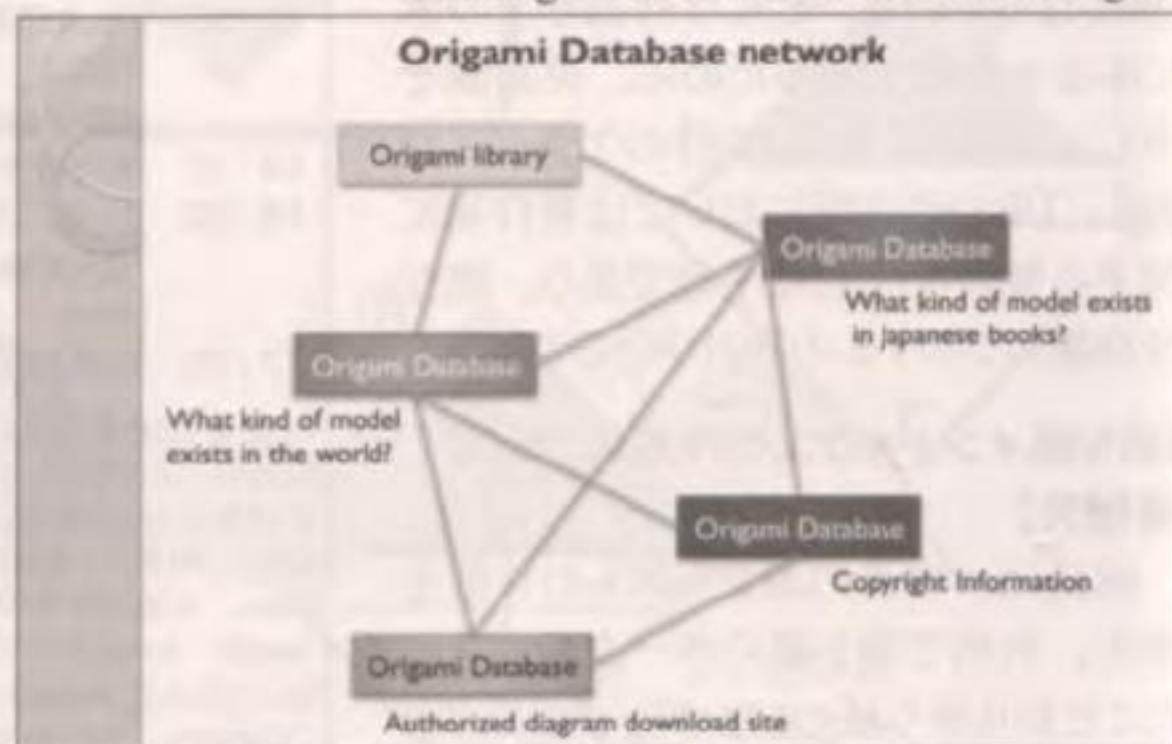


図3 スライド4枚目/ Figure 3: Slide 4

1, three topics were presented during the initial half, while the format for the second part was based on free discussions among the participants. Details of the proceedings of this conference were recorded in both English and Japanese, and are available for viewing at the JOAS library.

Keynote lecture: Dennis Walker

Dennis initially created the Origami DB around 1991 to sort out his own collection of Origami books and BOS magazines. With widespread use on the Internet beginning around 7 years ago, he enhanced his system with functionalities such as searching over the network and the uploading of images by users. Currently, the Origami DB contains about 45,000 models (that have a diagram or crease pattern published) providing information like the model name and creator. On average, the site receives about a thousand hits a day, mainly from English speaking countries, by users searching for a model or Origami book. The Origami DB is currently in the design phase for a future planned version that will implement copyright attributes.

About the Construction of the Origami Index: Oka Masao

Oka Masao also initially created a list of books for his personal use. As he joined the Kyushu Origami group, he made the Origami Index public. He started entering data in 2001, and as of August 1st, 2012, the Index now contains 39 books and 622 magazines from the Nippon Origami Association (NOA), Origami House and JOAS, for a total of 8,990 models that can be searched. The data of the Index is managed in an Excel spreadsheet, and then converted into HTML so that it can be posted to the web. In addition, it contains the table of contents of another 180 books.

Both the Origami Index and Origami DB face common challenges: for example, the problem of integration in the case of a similar model that is published in multiple books, or the fact that maintenance is solely based on volunteer work. It feels like the current systems have already reached their limits. Also, even though it is possible to associate a model name with the book in which it was published, it is difficult to organize photos of the finished model. And there is the not so uncommon situation where books are hard to access or are out of print. The Origami DB maintained by Dennis allows pictures taken by volunteers to be uploaded. However, this is not the only service that could be provided. It would be conceivable to ask for a license for different uses of the publication. But incentives are not clear for the individuals that either receive or grant the license, in other words the user or copyright holder respectively. The Database Index of Oka Masao supports Japanese language only, but Dennis' Origami DB presents some

additional challenges in trying to address other languages, in particular with respect to the complexity resulting from the differences in the format of foreign names.

What Kind of Information Might Be Registered into an Origami DB: Nishikawa Seiji

With participation from database creators from both the West and Japan, it was possible to share some current issues. Nishikawa Seiji presented some slides to motivate discussion.

Slide 1: Figure is omitted.

1. JOAS created guidelines back in 2005 and has been researching the subject since then, specifically, how to build a compromise between the law and Origami creativity. For example, computer programs by nature faced technological issues that could not be sorted out with copyright. However, because of its significant economic value, it resulted in the creation of specific new laws. Generally legislation comes after the fact. At the present moment, laws specific to Origami are out of question. Therefore, it is necessary to keep in mind the perspective of trying to achieve reconciliation. At this point, we would like to take the position that Origami is fundamentally a form of fine art. In that case, "to fold" means "to copy"^[4]. This means that the creator should have the right to restrict copying (folding). Publication by the author may give implicit permission "to copy" (to fold) for personal use. However, it would be wrong to distribute copies of diagrams to third parties beyond the scope of personal use, allowing them to perform an unspecified number of copies.

2. Now, the right to restrict copying is a very strong statement, and is not the only case to focus on. The artist might want to take into account their contribution to cultural development, and want to release their rights in a controlled way.

3. It is possible to come up with a broad interpretation of fine art, in which case simple shapes (for example, simple hearts or cubes) may require active theoretical discussions in order for them to be treated as valid subjects of copyright.

4. We believe based on this reasoning, that the majority of Origami models accepted as creations can be considered "copyrightable". Even simple models contain plenty of expression as a design.

Slide 2: Figure 2 -The space of origami artwork

This is a chart describing of the universe of Origami models. For example, EJ stands for Eric Joisel. He presented a strong tendency in style towards both fine art and a high degree of complexity. On the other hand, another important aspect of Origami is that it allows any individual to fold a model by themselves (using a diagram) and promotes joy through the process of folding. In that

case, we want to consider positioning Origami as a representational art. From that point of view, an argument exists to compare Origami to music. Now, it is not possible to find a law that fits anything that is like music but at the same time is considered a fine art. However, if we want to work harmoniously with current law, it will be necessary to consider a discussion based on fine art.

Slide 3: Figure is omitted.

This slide depicted an example of a possible database schema with copyright attributes. If we consider "folding" as one form of "copy", then we can define "permission" as "permission to copy". In general, even though there is no need to mention about "fair use", it is probably recommended to explicitly describe it. When dealing with a large number of individuals, inevitably there will be differences between free and commercial situations. Contact details will be needed in order to ask for permission. Therefore, a "list" indicating the copyright position of each creator would be useful in such cases. For instance, the Wagtail model by Nishikawa Seiji was used on the cover of a CD jacket without permission.

Slide 4: Figure 3

A Database, like the ones created by Dennis Walker or Oka Masao, has the purpose of organizing information about all the Origami models that exist in the world (or Japan). In addition, it can assist with the function of a download site authorized by the copyright holder, a copyright information database, etc. Now is the time to look into modern networking. Future solutions offering links from libraries to access out of print publications might then become reality.^[6]

Keep in mind that this is a conceptual diagram. The question of implementation is a separate issue. What we know at the present moment is that a properly maintained download site of authorized content or database with copyright information does not currently exist. (To be continued)

Notes:

- [1] Past International Origami Copyright Conferences: 1st October 2008 JOAS Hall, Tokyo. (Issue 112, Origami Tanteidan Magazine, 2008)|2nd June 2009 OrigamiUSA Convention, NYC. (Issue 117, Origami Tanteidan Magazine, 2009)|3rd August 2010 Held jointly with JOAS lecture. Toyo University, Tokyo. (Issue 123, Origami Tanteidan Magazine, 2010)|4th August 2011 JOAS Hall, Tokyo. (Issue 129, Origami Tanteidan Magazine, 2011)
- [2] <http://www.origamidatabase.com/>
- [3] <http://homepage2.nifty.com/noachikugo/aiueo/001.htm>
- [4] Issue 76, Origami Tanteidan Magazine, 2002. "Close-up" article "Columbus Egg" by Sakasegawa Takashi describes a similar point.
- [5] For example, the model "Action Heart" is clearly not simply a piece with a format of a heart, but rather a creative expression.
- [6] In fact, links exist from the JOAS Library page to Origami "ABC", and also from the Origami DB of Dennis Walker to the BOS and OrigamiUSA Libraries.

折形算法散歩

Strolling around Origami Math in Japan

前川 淳

Maekawa Jun

其ノ三 一之宮神社と竜湖寺 - 折鶴の計算問題 -

No.3 Ichinomiya Shrine and Ryuko-ji Temple — Computational Problems of Orizuru —

折鶴の計算問題

和算において、折鶴をあつかった計算問題が、五問確認できている。年代順に並べる。

- (1)『算法身之加減 補遺』(天保元年 1830)の一問
- (2)『常用算法』(嘉永六年 1853)の一問
- (3)竜湖寺(千葉県印西市物木)の算額(文久元年 1861)の一問
- (4)一之宮神社(千葉県印旛郡栄町矢口)の算額(明治十年 1877)の一問
- (5)湯殿山神社の摂社・市田神社(山形市)の算額(大正六年 1917)の一問

(1)は、奥州二本松藩、最上(さいじょう)流の算学者・渡辺一(わたなべかず 1767-1839)による未刊行の書で、(2)は、渡辺の弟子である奥州三春藩の佐久間纈(さくまつづき 1819-1896)が、(1)の内容を紹介したものである。(1)の前書きによると、この問題は、渡辺が最上流の祖・会田安明(あいだやすあき 1747-1817)に呈上したもののひとつで、渡辺が会田に師事していた天明八年(1788)から文化九年(1812)につくられたものと推定される。また、(5)は、会田の没後100年を記念して、流派の最後の門徒というべきひとたちが奉納したものである。

このように、折鶴の計算問題の源流は、最上流の会田-渡辺-佐久間という系譜にあったと考えられる。これに関しては、(5)を取材した『折紙探偵団』111号のエッセイ・『スキップで折紙散歩 算法・奥の細道』でも触れたことがある。

いっぽう、(3)と(4)も関連している。(3)は糸川啓三郎(生没年不詳)、(4)は児島敬和(生没年不詳)が奉納したものだが、彼等は、印旛地方に多数の門

人があった長谷川規一(はせがわきいち 1807-1865)の兄弟弟子である。ここで疑問として浮上するのが、渡辺、または佐久間から長谷川への伝達があったのかということだ。

長谷川は和算の最大流派・関流に属している。いっぽう、佐久間らの最上流は、関流への反発をひとつの契機として生まれた流派である。ただ、流派があるとはいえ数学は数学であり、相互交流もあったことは、次のような、佐久間そのひとの伝記的事実からも明らかである。

佐久間は、天保十三年(1842)と安政五・六年(1858-1859)に、「算術修行」と称して、ほとんど日本一周という旅にでている。その途中で関流の算学者に会っているという記述もある。天保十三年の旅程には印旛地方が含まれている可能性が高いので、佐久間と長谷川が直接交流したこともありうる。

このように、折鶴の計算問題は、その伝播過程も興味深い。また、成立年代が『千羽鶴折形』(寛政九年 1797)の出版年代に重なることも注目したいが、それらの調査はまだ今後の課題である。以下は、この10月に現地で取材した、千葉県の算額を具体的に見てみたい。

一之宮神社の算額

一之宮神社の算額は、いまでも神社拝殿の左側に懸かっている。しかし、極度に痛み、絵がかろうじて判別できるだけで、文字は一文字も読めないものになっている。図も剥離が激しく、板には虫食いもある。この状態は、『千葉県の算額』(1970)の調査記録に「判別できない」とあるように、ほぼ40年前からのものである。懸額者と年代が判明しているのは、「地元の古老

による証言」(1960年頃 大野政治氏の調査)に基づくものである。

なお、同社を参詣したさい、社地の清掃をしている地元のひとに、興味深い話をふたつ聞いたので書き加えておく。ひとつは、最近、この算額の科学的調査が行われたということである。詳細は未確認だが、やはり文字を読み取ることはできなかったという。そしてもうひとつは、懸額者・糸川啓三郎の子孫に関する話である。彼等はいまでも近くに住んでおり、「屋号のようなものがあって、『そろばん』さんって言うんだよ」ということであつた。



写真1 千葉県印旛郡栄町矢口 一之宮神社の拝殿



写真2 一之宮神社の算額(1877)



写真3 一之宮神社の算額 部分

○前川 淳(まえかわ・じゅん)=日本折紙学会評議員。和算と折り紙に関しては、調べるほどに調べることが増えていますが、この短期連載は、とりあえずの最終回です。



版画：鳥海太郎

写真1、2、3に、神社の社殿と算額を示す。右から、折鶴、円、円が内接した楕円、ドーナッツを半分に切ったようなかたちが見えるが、術文は痕跡も見いだせない。

竜湖寺の喪われた算額

いっぽうの竜湖寺(写真4)の算額であるが、これは、残念ながら行方がわからない。『千葉県算額』によると、1969年の調査で存在が明らかになり、判読困難のため、成田山資料館に一時借用して分析したという。その時点までは、たしかに存在しており、それゆえ、図と術文も記録されている。しかし、竜湖寺の方丈さま(禅宗の住職のこと)の奥さまからも話をうかがったのだが、すくなくとも1986年の本堂改築以降は、どこにあるのかはわからなくなっているという。なお、竜湖寺は、畳2枚分もあるかという極彩色の安産祈願の絵馬が何枚も奉額された「絵馬の寺」として知られる寺でもある。

図1が、1969年に写しとられた内容である。ただし、図はすこし変えてある。『千葉県算額』の図は、折鶴の絵が歪み、実物をそのままトレースしたものとは思えないものになっている。図が純粹に幾何学的な図でないためだろうが、折り紙好きにとっては違和感が強すぎるので、ここに示したのは、



写真4 千葉県印西市物木 竜湖寺の山門と本堂

一之宮神社のものも参考にして、勝手ながら若干の修正を加えた。

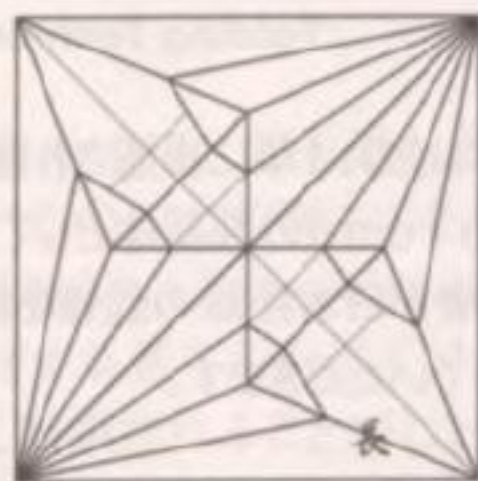
さて。上記で「ほぼ写しとられている」と書いたが、実は、『千葉県の算額』でも指摘されているように、最も重要なことが読み取れていない。問題を現代文にすると「正方形の紙で鶴を作る。長さを決めたとき、もとの正方形の大きさはいくらか」となるのだが、図に描かれていたであろう「長」がどこのことかわからないのだ。ただ、それは、答えから推測ができる。答えを数式にすると「正方形の辺 $=\frac{(\sqrt{2}+2)+1}{2} \times \text{長}$ 」である。このことから「長」というのは、折鶴の羽根の長い辺の長さであると推定される(図2)。

前出の『當用算法』(『算法身之加減』の引用)の問題は、羽根の付け根



今有如图以方紙作鶴
長若干同原方紙幾何
答曰如左術
術曰置二個開平方加二個
開平方加一個乘長徑得方紙
合同

図1 竜湖寺の算額(1861)の問題(写しを修正)「長」がどこか不明



$$\frac{2\sqrt{2}+2+\sqrt{4+2\sqrt{2}}}{\sqrt{4+2\sqrt{2}}} = \sqrt{2+\sqrt{2}}+1$$

図2 竜湖寺の算額の問題の「長」はどこか?

の幅から羽根の中心線の長さを求める問題で、市田神社の算額の問題は、(解答に疑問があるが)正方形の辺の長さから羽根の中心線の長さを求める問題である。竜湖寺の問題は、それらとも若干異なっていたことになる。文章がまったく読み取れない一之宮神社の問題も、すこしだけ異なった問題だったのではないだろうか。

児島敬和の算額には、問題の詳細は検討していないが、ほかに、天球の座標を計算する問題とサイクロイド曲線と思われる問題が記されている。筆者は、折り紙をライフワークとし、天文計算を生業としているので、150年の時を超えて、伝記的事実がまったくわからない児島敬和という幕末の人物に強い親近感を持った。そして、里山と郊外住宅地がモザイク状になった、どこか過去と現在が同居するような風景の中を歩き、はたまた福島市の図書館で古文書の写しに触れながら、ひとの一生を超えた年月のことを考えた。

- 主な参考文献
 [1]『千葉県の算額』(1970 平山勝、大野政治、三橋愛子)
 [2]『山形の算額』(1966 平山勝、松岡元久)
 [3]『算法身之加減について その一』(1977 福島県和算研究保存会)
 [4]『船引町文化財集 七 佐久間康軒の旅日記』(1990 船引町教育委員会)
 [5]『例題で知る日本の数学と算額』(1998 深川英俊)
 [6]『當用算法』(1853 佐久間康軒)
 [7]『算法身之加減 補遺』(1830 渡辺一)

折紙図書館の本棚から

From the Bookshelves of the JOAS Library

三谷 純

Mitani Jun

折紙

世界な体

33冊目『デザイナーのための折りのテクニック 平面から立体へ』

ポール・ジャクソン著・三谷 純監修

"Folding Techniques for Designers (Japanese Edition)" by Paul Jackson

この本は2011年に出版された『Folding Techniques for Designers: From Sheet to Form』の邦訳本として2012年9月に文化出版局より出版されました。縁あって筆者が日本語版の監修を担当させていただきました。今回は本書の内容をご紹介します。

著者のポール・ジャクソン氏は、長年にわたって折り紙作品の創作と、折り紙を通じたデザイン教育、企業コンサルタント、書籍執筆など、「折ること」に関する様々な分野で活躍をしています。

タイトルに「デザイナーのための」という文言が含まれるように、本書が対象としている読者はファッションやインテリア、建築、グラフィックなどを含む、幅広い分野のデザイナーたち、または将来デザイナーになることを目指す人たち、そしてデザインに関心を持つすべての人たちです。

本書はそういった読者層に、素材を折ることによって現れる造形の妙を伝えることを目指し、そして見事にそれを実現している書籍であると言えます。

オリジナルの表紙(図1)には、風船の基本形が並ぶ造形が使用されましたが、邦訳本では、正六角形の紙を

同心円状にジャバラ折りすることで得られる立体的な造形の写真が採用されました(図2)。

表紙の写真が示すように、動物や植物のような具体的なカタチを折るのではなく、たとえば山谷の折りが規則的に表れるジャバラ折りを基本としたシンプルなパターンから、一定のリズム感や対称性を持つ美しい陰影が現れることを、全体を通して紹介しています。具体的な折り線図と、その折り手順、バリエーションの増やし方、そして大きな写真が随所に用いられ、折りの技法で得られる造形の美しさを伝える内容となっています。

本書の「序」において、著者は「紙を折ること」と「具体的な形を紙で作ること」は「まったくの別物」と述べています。私たち日本人の多くは、幼少期から鶴や兜、小鳥などの伝承的な折り紙に触れてきたため、折り紙とは具体的な形を折るものだ

この連載では、折紙学会図書館に所蔵されている資料の中から、興味深いものを選んでご紹介しています。折紙図書館の蔵書は、折紙探偵団ホームページから検索できます。詳しくは、<http://origami.gr.jp/Library/> にアクセスしてください。

思い込んでしまう傾向があります(私自身もそうでした)。そして著者もまた、長年にわたって折り紙を愛好してきたことから、具体的な形を折ることばかりに関心が行ってしまったと述べています。一方で、いざ教育の場に立って折り紙を教えることになり、デザインのために必要なのは、「麒麟の折り方」の知識ではなくて、素材を「折る方法」であることに気付いたと述べています。

本書の中では、基本的なジャバラ折りから始まり、プリーツの作り方、V字型の折り、箱や升の作成、点での折り、揉み、など、私たちが「折り紙」として最初にイメージする世界とは異なる、各種の折りの技法を紹介しています。どれもシンプルで、基本的なものばかりですが、これこそが新しいデザインを産み出すために必要な「折り」の構成要素群であると言えるでしょう。

具体的には、次のような構成となっており、各章でそれぞれのテーマに沿った折りの技法で得られるバリエーションを、折り線図と写真を用いて紹介しています(太字は本書を構成する全8章の見出しです)。

1. 基本コンセプト

16, 32, 64分割の基本ジャバラの折り方。扇形のジャバラや、並進・鏡映・回転、変形を含むジャバラのバリエーション(図3, 4)。

2. 基本のプリーツ

ジャバラのパターンの山谷の繰り返し順をアレンジすることで、アコーディオンプリーツ、ナイフプリーツ、ボックスプリーツと名付けられた、各種のプリーツが折り出される。



図1. 『Folding Techniques for Designers: From Sheet to Form』の表紙



図2. 邦訳版『デザイナーのための折りのテクニック 平面から立体へ』の表紙

読者プレゼント

新刊書『デザイナーのための折りのテクニックー平面から立体へー』ポール・ジャクソン著、三谷 純監修(文化出版局)を抽選で2名にプレゼント!! ご希望の方はハガキ又はメールにて、お名前、ご住所、電話番号と年齢、書名をお書き頂き、次の宛先までお送りください。締め切り:12月10日/応募先住所:113-0001東京都文京区白山1-33-8-216 おりがみはうす宛/メールアドレス:info@origamihouse.jp

○三谷 純(みたに・じゅん) = 1975年静岡生まれ。筑波大学大学院コンピュータサイエンス専攻准教授。日本折紙学会評議員。



3. その他のプリーツ

ねじりやひねりを含むプリーツのバリエーション。

4. Vプリーツ

V字型をしたプリーツの組み合わせで作る造形。ミウラ折りのパターンも含まれる。

5. スパンとパラボラ

吉村パターン(ダイヤモンドパターン)に代表される、円筒形になるパターンと、表紙にも使われている正六角形(または正方形)をジャバラ折りし、それらを組み合わせて得られる

パラボラ型の造形。

6. 箱と椀

深さや幅の異なる箱、升、椀状の作り方と、そのバリエーション。

7. 折り目なしと一つ折り

1点だけ尖らせて、紙全体で曲面を含む造形を作る技法と、紙の途中まで伸びる1本の折り線から生まれる造形(図5)。

8. 揉み

紙を揉んでくしゃくしゃにして、皺だらけの状態から新しい形を作っていく技法の紹介(図6)。

本書の中で、繰り返し著者が述べているのが「実際に手を動かして折ってみましょう」ということ。折り紙を愛好する皆さんの多くが、これには深く同意されることでしょう。ジャバラ折りのような簡単なパターンであっても、実際に素材に触れて、手を動かして折る、という行為によって生じる素材の形の変化を観察することで、文章だけでは伝えきれない、折りの背後にあるなにかを感じ取ることができます。

そのため、本書では折りの手順が極めて丁寧に説明されています。たとえば、山谷が交互に並ぶ単純なジャバラ折りパターンの説明に、7ページも割いていることに驚かされます。

7章で紹介されている折り目なしの折りは、折り紙に長年携わってきた私たちをハッとさせるものです。揉みによる造形は、もはや折り紙とは別物のように見えます。これも「折り」と呼ぶのか、という驚きとともに、新しい刺激を与えてくれます。

本書で紹介されている折り線のパターンは付属のCD-ROMに収録されています。折り線のパターンの多くは、特に折り線を印刷しなくても折れるものばかりですが、拡大・縮小したり、繰り返しの数を増やしたり、そして一歩進んで、折り線への加工を行おうと考えた時に、CDに収録されているデータが役立つものと思われれます。

具体的な形を折ることに精力を注いできた折り紙愛好家の私たちも、ちょっと立ち止まって、「折り」とは何なのか、という原点に戻って考え直す機会を与えてくれる、そんな書籍だと言えます。

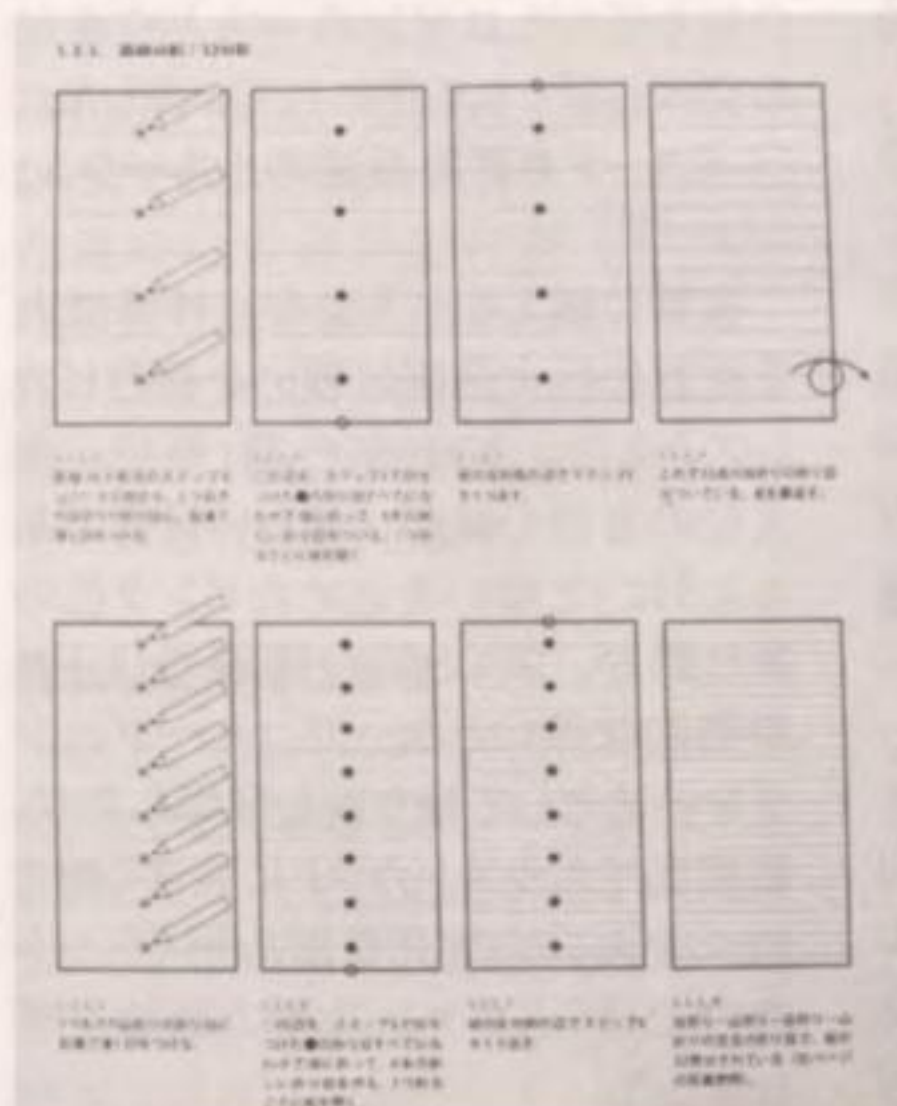


図3. 32分割のジャバラ折りの説明



図4. 並進対称をもつ折りのモチーフ

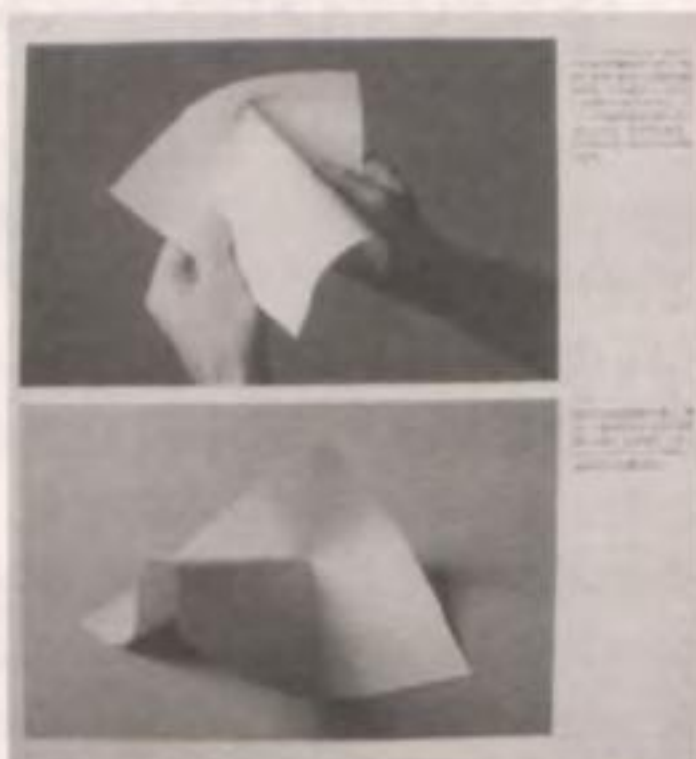


図5. 1点を尖らせて、紙全体で不思議な曲面を表現する「折り目なし」の造形



図6. 直線状に皺を作った後に、新しい折り配置して作った造形

ぼくらは 折紙探偵団

Here We Are, THE ORRIGAMI TANTEIDAN

第4回 アニメ化される折り紙

Anime-rized Origami

このコーナーでは、折り紙に関するちょっとした疑問を探求し、ちょっと面白い雑学的な豆知識をご紹介します。読者からの疑問、質問、追加の情報も受け付けていますので、お気軽にwebman@origami.gr.jpまで電子メールでお寄せください。

小松英夫

Komatsu Hideo

暮らしの中で、ふとしたものに折り紙を見つけると嬉しいものです。そんな中から今回は「テレビアニメに登場した折り紙」に注目してみたいと思います。90年代末に放映される番組数が急増し、現在はピークは過ぎたものの依然として年に100作以上が放映されていることもあって、アニメに折り紙が登場することはそれほど稀というわけではありません。ここ10年くらいは、1クール(四半期)中に何らかのタイトルで折り紙が登場する回を見つけることができます。

■折り紙の登場するアニメ

それでは、小道具として折り紙の登場するアニメをいくつか紹介しましょう。今回はアニメオリジナルの作品を取り上げることとし、漫画原作の段階から折り紙が出てくる作品がアニメ化されたというようなケースは除きました。

○『攻殻機動隊 S.A.C. 2nd GIG』(2004年)

未来の超高度情報社会における犯罪捜査を描いたシリーズの第2期。主人公の女性サイボーグと、彼女が追跡する男性サイボーグとの因縁めいた繋がりを、白い折り鶴によって象徴させています。具体的な関係が明かされる第11話では、飛行機事故から生き残った少年(かつての男)が、無事だった左手のみで折り鶴を折り続けるシーンが描かれます。およそ27秒にもわたって、鶴を折る過程を事細かにアニメートしたカットはクオリティが高く、真似して片手で折り鶴を折ってみるファンもいたようです。

SFものと折り紙はかなりの定番と言える取り合わせで、他にも、アヤメに似た花の折り紙(図1)が鎮魂のために宇宙空間に放たれる『機動戦士ガンダムSEED』(2002年)第7話や、最終回で紙飛行機が同じく宇宙に群舞する『銀河漂流バイファム』(1983年)、ヒロインの旅立ちに折り鶴が印

象的に使われる『宇宙のステルヴィア』(2003年)第9話など、いろいろあります。長い歴史と素朴な人間味を感じさせる折り紙が、科学技術の発達した未来社会で映えるからでしょうか。

○『おねがいマイメロディ〜くるくるシャッフル!〜』(2006年)第13話

サンリオキャラのアニメ化企画の第2期です。第1期でも折り鶴が登場する回がありますが、この第13話「気づいてくれたらイイナ!」は、折り紙の得意な関山君の淡い恋模様を描いた、折り紙がメインの回です。TVチャンピオンを彷彿させる折り紙対決シーンのクライマックスでは、実際に折った折り紙(勲章、手裏剣、奴さん、バラ)の写真を素材として爆発のエフェクトアニメを作っているのが面白い試みで、印象に残ります。ちなみにこの回の脚本担当は、「前川淳(あつし)」氏。読みは違いますが同姓同名ネタとして有名です。

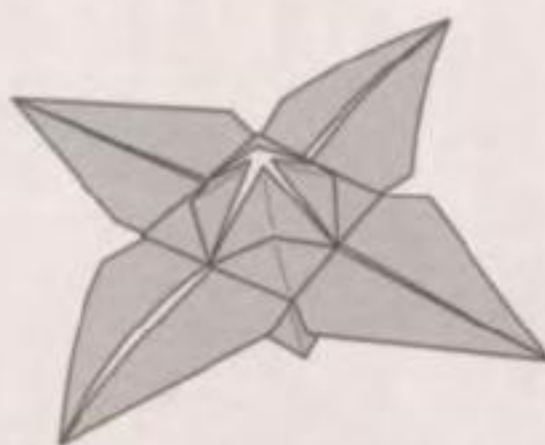


図1:『機動戦士ガンダムSEED』第7話より、花の折り紙。アヤメに似て非なるデザイン
※図はすべて筆者による模写

子供にとって身近な遊びということで、子供向けアニメと折り紙の取り合わせは相性抜群です。『ひめチェン!おとぎちっくアイドル リルぷりっ』(2010年)第38話は、街角で折り紙作品を配るおじいさんにまつわる心温まる一編で、折り紙描写も全編にわたってしっかりしています。『あにやまる探偵 キルミンずう』(2009年)の第18話では、怪盗「ビューティ・バット」の予告状が折り紙コウモリです。そして最近では、人気作『スマイルプリキュア!』(2012年)第19話で、狐の折り紙がヒロインの一人と亡き父の交流の証として使われていました。

○『コードギアス 反逆のルルーシュ』シリーズ

復讐に燃える主人公が、特殊能力を武器に巨大帝国に戦いを挑むピカレスクもの。2006年の第1期で、主人公の盲目の妹が「優しい世界であるように」と願いを込めたピンク色の折り鶴が、2008年の続編ではより象徴的な扱いとなって、オープニングを始めとして繰り返し登場します。最終回でもラストカットに大きく映され、主人公の生死を読み解くヒントなのでは?とファンの間で議論を呼びました。

○『sola』(2007年)

3人の少年少女を軸に繰り広げられる青春ファンタジーです。シリーズ全編にわたって折り紙が登場し(全13話中8話)、少年の病弱な姉と、少年の幼なじみの妹との、折り紙を通じた交流がたびたび描かれます。第5話にはアニメで登場する例があまり無いユニット作品(キューブ、図2)が登場したり、第11話、第13話では

○小松英夫(こまつ・ひでお) = 1977年生まれ。日本折紙学会評議員。7月に出させていただいた作品集をどうぞよろしく。



折り紙本も出てきたりします(折り図が明らかに笠原邦彦氏の「ぞう」)。

○『DARKER THAN BLACK-流星の双子-』(2009年)

超能力者のエージェントがバトルを繰り広げるアクションもので、全12話中9話に折り紙が登場します。特に、第1話でヒロインがノートの紙で折った羽ばたく鳥(中野獨王亭氏の作品)を動かすカットが出色の出来でした。

こういったシリアスな雰囲気のアニメにも折り紙がしばしば使われますが、SFもののケースと同様で、世界観との対比が効果的なのでしょう。『Witch Hunter ROBIN』(2002年)第20話では、超能力を持った連続殺人者が犯行現場に折り鶴を置いていたり、『BLASSREITER』(2008年)第21話では広島出身の男が折り鶴にメッセージを残したりします。

■折り紙の持つ意味

以上、見応えのある例を中心にピックアップしてみました。一口に折り紙と言っても、そこにはいろいろなイメージが託されていることがうかがえます。素朴な遊び、子供らしさ、純粋さ、和風、古めかしさ、人の温も

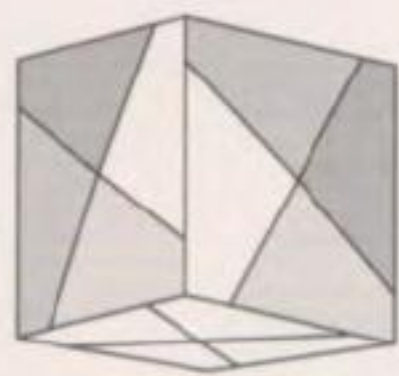


図2:『sola』第5話より(実際は手で持っていて底面は見えません)。単純な面部式ユニット(カラーボックス)ではないところがナイスですが、配色に对称性が無いところはマイナスポイント!

り、造形美、変化、祈り、希望……等々。視聴者にとって身近な存在ながら、さまざまな側面から感情を揺り動かし、物語を印象づける、そんなアイテムとして折り紙はとても適しているようです。

使われる折り紙作品の種類を見ると、やはり折り鶴(千羽鶴も含めて)が圧倒的に多く、ついで紙飛行機となっています。どちらも折り方が広く知られているのに加え、さまざまなメタファーになりうる高い象徴性を備えている点で、他の伝承作品から抜きん出ているのでしょう。紙飛行機について言うと、形状が作画しやすいこと、

★トリビア★

アニメ脚本家に前川淳さんという人がいる。

映像として間がよく持つ等の理由もあるかと思います。

■描かれた折り紙

実写の映画やドラマにも折り紙はしばしば登場します。先ほど触れた「物語における意味」でしたら、実写もアニメも同じようなものですが、アニメには実写にはない注目すべきポイントがあります。それは、やはり「画」であるということです。よく登場する折り鶴ひとつ取っても、どれひとつとして同じようには描かれていません。

中には我々折り紙愛好家の目から見ると「?」と思ってしまうような画も見かけます。30分のアニメでも通常10数人ものアニメーターが分担して作画しますから、同じはずの折り紙がカットによって形状がまちまちになっていることも珍しくありません。時間や予算に制約のあるアニメ制作で、



図3:『ヒートガイジェイ』(2002年)第10話、ラストシーンの兜。デフォルメの一種なのでしょうが、くわがたの形が不正確です

折り紙の描写にこだわるだけの余裕を持つことは難しいのですが、どこか奇妙な形の伝承作品などにはつい目が行ってしまいます(図3)。

折り紙愛好家から見て「変」な描写というのは、形状だけではありません。「折り始めた紙の大きさとできあがった作品の大きさが釣り合っていない」、「折り始めたと思ったら次の瞬間に折り上がっている」なども、リアリティを削

いでしまっただけかもしれません。

冒頭で紹介した『S.A.C. 2nd GIG』くらい力の入ったケースはそうそうありませんが、だからこそしっかりした描写に出会うと、スタッフを褒め称えたいくなります。今後もそのようなアニメに出会うことを楽しみにしたいと思います(奇妙な画もそれはそれで面白いのですが)。

■おわりに

読者の中にアニメ好きな方がどれくらいいらっしゃるかわかりませんが、今回の記事は偶然の出会いを奪ってしまうものなので、その点についてお詫びしておきます。

漫画原作ものの例にも面白い描写がされているものもあり、原作とアニメ版を比較してみるのも興味深いと思われますが、それらはまたどこか、別の機会に……。

かじかんで凝り固まった関節をぐるぐる回したり、あちこち引っ張り伸ばしたりして準備完了。
折り紙は指先だけの作業に見えるけれど、紙に意図を正確に伝えるには、全身の連携が必要な気がします。

「なでしこ1」「なでしこ2」

作：布施知子(P.4)

Pink-1, Pink-2: Fuse Tomoko (P.4)

■三角形の突起物が「五枚羽根のかざぐるま」の形に配置されていて、ちょっとノスタルジックな雰囲気を持つユニット。さらに加工を追加すると、「花びら」や「しべ」のようなイメージを強調したデザインになります。



「サンタクロース正四面体BOX」

作：やまぐち真(P.8)

Santa Claus Tetrahedron Box:
Yamaguchi Makoto (P.8)

■「サンタの顔だけの部品を付けて、いろんなものをサンタに変身させてしまうシリーズ」の最新作。今回は正四面体ボックスの胴体付きです。顔パーツと組み合わせた途端に、箱部分のインサイドアウト模様が存在感を発揮し始めます。

「不思議の国のウサギ」

作：松田景吾(P.22)

Rabbit in Wonderland:
Matsuda Keigo (P.22)

■ウサギ本体の上に、別の紙でつくった服を、文字通り「着せる」ことで完成します。服の模様や色調を考えた紙選びが楽しく、さまざまなポーズ付けでバリエーションもつくりやすい。友人と作品を持ち寄ってみると、それぞれに異なる細かな仕上げ、それぞれに特有の意外な着眼点に気付くことでしょう。



「箱ティッシュ」作：谷田尚之(P.26)

Facial Tissue Paper Box: Yada Naoyuki (P.26)

■どこからどう見ても、それ以外のものには見えない快(怪?)作。メーカー名のロゴを印刷した紙でも折ってみたいくなりますが、「これが折り紙作品であること」がますますわかりにくくなりそう。



「へび」作：小松英夫(P.31)

Snake: Komatsu Hideo (P.31)

■何度も折れ曲がって絡み合う細長い胴体を、直接的にそのまま表現するのではなく、表裏の色を巧みに使ってまとめあげています。「用紙全体を存分に活用する」「紙の対角線よりも長い体を表現する」など、「折り紙でならではの面白さを持った蛇作品」にするためのさまざまな取り組みが盛り込まれています。

World Origami Days テーマ展より

Thematic Exhibits for the World Origami Days

“折り紙のへびって”展

Origami Zodiac Snakes



Kosuge Akihiro



Okamura Masao



Kamiya Satoshi



Mindaugas Cesnavicius



Takahashi Yukinori

2012 My Best/My Favorite展

My Best/My Favorite 2012



Tsuda Yoshio



Kawahata Fumiaki



Kimura Yoshihisa



Kawasaki Toshikazu



Nishikawa Seiji



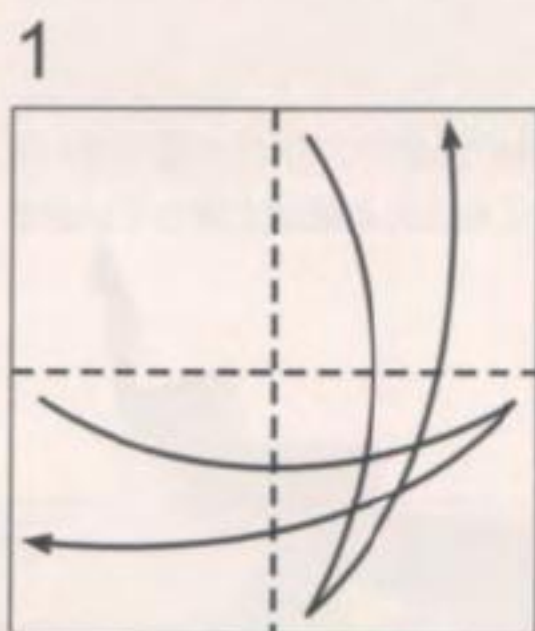
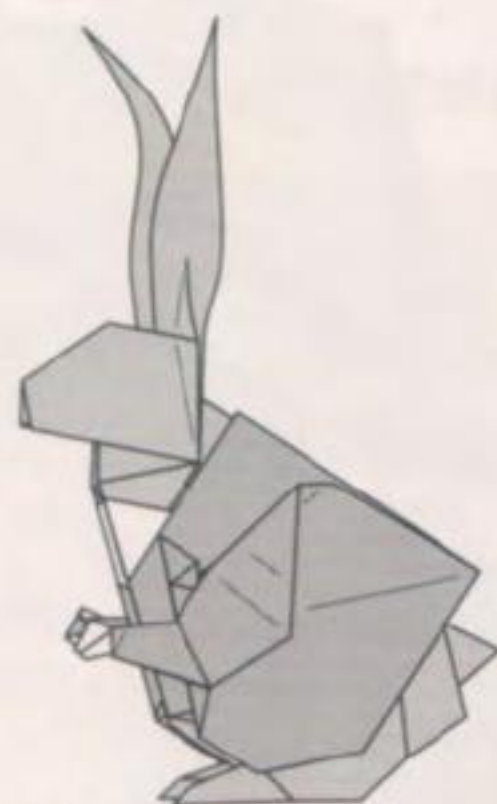
Hojyo Takashi

不思議の国のウサギ

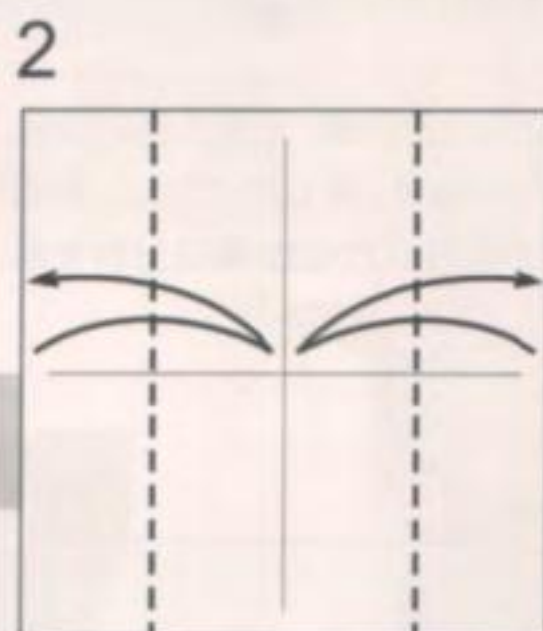
— Rabbit in Wonderland —

松田 景吾
Matsuda Keigo

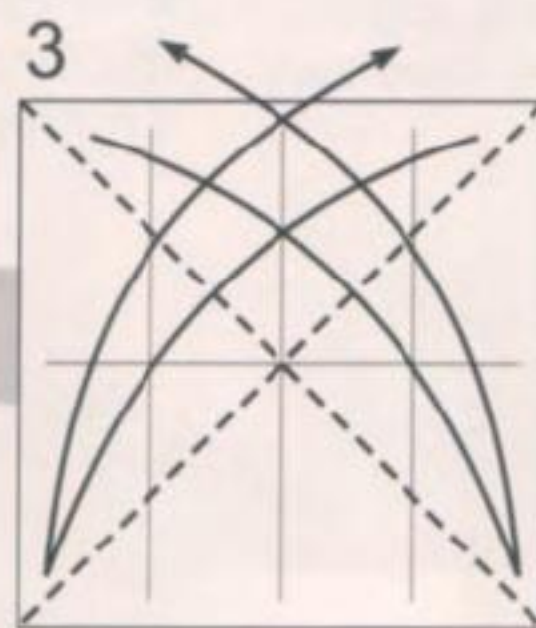
【ウサギ(本体)】



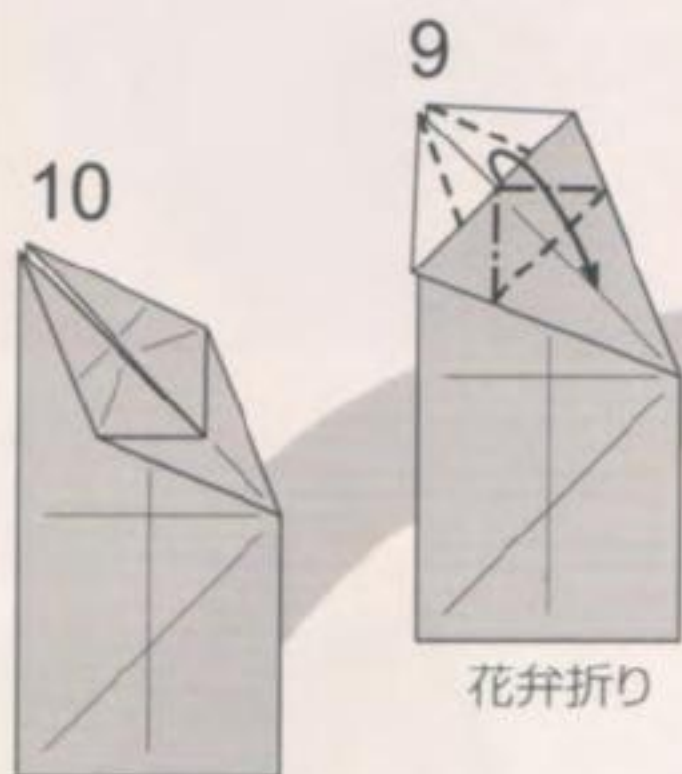
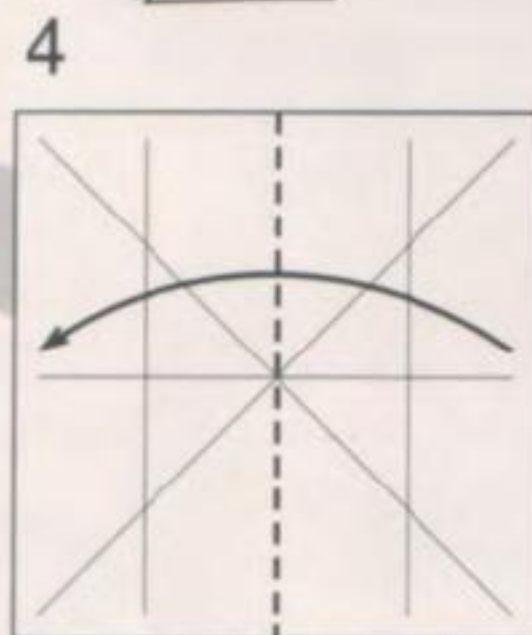
折りすじをつける



折りすじをつける



折りすじをつける



花弁折り



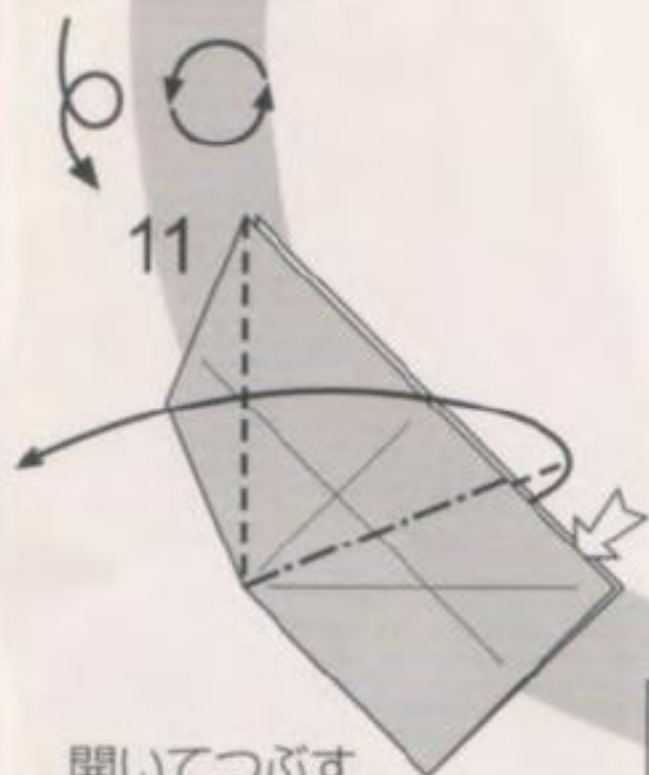
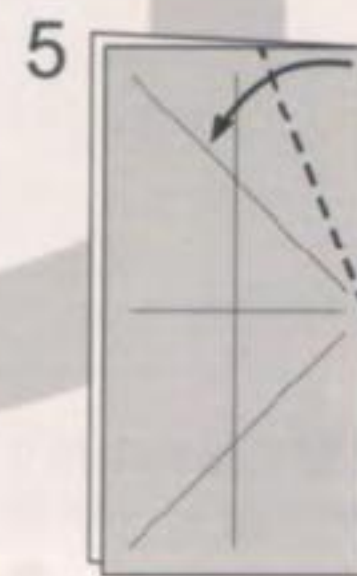
開いてつぶす



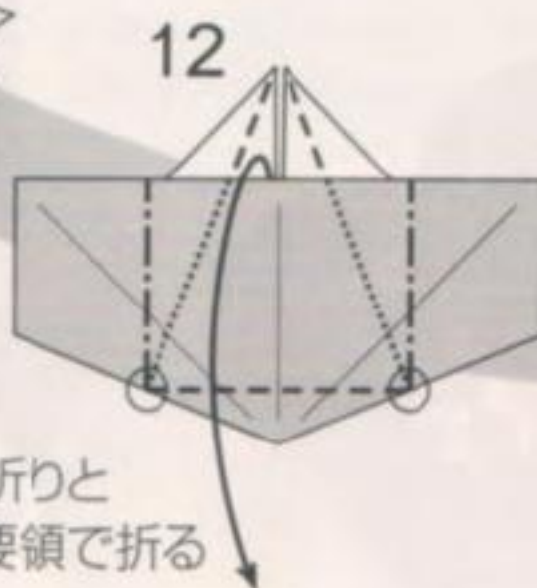
5 の状態に戻す



つまみ折り



開いてつぶす

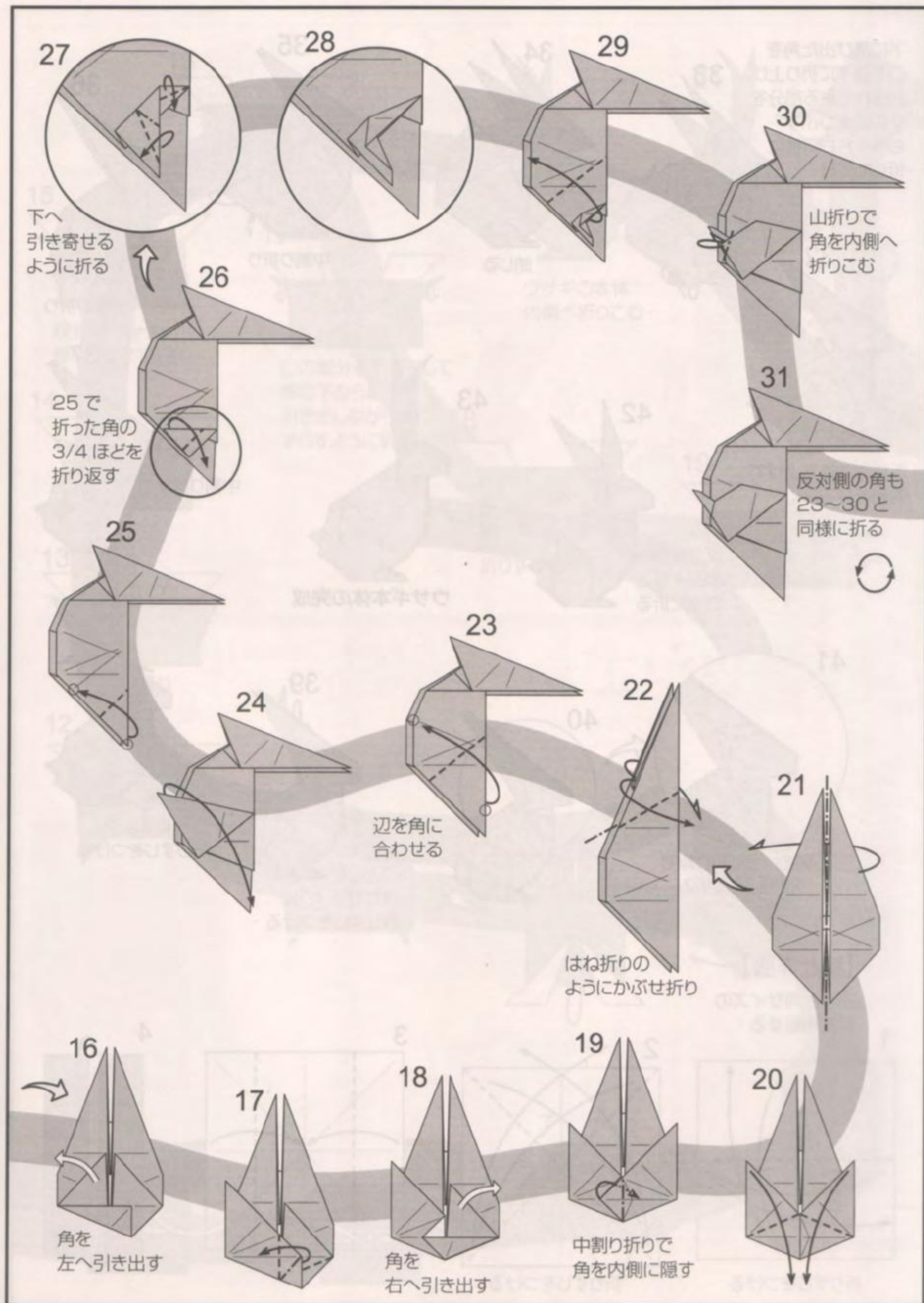


花弁折りと
同じ要領で折る



左右とも
開いてつぶす

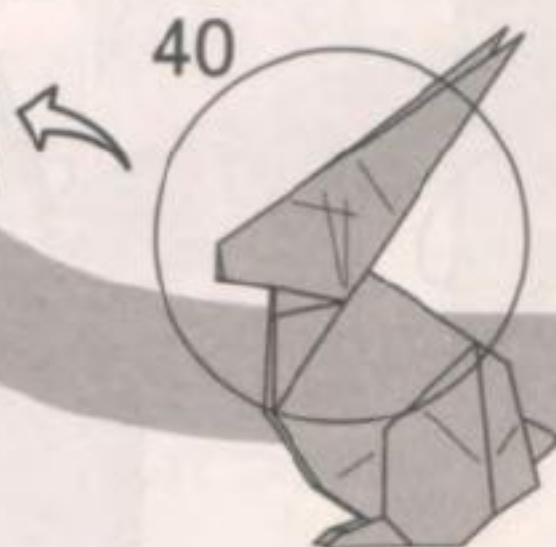
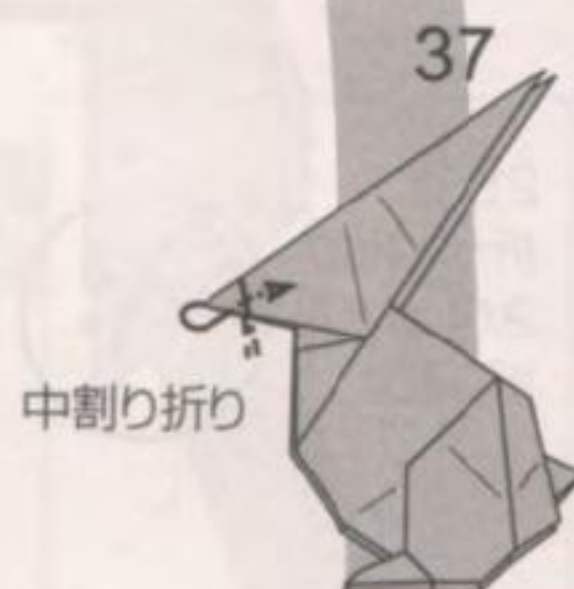
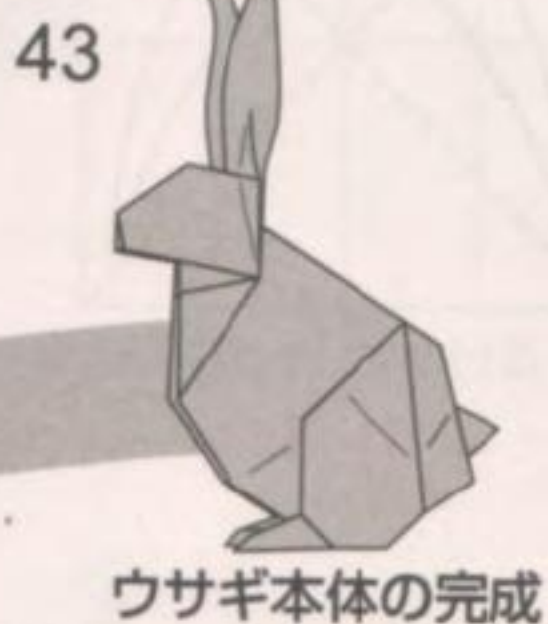




下に飛び出た角を
○を基準に折り上げ、
吊られて来る部分を
そのままつぶす
もう一方も同様に
折りたたむ

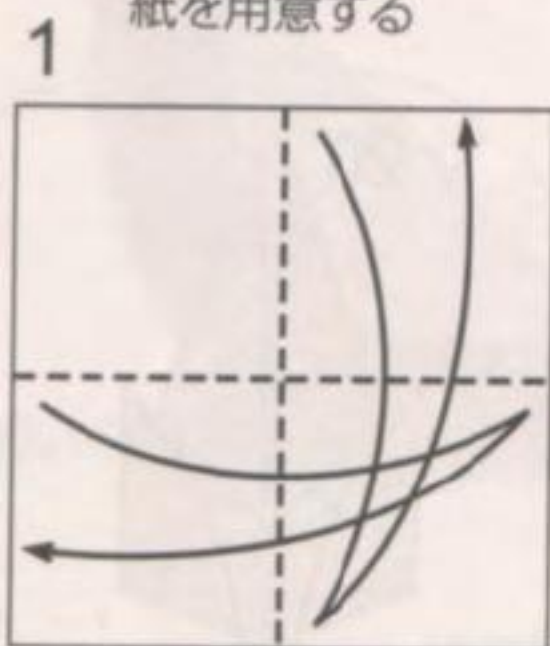


手前側を持ち上げて
内側を見る

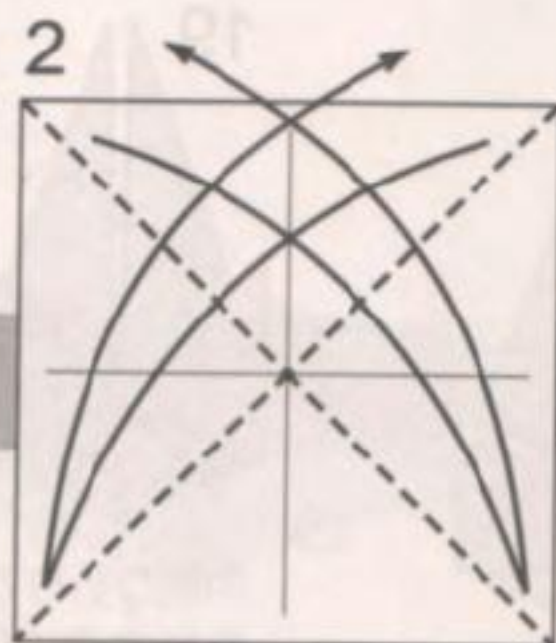


【腕と洋服】

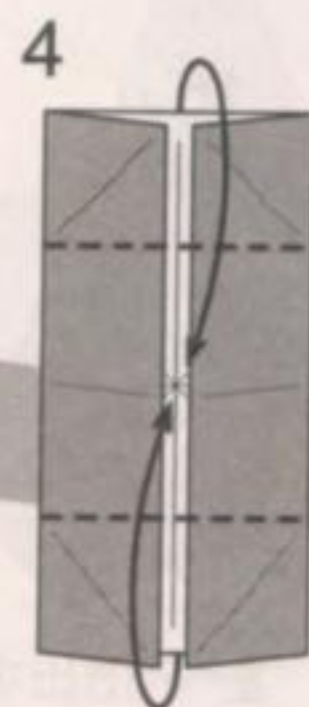
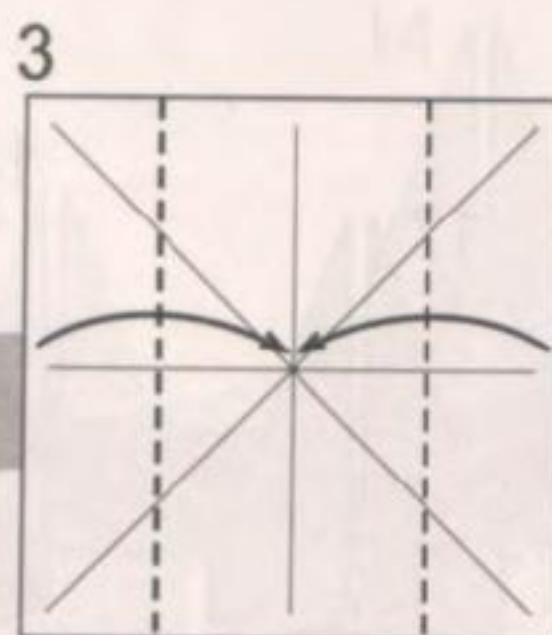
本体と同サイズの
紙を用意する

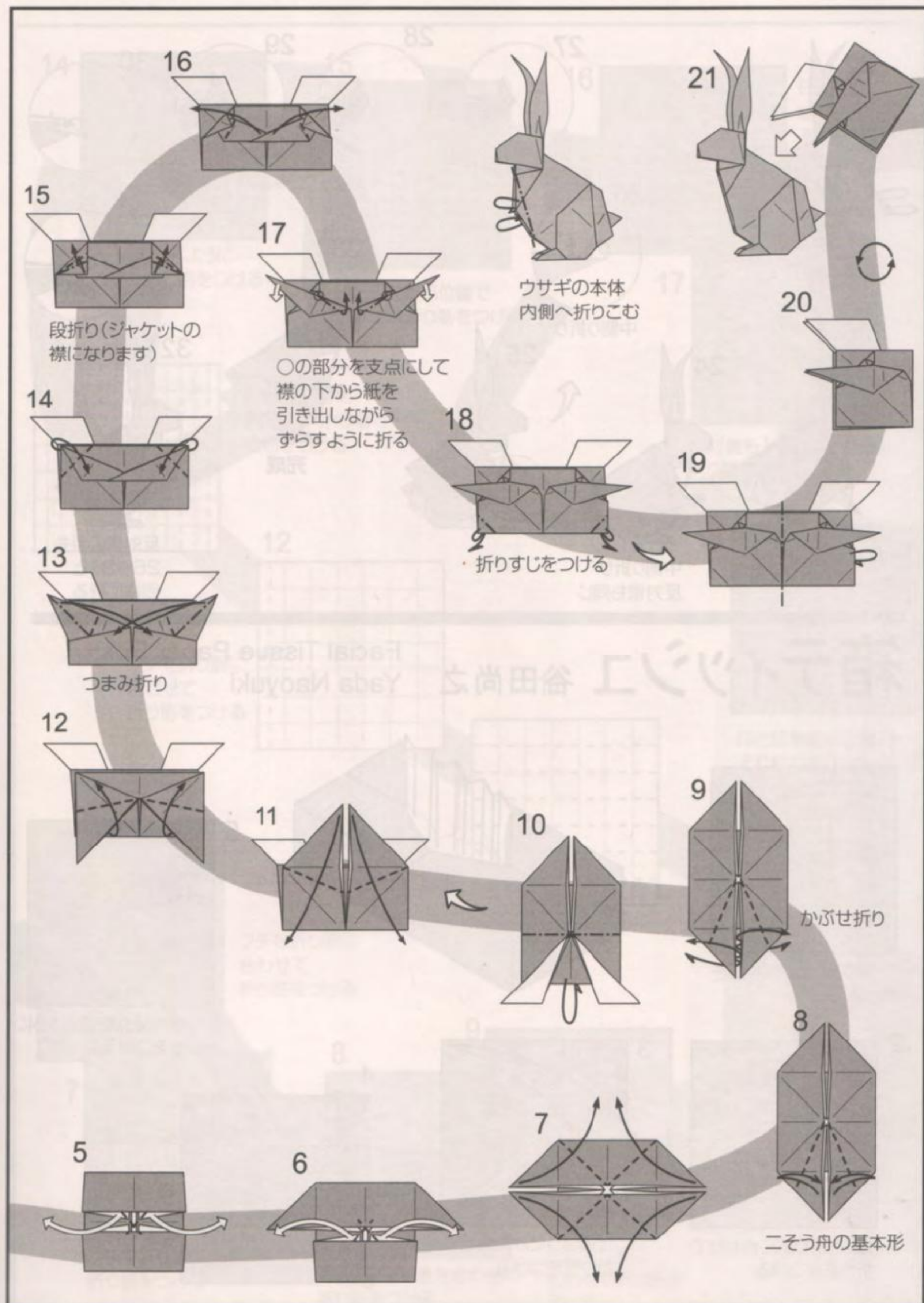


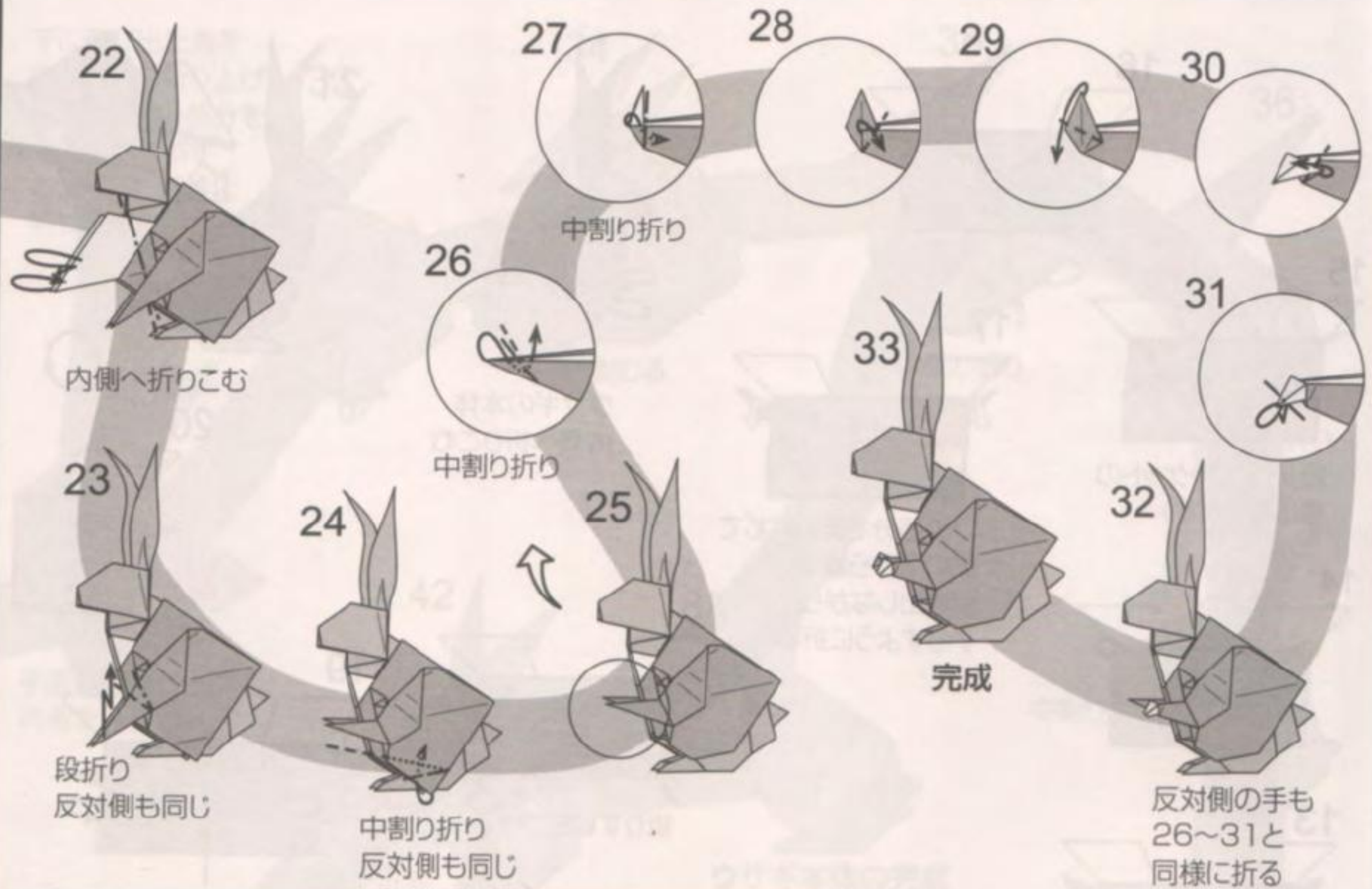
折りすじをつける



折りすじをつける

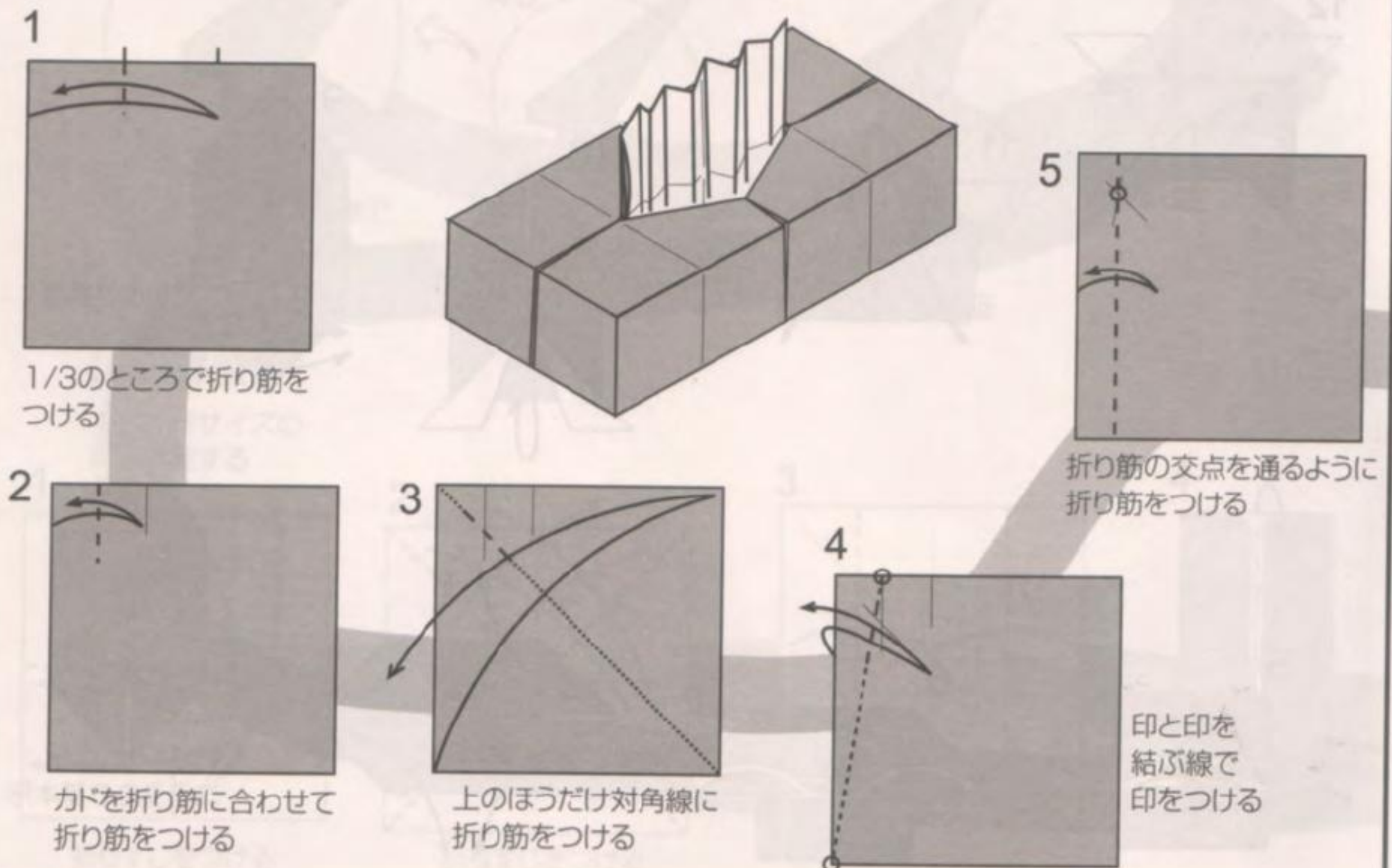




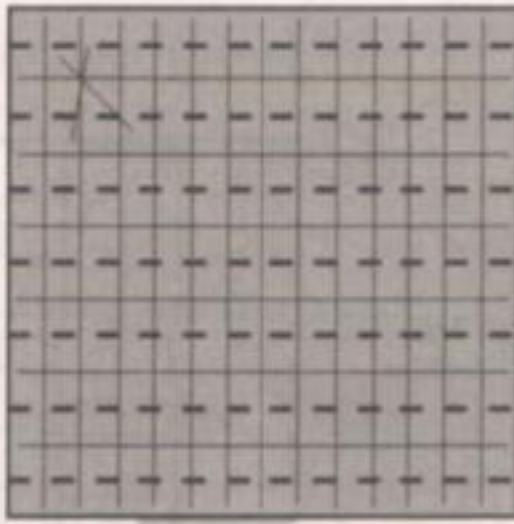


箱ティッシュ 谷田尚之

Facial Tissue Paper Box:
Yada Naoyuki

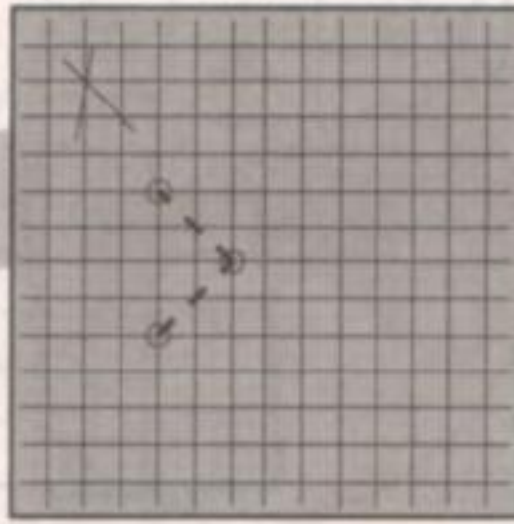


14



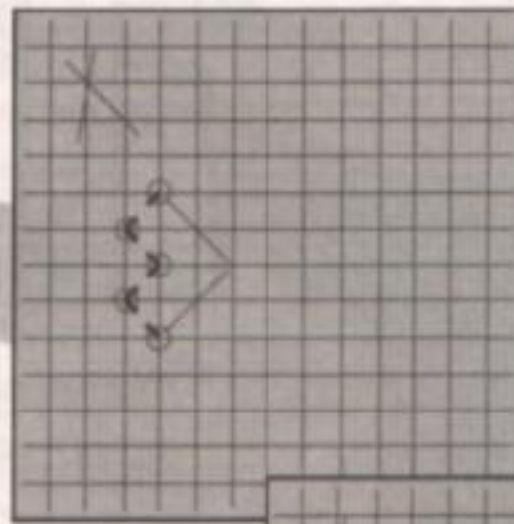
12、13と同じように
それぞれ折り筋をつける

15



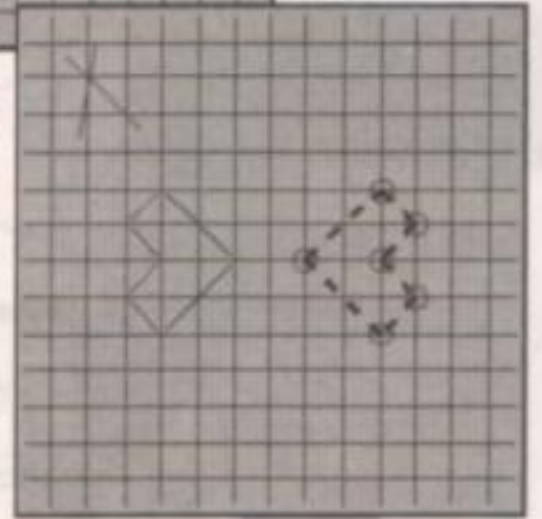
印と印を結ぶ位置で
それぞれ折り筋をつける

16



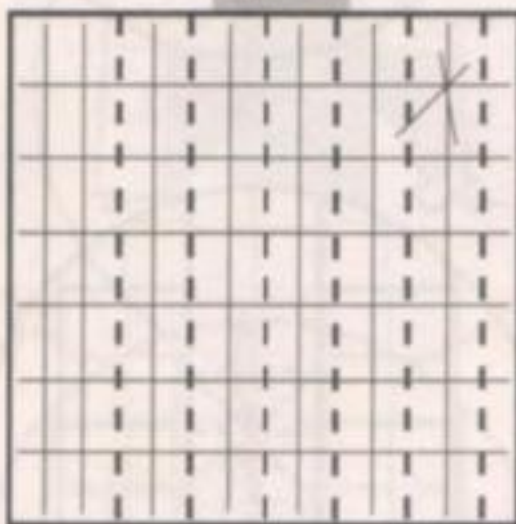
印と印を
結ぶ位置で
それぞれ
折り筋を
つける

17



反対側も15、16と同様に
折り筋をつける

13



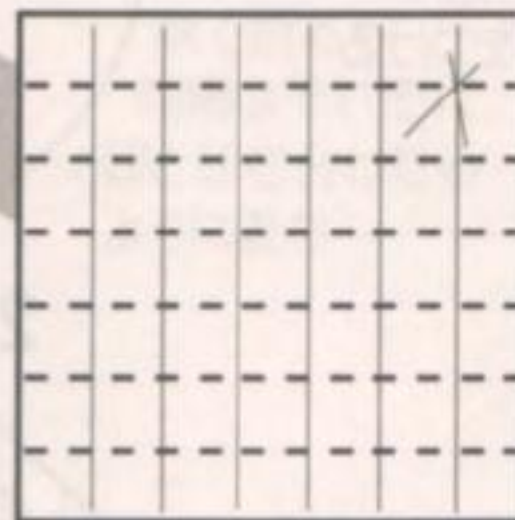
12と同じように
それぞれ半分の幅で
折り筋をつける

12



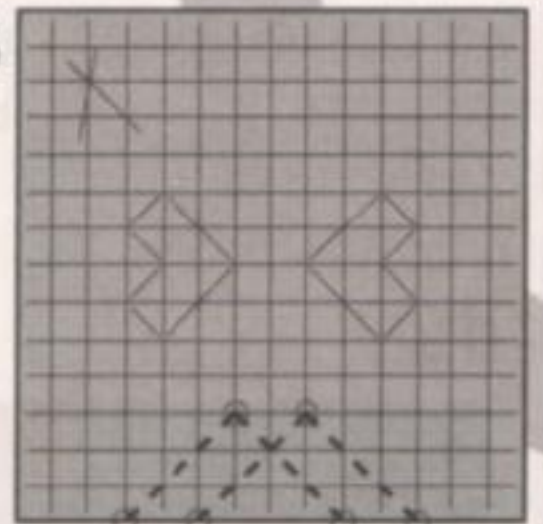
フチを折り筋に
合わせて
折り筋をつける

11



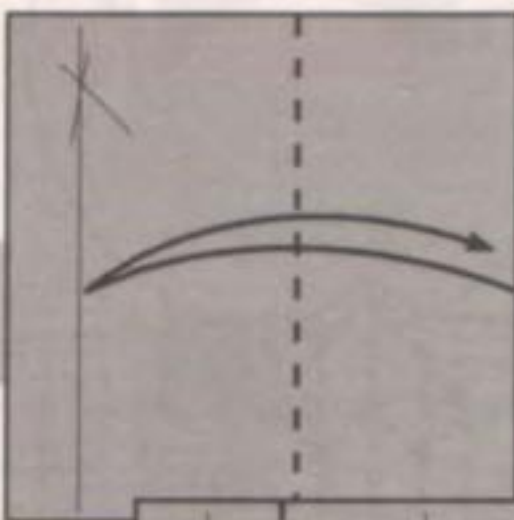
5~10と同じように
折り筋をつける

18



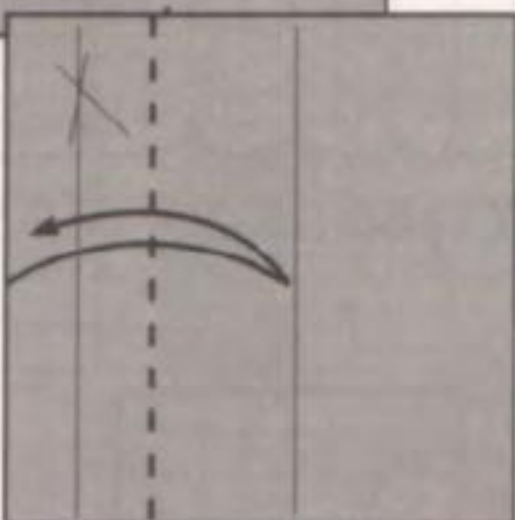
印と印を結ぶ位置で
それぞれ折り筋をつける

6



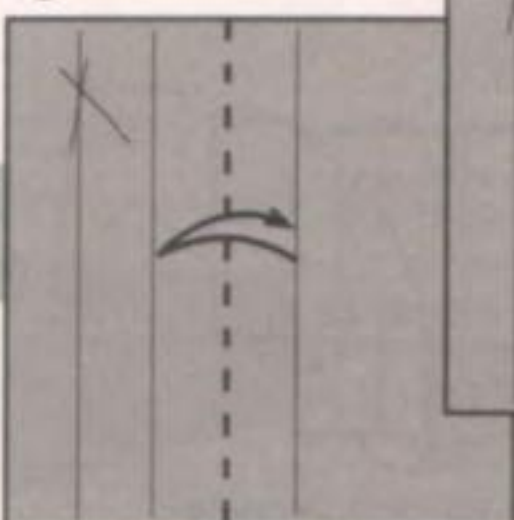
フチを折り筋に
合わせて
折り筋をつける

7



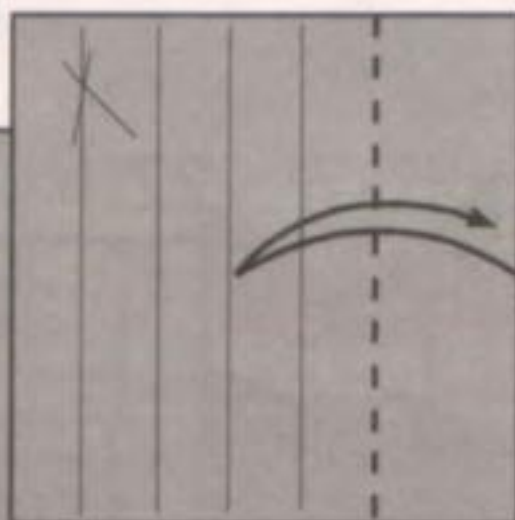
フチを折り筋に合わせて
折り筋をつける

8



折り筋と折り筋を合わせて
折り筋をつける

9



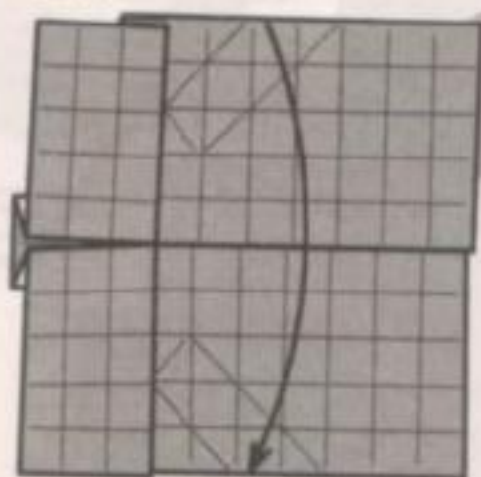
フチを右から
2本目の線に
合わせて折り筋を
つける

10



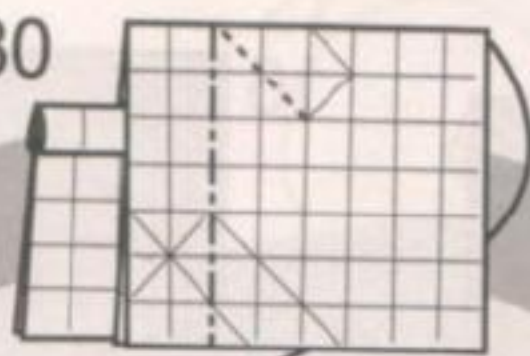
フチを折り筋に合わせて
折り筋をつける

29

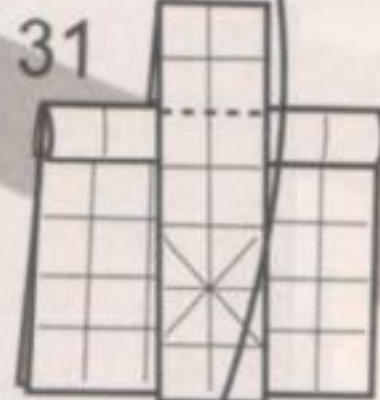


下に戻す

30

反対側も21~29と
同様に折る

31

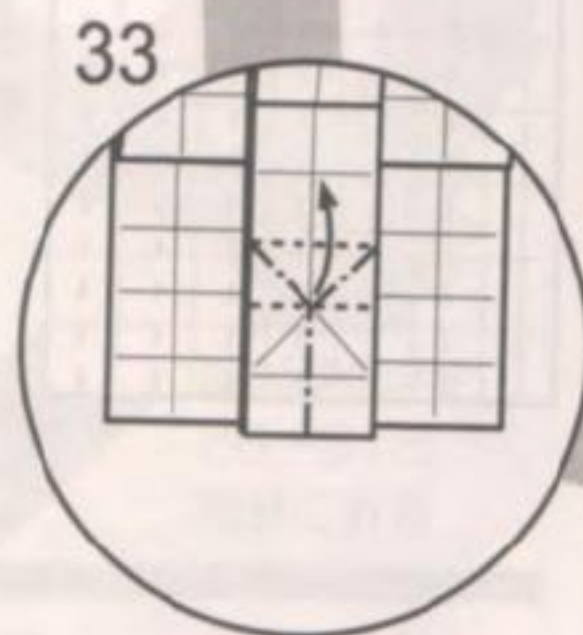


真ん中のところで開く

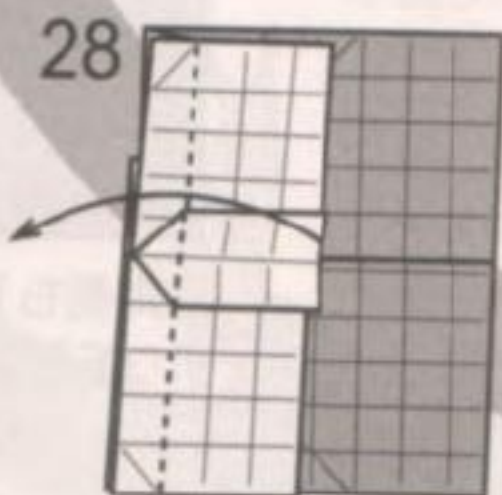
32



33

ついている線で
上に引き上げる

28

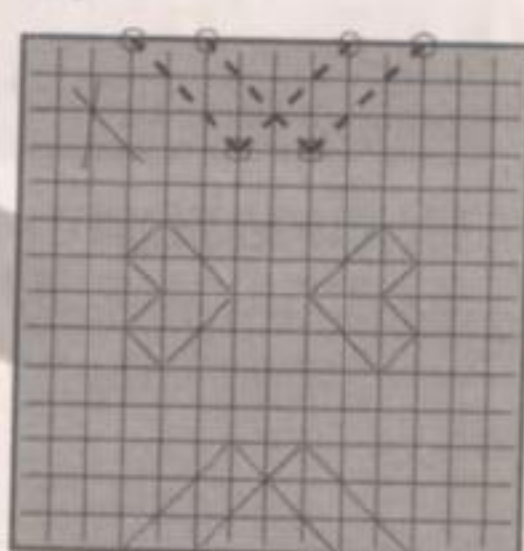
いっぱいのところ
でヒダを反対に折る

27



ヒダを1枚上に折る

19

反対側も
18と同様に
折り筋をつける

26

手前のヒダを上
に折る

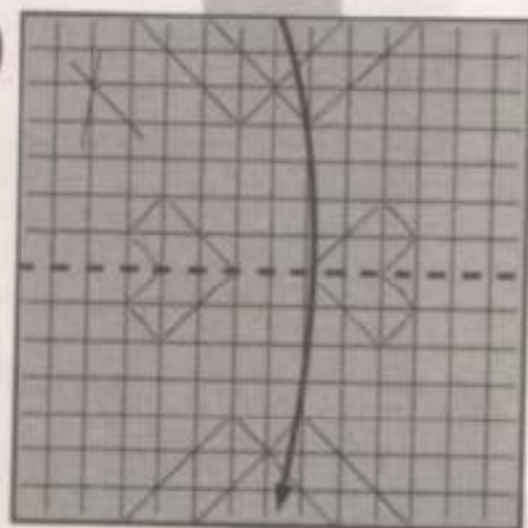
25

途中の図
視点を元に戻す

24

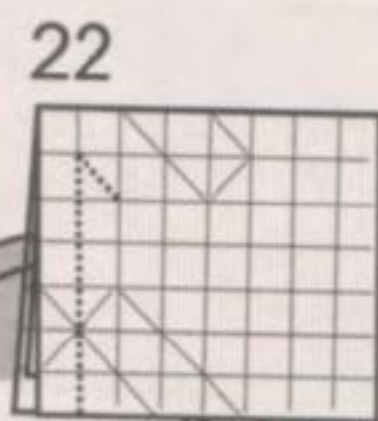
ついている折り筋
を使って折り畳む

20



半分に折る

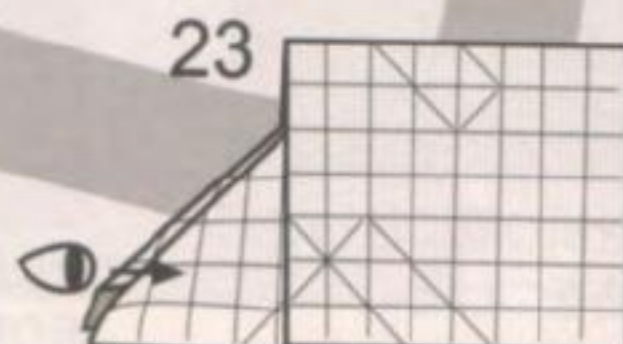
22

ついている線で中
のカドを
それぞれ中割り折り
(平らにはならない)

21

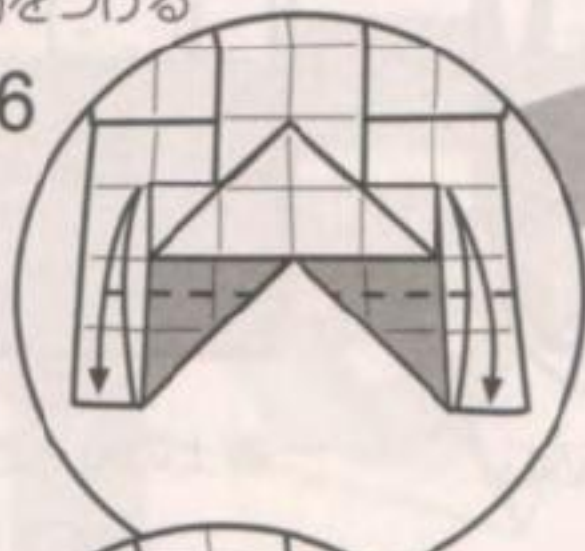
ついている線で引き寄
せる
ように折る(平らには
ならない)

23

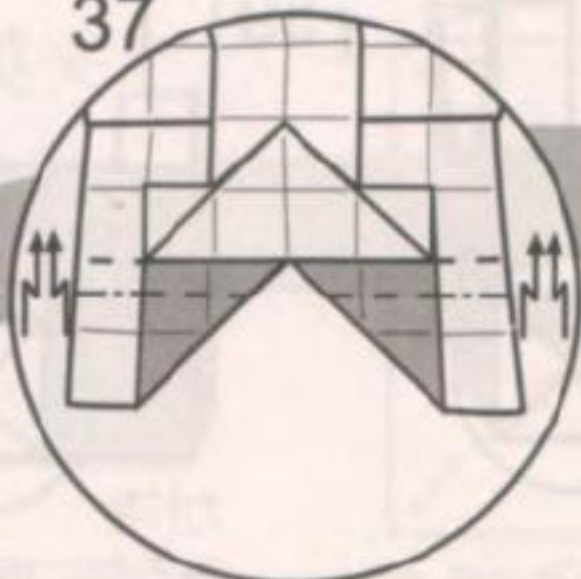
少し開いて
横から見る

フチを折り筋に合わせて
折り筋をつける

36

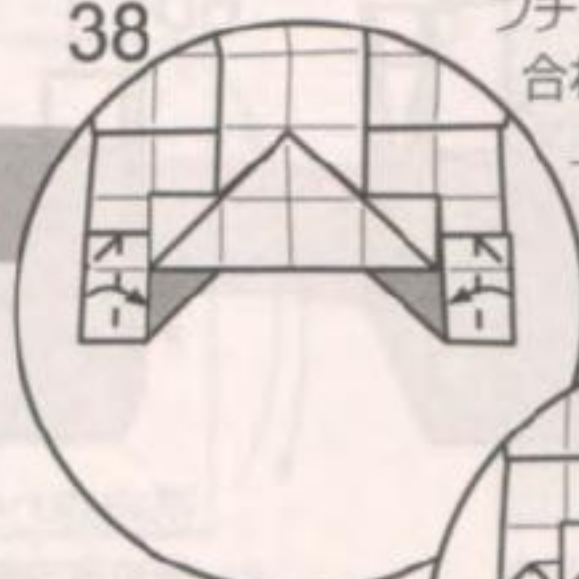


37



それぞれ両側で段折り

38



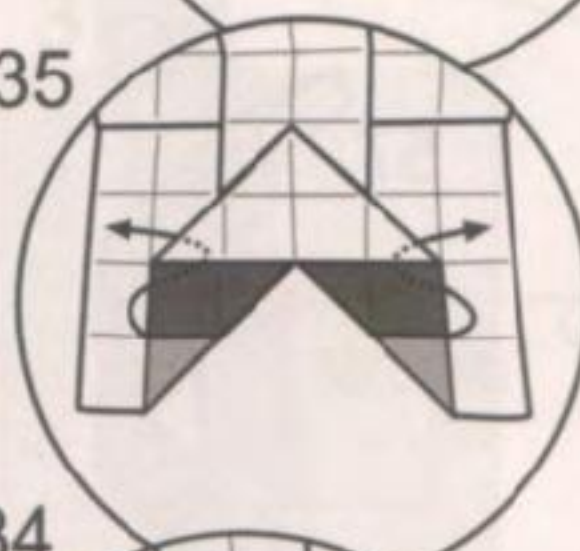
フチを折り筋に
合わせて折る
上は開いて
つぶす

39



それぞれヒダを
反対側に折る

35



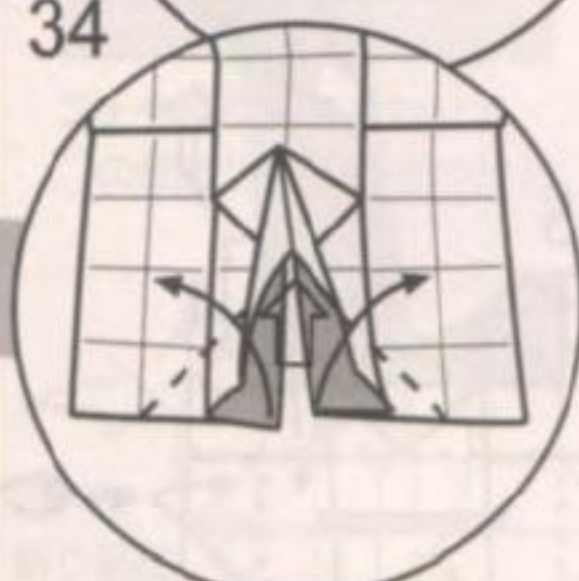
内側のカドを
中割り折りで
上に上げる

40



ヒダを後ろ側に
折り込む

34



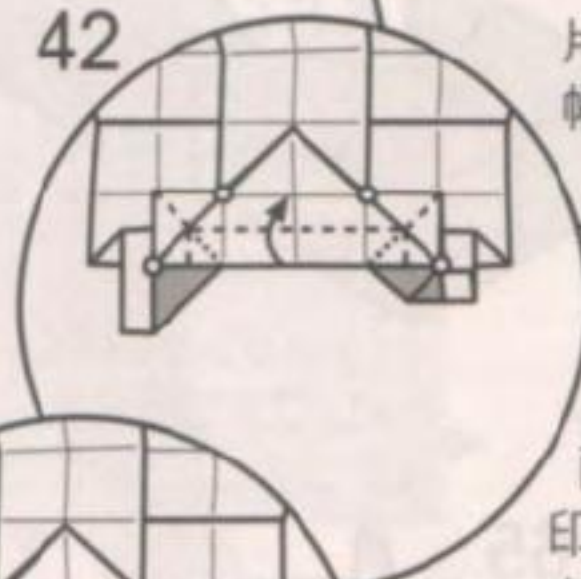
開いてつぶす

41



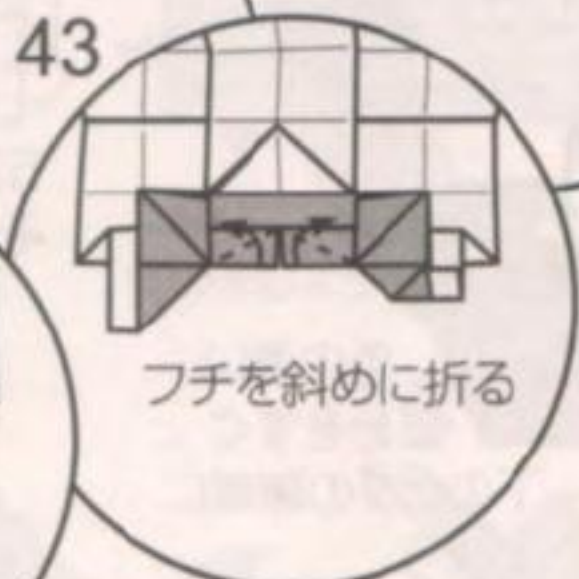
片側だけ半分の
幅で折る

42



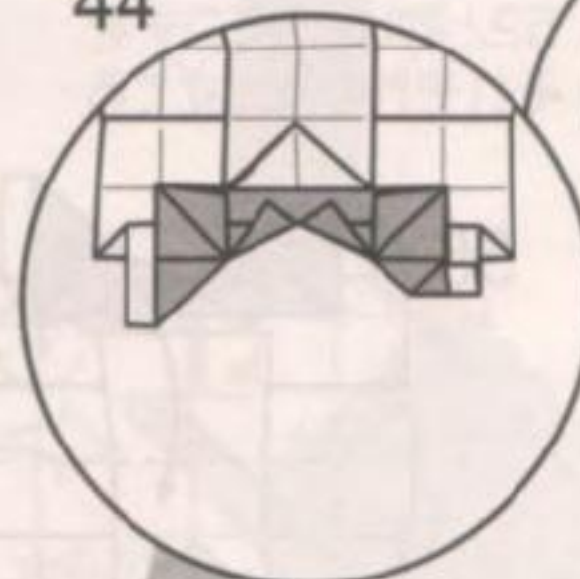
フチを半分の
幅で折る
両端はそれぞれ
印と印を合わせる
ように畳む

43

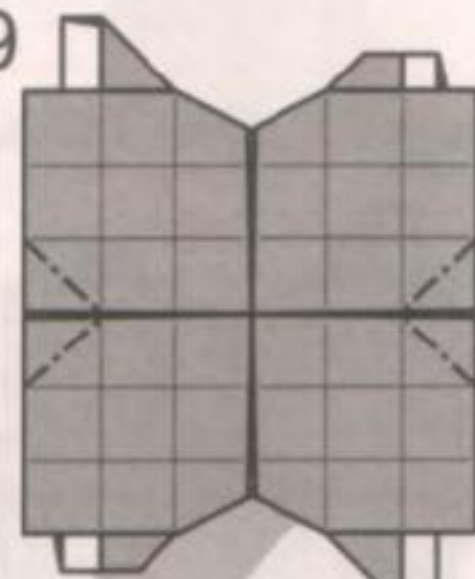


フチを斜めに折る

44

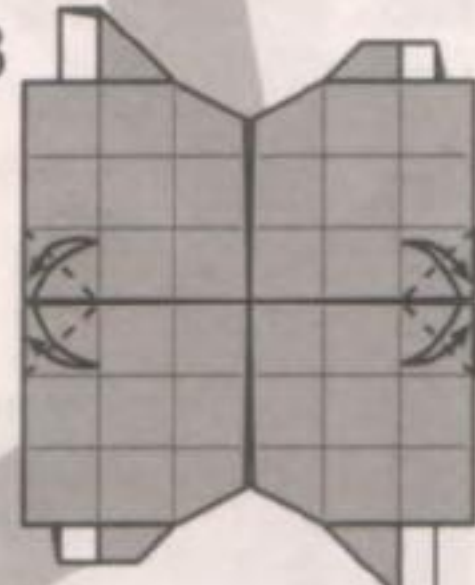


49



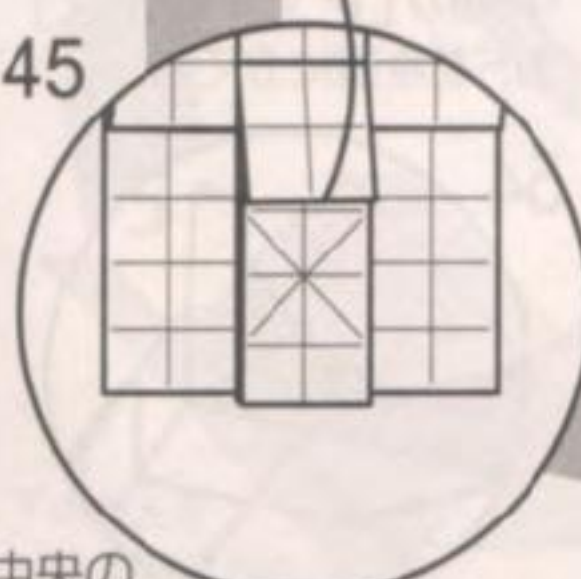
48でつけた折り筋を
山折りにつけ直す

48



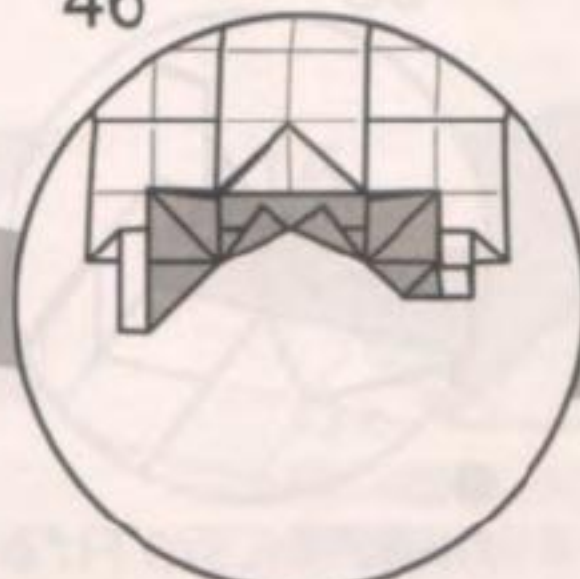
それぞれ斜めに
折り筋をつける
(一番下の紙は
折らない)

45

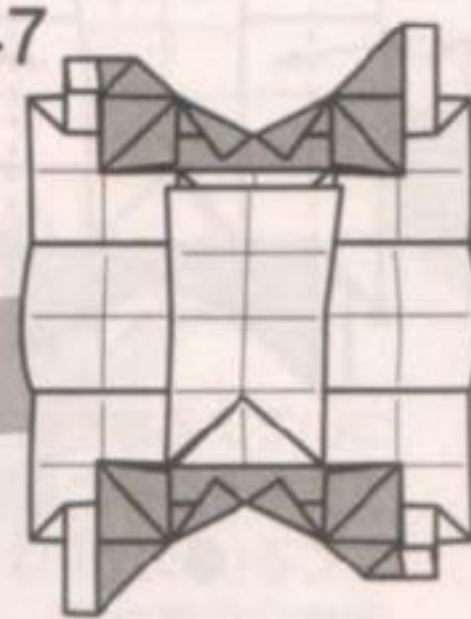


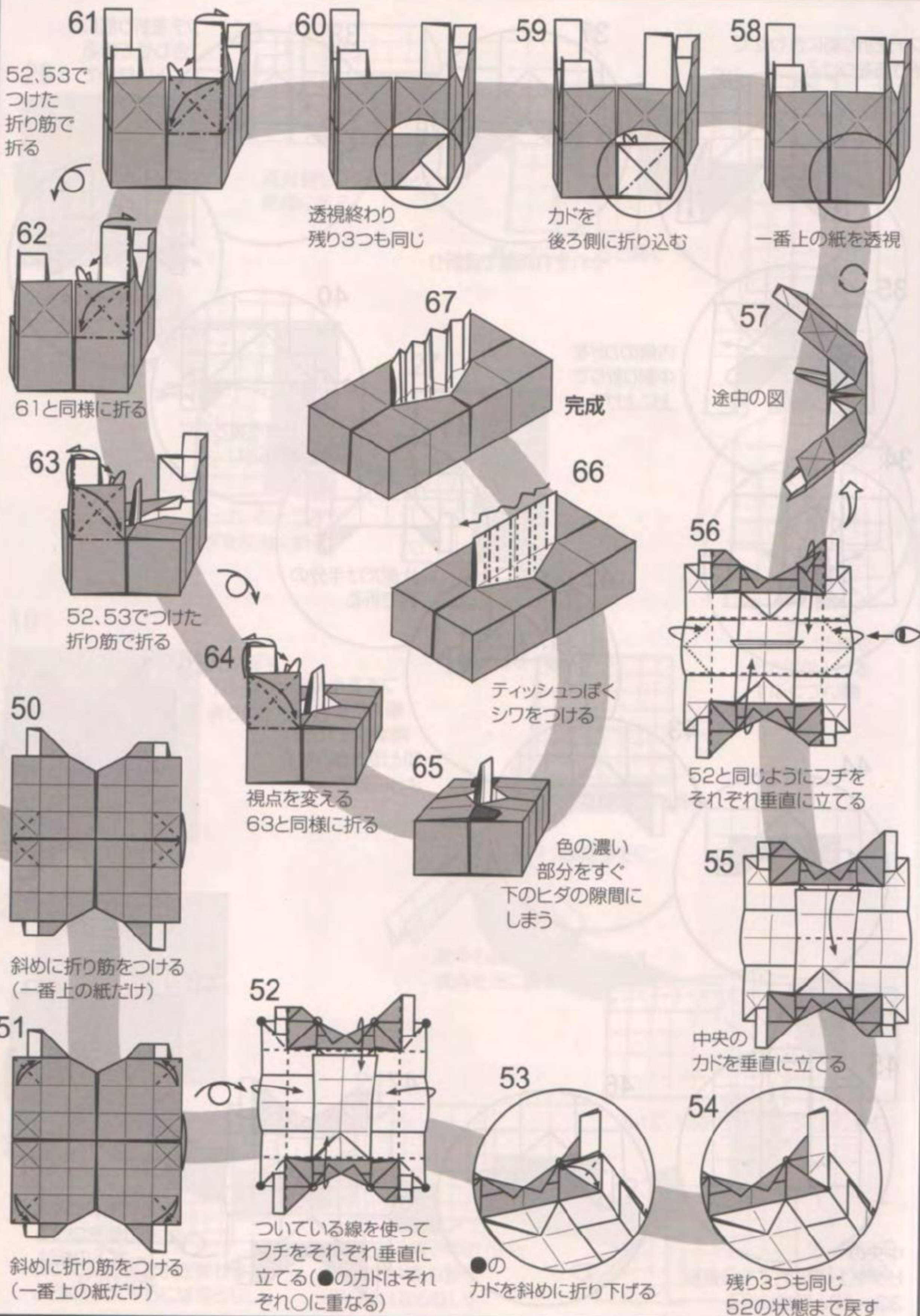
中央の
ヒダを上へ上げ、こちら側も
33~43と同様に折る

46



47

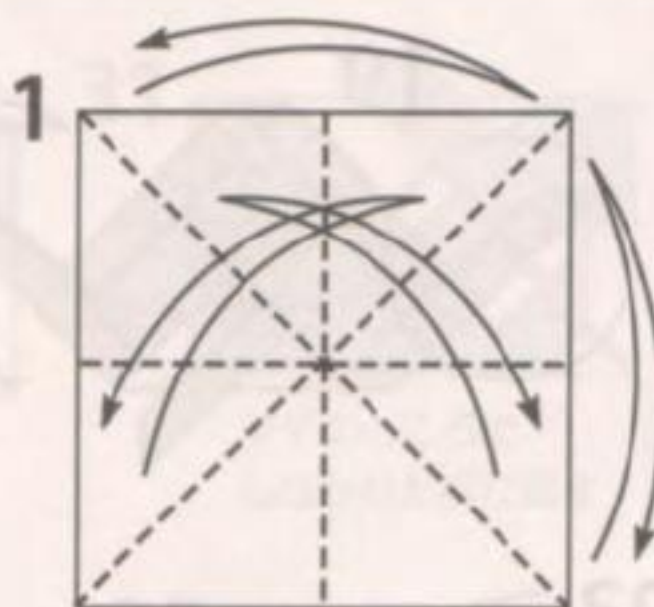
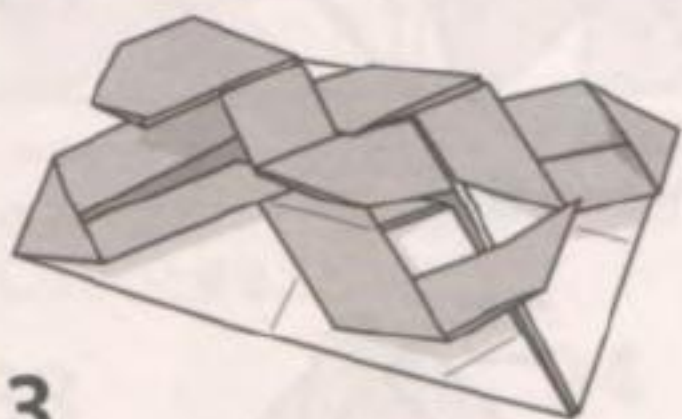




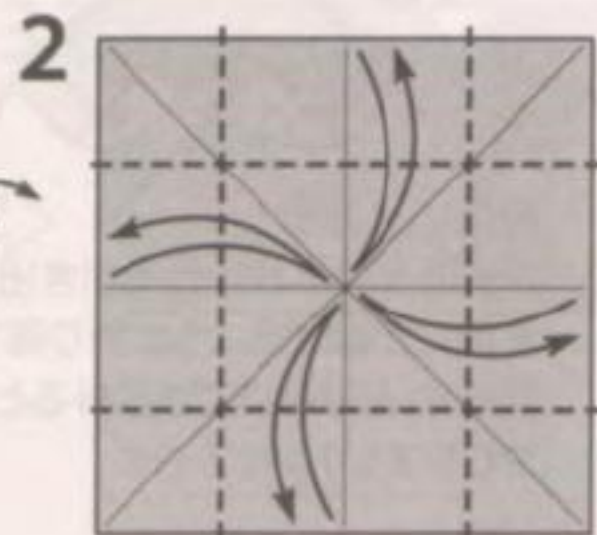
へび

作 小松英夫

Snake by Komatsu Hideo



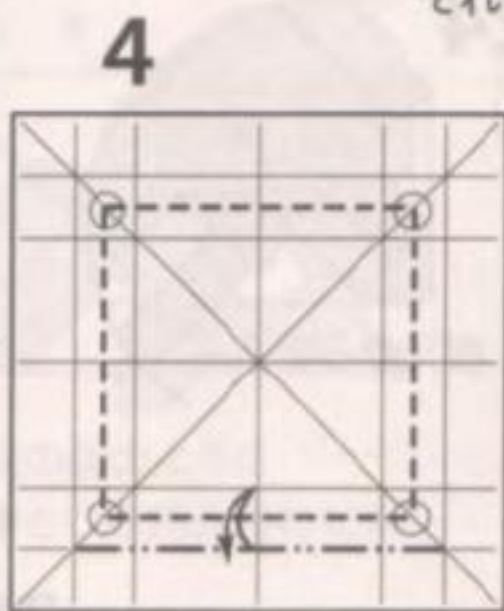
それぞれ半分に折り筋をつける



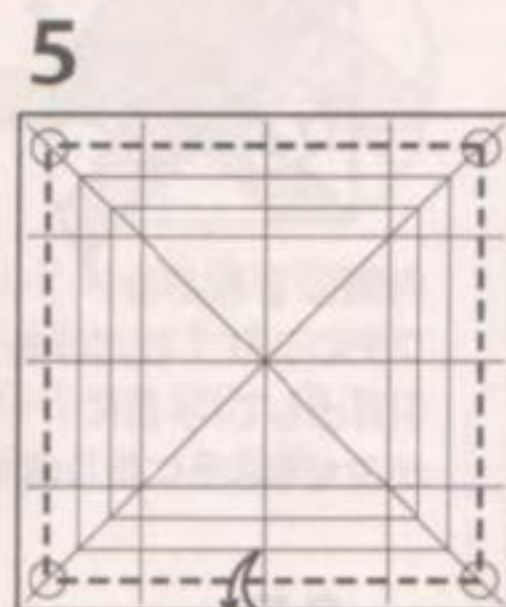
4等分の折り筋をつける



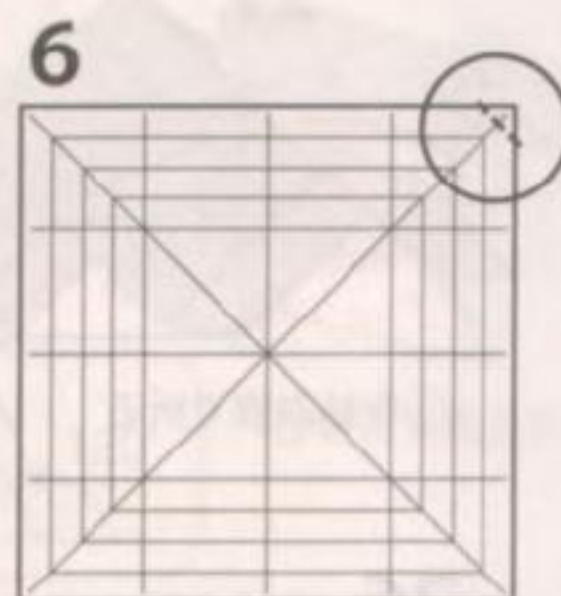
フチを折り筋に合わせて
○の間だけ折り筋をつける



折り筋に合わせて
○の間だけ折り筋をつける



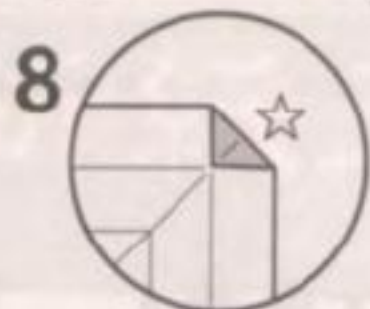
フチを折り筋に合わせて
○の間だけ折り筋をつける



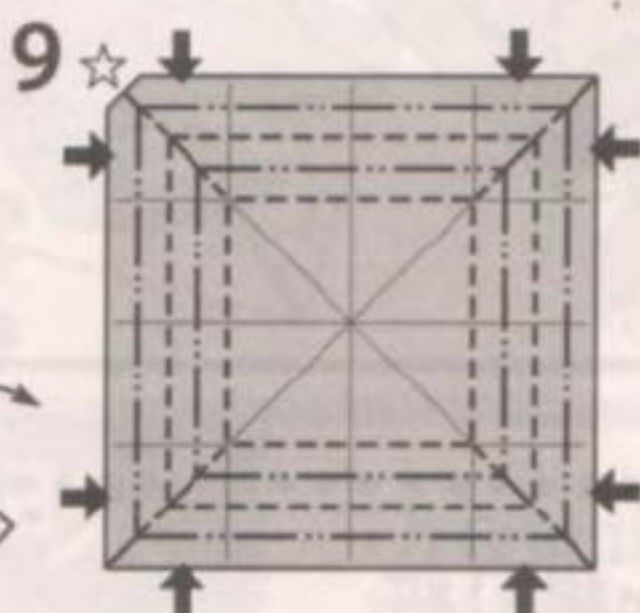
1つのカドだけ端を折る



カドを
折り筋に
合わせて折る



8



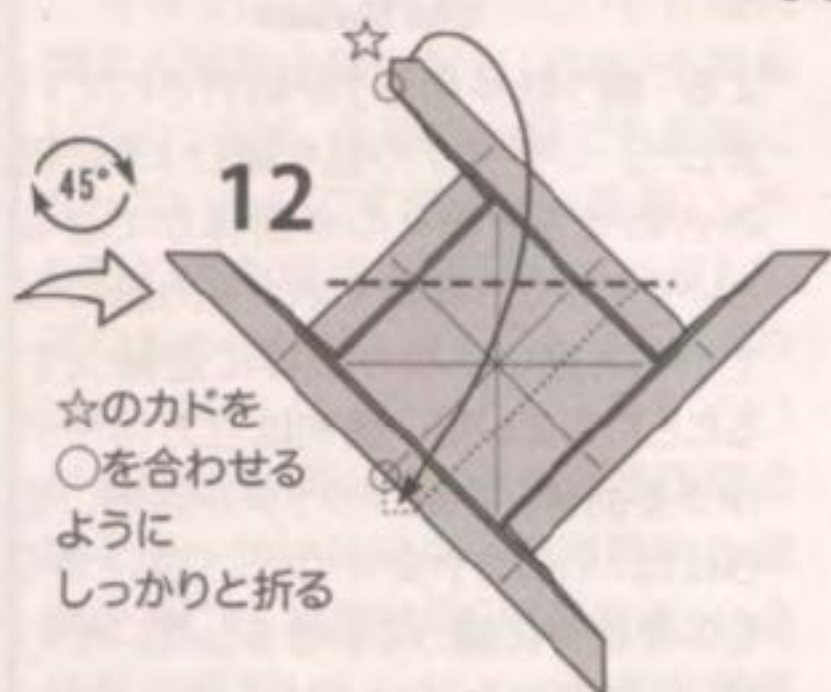
ついている折り筋でカドを
つまむように折りたたむ



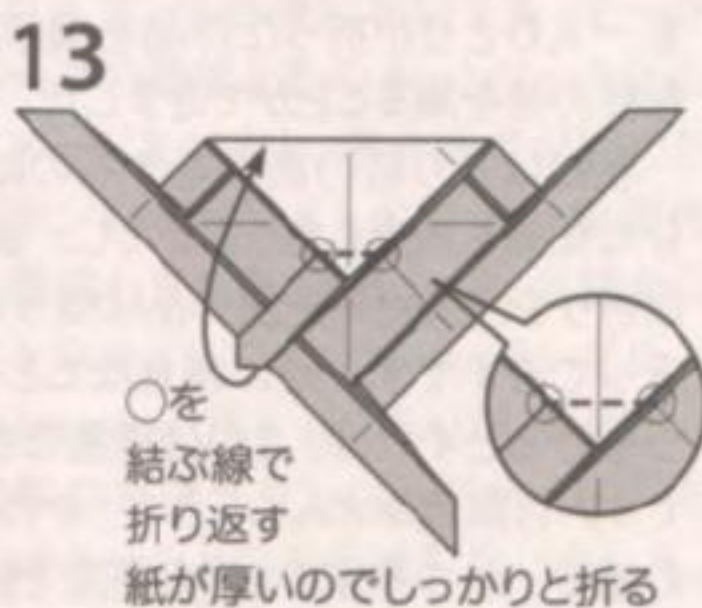
それぞれのカドを
矢印の向きに倒すようにして
全体を平らにたたむ



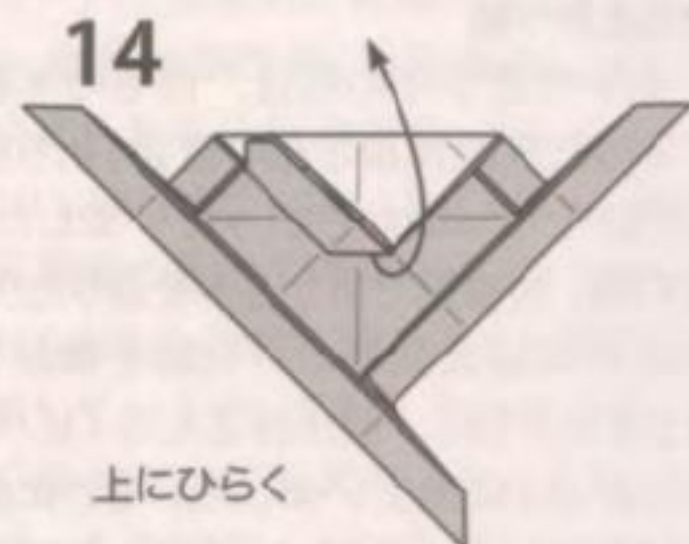
11



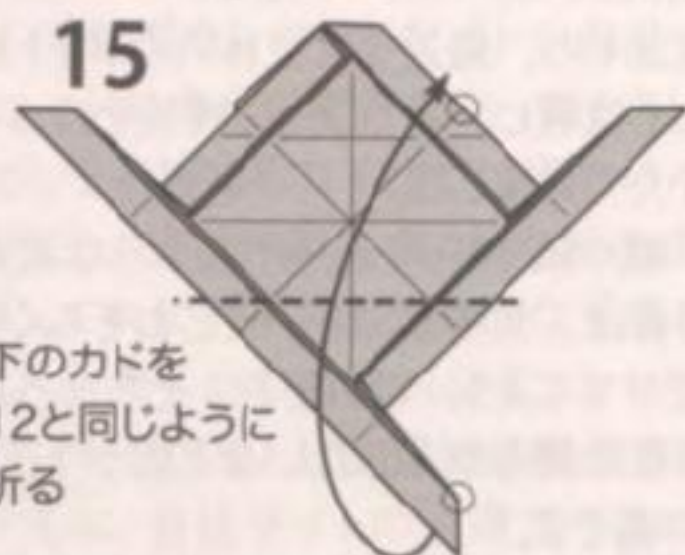
☆のカドを
○を合わせる
ように
しっかりと折る



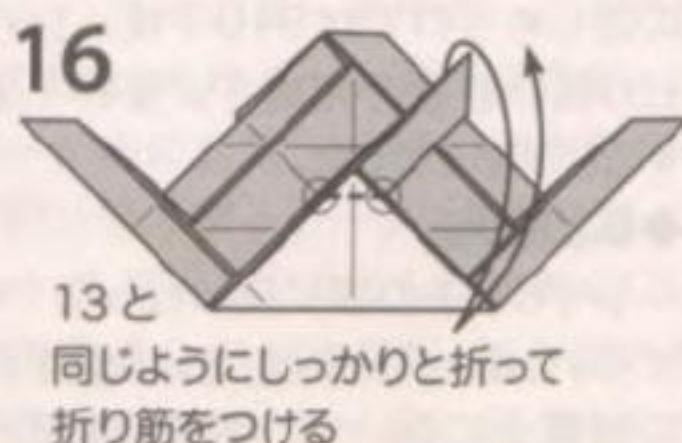
○を
結ぶ線で
折り返す
紙が厚いのでしっかりと折る



上にひらく



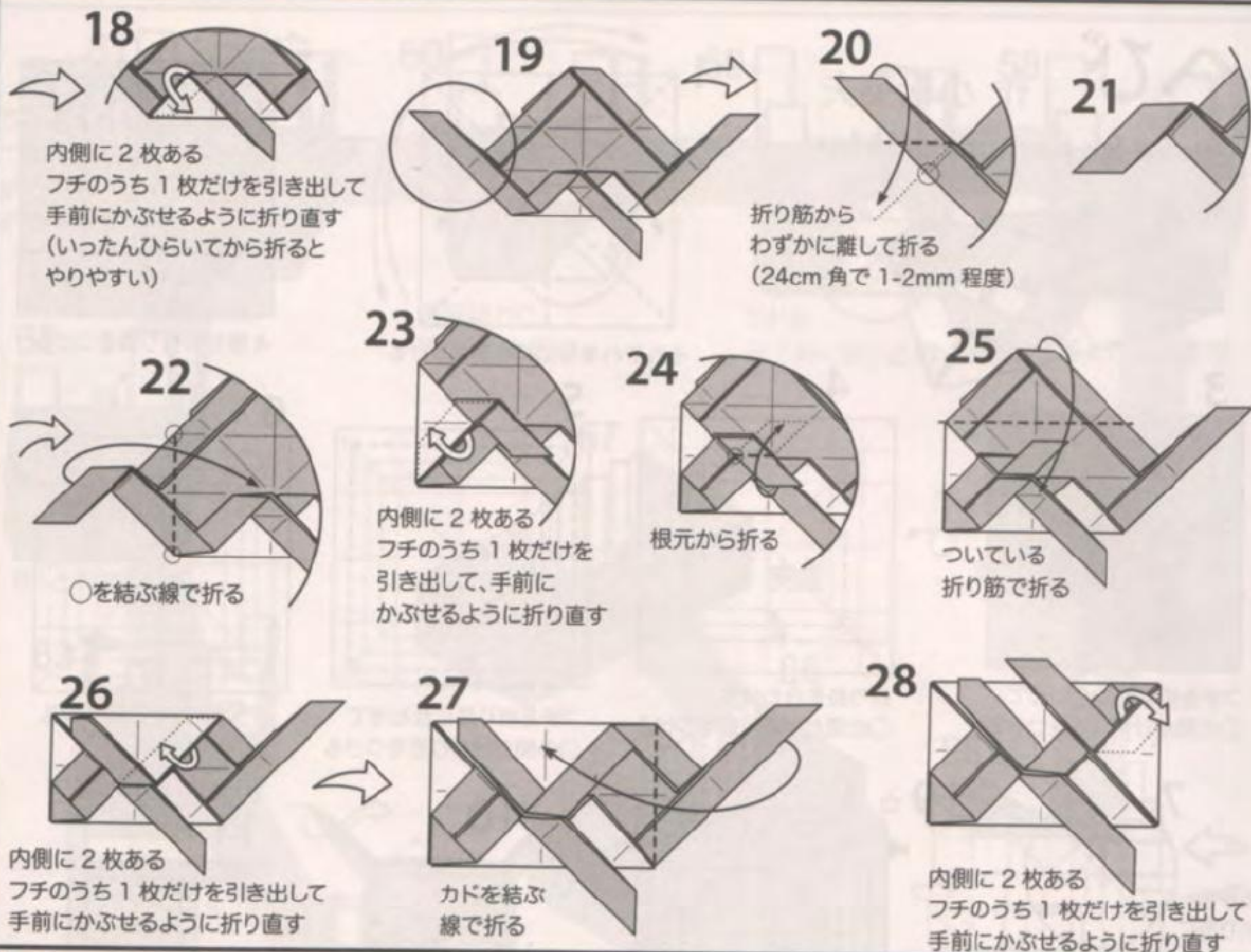
下のカドを
12と同じように
折る



13と
同じようにしっかりと折って
折り筋をつける



後ろにある
折り筋に沿って折る



Orisuzi ("Fold-Creases")

私と折り紙、私と織り紙

Paper Folding, Paper Weaving, and Me

大場 雅人

Oba Masato

◆私と折り紙

小学校低学年の私は、自宅の本棚にあった笠原邦彦さんの著書『折り紙入門』を片っ端から折っていました。その後、図書館で折り紙本を借りたり、日本折紙協会発行の月刊誌を購読したりするうちに、前川淳さんの『ビバ! おりがみ』に出会いました。そこに収録されていた「悪魔」に挑戦した結果……見事に玉砕しました。

中学3年生になった私は、当時高校生の折り紙作家、勝田恭平さんとの邂逅から、日本折紙学会の存在を知り、折紙探偵団コンベンションに初参加、そこで世界トップクラスの展示作品に驚愕しました。そのときの経験を活かし、中学生生活最後の文化祭で、5mの紙を使った巨大作品群と、3年

生一人ひとりが折った作品を展示し、有終の美を飾ることができました。

私には折り紙の創作をするのに十分な知識も知恵もありませんし、展開図折りや、人物系蛇腹作品ははっきり言って苦手です。逆に得意なことを2つ挙げるとすれば、1つは精密な折りです。目黒俊幸さんの「ウニ」を15cmの紙で、かつ本家の4倍の密度で折った作品は、私の自慢の作品の一つです。もう1つは大量生産です。「悪魔」に苦しめられてから10年後、自力で100個の悪魔を完成させ雪辱を果たすことができました。

◆私と織り紙

小学6年生の頃に見に行った「マセマティカル・アート展」という数学教材の展覧会において、別宮利昭さんに

よる「織り紙多面体」が紹介されていました。ジグザグの紙を編むように組み合わせると種々の多面体ができるというもので、私はそれが折り紙に似ていると思い、折り紙界に逆輸入することにしました。最初は立方体やデルタ多面体、次はフラクタル図形、さらにはパズルや文字など、思いつくものを次々に織っていきました。その後、色彩豊かなドット絵もレパートリーに加わり、最近では立体的なドット絵にも挑戦し、多くの人に興味を持っていただけました。

織り紙でドット絵を作るような変わり者は、世界広しといえどおそらく私だけでしょう。けれども、そろそろ織り紙仲間を増やしたいと思う今日この頃です。



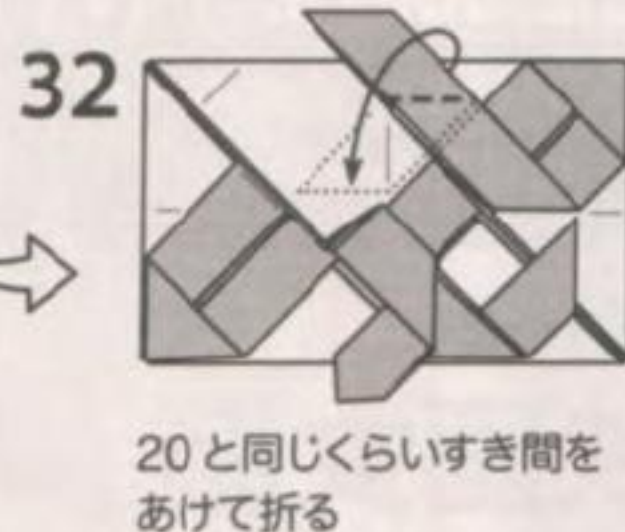
フチに沿って
後ろへ折る
しっかりと折ること



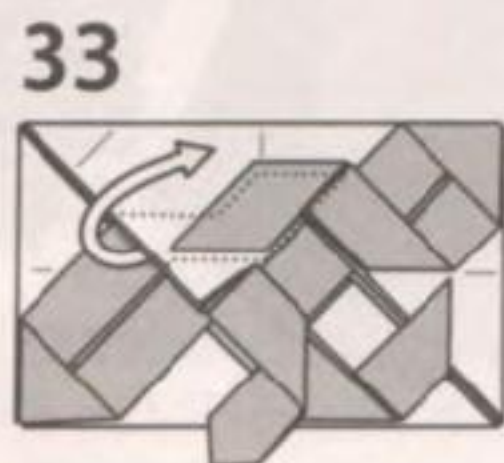
フチを合わせるように
折る



フチのところで
しっかりと折り返す



20と同じくらいすき間を
あけて折る



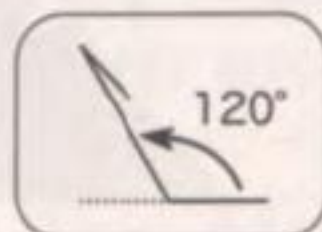
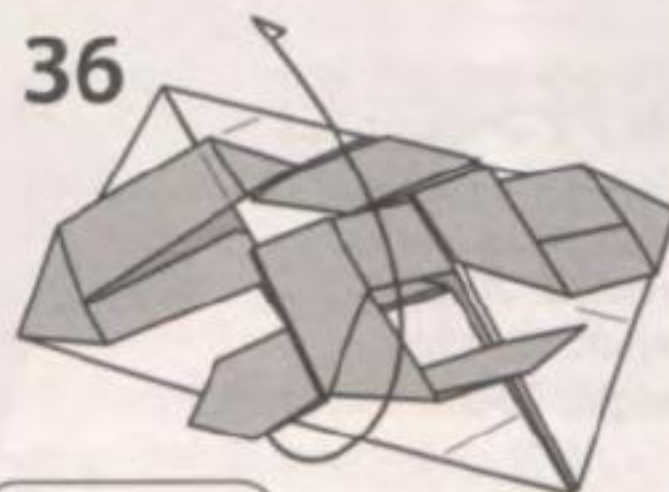
隠れているカドを出す



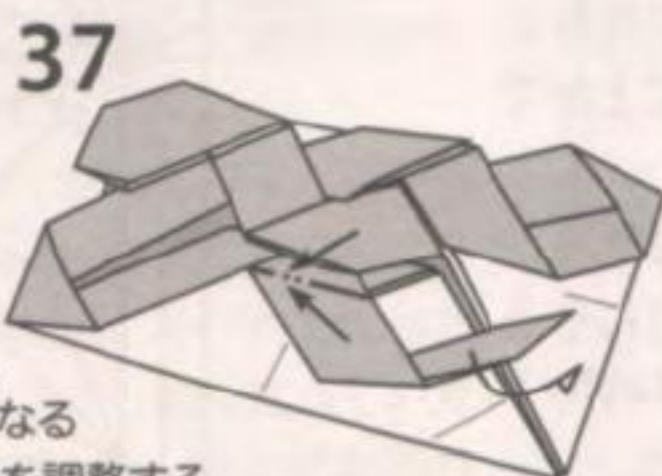
次の図のように
◆と◇を組み合わせる



差し込むと作品全体が
少し浮き上がったように
立体化する(20, 32で
ずらして折った効果)



へびの首を起こす



ついている
折り筋を
折り直して、
浮き気味になる
尻尾の位置を調整する



できあがり

意図した機能では
ありませんが、
簡易的な包みとしても
使えるかもしれません。

折紙三昧⁶²

Origami-Zanmai (This Origami and That)

今号では、第5回折り紙の著作権に関する国際会議の報告(前編)を掲載しております。今回の会議でも議論になっているのですが(報告(後編))、折り紙の著作権侵害事例の中で最も顕著なもの1つに、ウェブ上の不法ダウンロードサイト(ファイル共有サイト)があります。第1回の折り紙著作権会議をきっかけに始まった国際的な連携を通じて、機関誌『折紙探偵団』や会員配布資料、コンベンション折り図集の不法ダウンロードサイトへのアップロードの中止の勧告を行ってきましたが、その度に取り下げては現れのイタチごっこに終始し、全く後を絶ちません。これに対抗する効率的な手段の1つは、何らかの合法的なダウンロードサイトを立ち上げ実質的に競合するとともに、合法サイトの立場で不法サイ

トを牽制・摘発することだろうと考えられます。今会議においても、データベースの機能とそのネットワーク化のイメージを共有し、著作権者が認めたダウンロードサイトの整備の重要性を議論しました。そんな中、会議から1ヶ月ほどして、ロバート・ラング氏よりOrigamiUSA (OUSA)が、折り図/書籍の有償ダウンロードサイト^(註)を完成させたとの知らせを受けました。ラング氏は、今回の会議に出席していませんでしたが、ちょうどその頃、システムの開発の真っ最中だったとのことでした。本サイトは、OUSAのホームページ内に立ち上げられ、創作者自らがPDF等の電子データ折り図をアップロードし販売者になるものです。OUSA内の委員会が公序良俗、創作者の信頼性などについて一定の評価をした

後、ウェブ上にアップされます。ダウンロードは基本的に有償に設定されており、価格は創作者(著作権者)が自由に決められる仕組みです。本システムは2012年10月1日にスタートし、現在、英語圏の創作者を中心に36名の作家が60作品の折り図のネット販売を開始しています。本システムは売り上げの最大70%が販売者に還元され、ユーザーも不法サイトからダウンロードする後ろめたさから解放される両者にとって有意義なシステムと考えられます。今後、日本折紙学会でも本システムを積極的に活用することを計画したいと考えています。

註) <http://origamiusa.org/catalog/books-downloads/file-downloads>

西川誠司 Nishikawa Seiji
日本折紙学会 評議員代表

展開図折りに 挑戦

Crease Pattern
Challenge!

第80回

映画女優

Actress

松井英里香

Matsui Erika

Created: 2012.07

Paper: 45×45cm

Height: 26cm

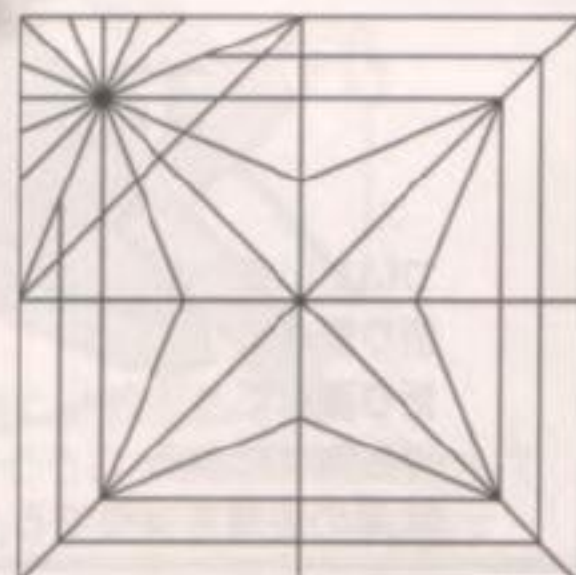


本作の一番のポイントはつばの広い帽子、顔、そして髪を簡単な構造から同時に折り出すところで、これは方法論より発見や見立てに近いものかと思います。こういうことを考えるのが好きなのです。頭部をふと考え付いたのが5月末のことでそれから拡張して全身をつくっていったのですが、その間2か月ほどかかったのにも関わらず結局のところ頭部は創作途中最初から最後まで少しも変わることはなく、また他者に見せても一番評価してもらえるのはそこであるようで、一瞬の閃きというのは怖いものです。私に論理的思考や設計スキルが足りないからかもしれません。が……。

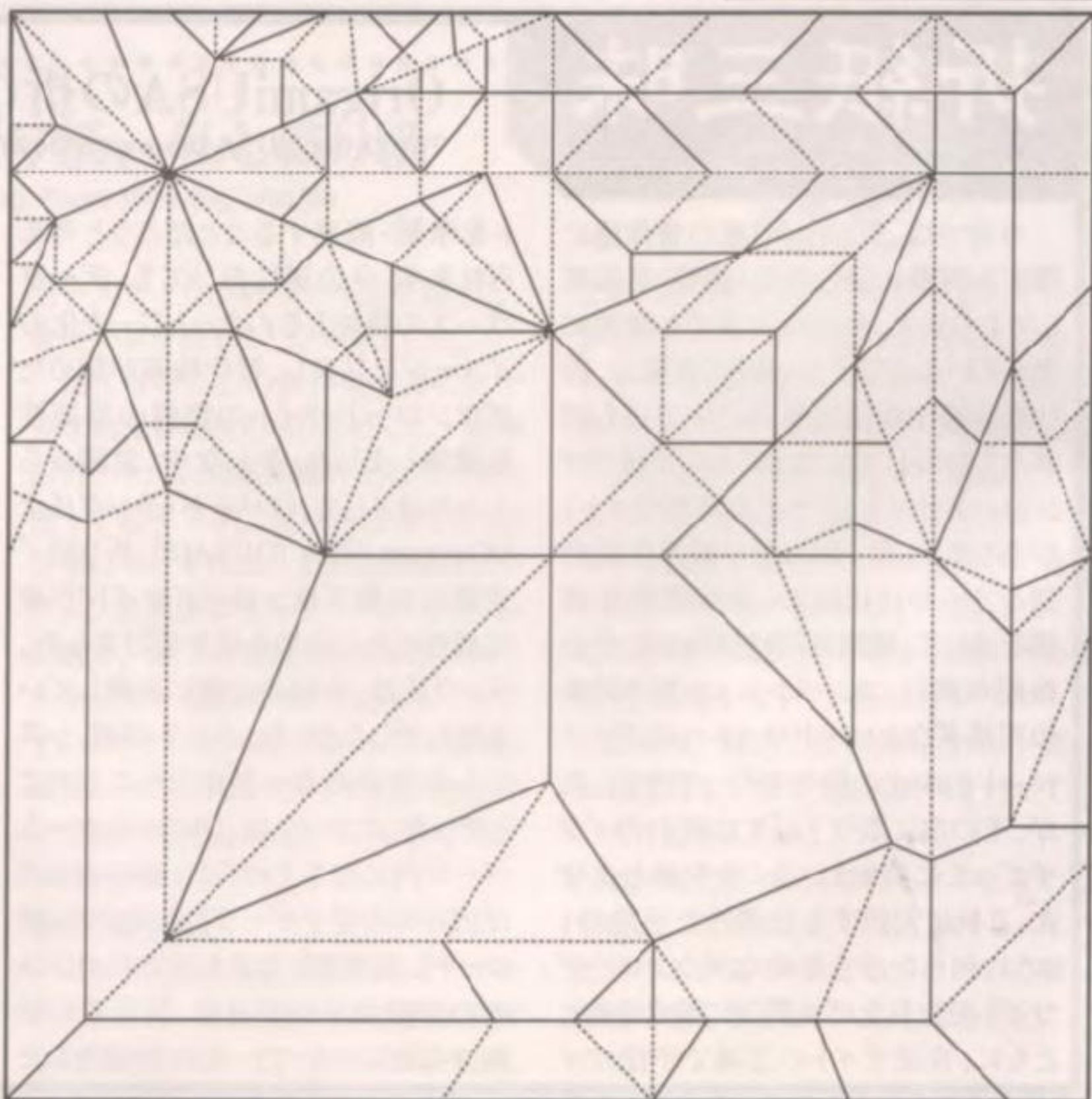
構造はいかに鶴の基本形の拡張で、4つの長いカドは頭、左腕、洋服(と右腕)、脚になり、鶴のお腹(この展開図でも用紙の丁度中央)は洋服の襟になります。出来上がりは非対称ですが大本の構造は左右対称ということです。全体の心持ちとしてはからだの軸がまっすぐにすっとした立ち姿になるように、全身の部分同士が滞りなく流れてつながるように折ることを大切にするとよいと思います。洋服の下方部には三角形を意図的に埋め込んであって、立てることで(仕上げ

で曲げるのではなく紙の力で持ち上げて)裾の広がりを表現することができるようになっています。

用紙については、ある程度厚みがあった方が格好良い仕上がりになると思います。ちなみに作例はレザック96オリヒメの70kgで折りました。



ヒント図



File-49

アン・ラビン

Anne La Vin

■折り紙との出会いはいつですか？

折り紙を折った初めての記憶は小学校の美術のクラスで、6、7歳のころで、あっという間に大好きになりました！その当時アメリカでは、折り紙の本や紙を手に入れることは非常に大変だったのですが、それでも両親が何とかしていくつかの本を見つけてきてくれて、その虜になりました。

10歳のときに、学校に日本から交換留学生が来ました。彼女は英語をしゃべれず私は日本語をしゃべれなかったのですが、2人とも折り紙を知っていたので友達になりました。彼女がお別れにくれたのが、日本の本物の紙でした。和紙の千代紙を見るのは初めてで、この美しい紙の入ったパックを大切な宝物にしました。お互いに連絡は取れなくなりましたが、そのときもらったパックと紙は、使ってしまうのが惜しく、今でも取ってあります。

■折り紙コミュニティへの参加はいつですか？

中学から大学までは、折り紙の情報がほとんど手に入らず、ずっと興味を持ちつつも、他のことで忙しくなっていました。ところが、80年代半ばに入り、奇跡のように、日本の紙や日本の本がたくさん手に入るようになりました。MIT（マサチューセッツ工科大学）同窓生のエルサ・チェンさんがOrigamiUSAを教えてくれて、ニューヨークのコンベンションに行くようになりました。毎年折り紙の友達と会えることが楽しみです。たくさんの本、たくさんの作品があって、折ることに夢中なので、創作はあまり考えませんでした。

大学を卒業した後MITのスタッフと

して働く中、休暇中にMITで折り紙を教えたり、OrigamiUSAコンベンションで教えるようになりました。これまで独学で折り紙を折ってきたので、自分の折り方と他の人の折り方は同じようなものだと思っていたのですが、教えるはじめるとすぐに、皆それぞれ考え方や、得意なところや、限界が違うことが分りはじめました。教えるためには、他の人がどのような道筋で考えるのかその可能性をすべて考えておかないといけないのです。また知的な技能だけでなく身体的な技能でもあるので、折り紙を教えることは非常にやりがいがあります。

■ORIGAMI-Lについて教えてください。

80年代後半には、MITで航空力学を教えるためのコンピュータソフトを書いていた（そう、実は私、ロケット科学者なのです）。このとき、MITのコンピュータはインターネットの一部で「eメール」なる新しいものが使えました。そこで、5人くらいが集まって、折り紙についてオンラインで議論するメーリングリストを作りました。その後メーリングリストサーバーに移行して数年で100人に達し、現在では1200人のメンバーが居るオンラインコミュニティになっています。現在、私のサーバー上でメーリングリストが動いており、ジョセフ・ウーさんと私で管理をしています。正確には分かりませんが、インターネット上で最も歴史の長いメーリングリストのひとつかもしれません。

今では、折り紙の新しいデザイン、技法、技術などが爆発的に進化し続けていますが、そこではインターネットが素晴らしい情報交換のツールと

○アン・ラビン（Anne LaVin）＝物心ついた頃から折っていて、現在OrigamiUSAボードメンバー。JOASとBOSのメンバーでもあり、コンベンションは可能な限り参加している。折り紙をしているかコンピュータの近くにいる以外のときは、たいてい帆船やヨットの近くで見つけることができる。……そして普通でない場所でお茶を飲んでいたりする。（写真はエクストリーム・ティー・ドリンクするAnneさん）



して役に立っています。今後数年で折り紙のコミュニティが新しいタイプの出版方法を模索していく中で、折り紙の作家が作品を皆と分かち合い、そして同時に権利を守ることもできるような新しいツールが生まれることを期待しています。

■折紙探偵団コンベンションへの参加はいつからですか？

2000年のコンベンション（第6回）が初めての参加です。学生に日本語を教えるためのソフト開発をしていたとき、数年間日本語を勉強する機会があったのですが、この経験と折り紙への興味とが一緒になったときでした。ついに私が収集してきた折り紙の本の著者と会うことができ、新しい人と勉強ができ、そして一生の友人もできました。それ以来、可能な限り探偵団コンベンションには参加しています。いつ来ても、探求精神と折ることの喜びを感じます。

■好きな作品は何ですか？

数え切れないほどの人から影響を受けていて、いろいろなスタイルやテーマやタイプが好きですが、特にシンプルな折り紙の形から生き生きとしたものになる動物を折るのが好きです。しかし、私のエンジニア魂から、ユニット折り紙や平織りを愛さざるを得ませんし、空を飛ばす作品はいつも楽しいです。こうして好きなもののリストが膨れあがります。創作も始めていて、2つほど作品を作っています。

いつの日か、子供のときの友達にくれた残り数枚の千代紙を折るのにふさわしい折り紙作品を見つけたいです。

Rabbit Ear つまみおり

Information



▲開成学園の折り紙研究部による部活展示。早稲田中・高等学校の折り紙同好会との合作ジオラマ

◆秋の学生折り紙展レポート 小松英夫

◆開成学園折り紙研究部

まずは、9月22・23日に行われた開成学園の文化祭「141st 開成祭」での折り紙研究部の部活展示。中学・高校合わせて20人ほどの部員がいるそうです。

毎年恒例となっているという巨大折り紙では、筆者の「トラ」を折ってくれていました。4メートル四方で折られたトラの迫力は作者にとっても新鮮でした。もう1つの目玉は、交流のある早稲田中・高等学校の折り紙同好会との合作ジオラマ。そして70点ほどあった個人作品は、本誌やコンベンション折り図集、はうすの本などを見て折ったコンプレックス系折り紙が中心で（部員のオリジナル作品も数点）、中には思わず唖ってしまうほどハイレベルな技術を持ったメンバーもいて、全体的にも実力を感じました。教室の一角では、ぴよんぴよん蛙を使った受験のお守り「合格ガエル」を配布していたり、体験スペースも用意されていて、会場は大いに賑わっていました。



▲会場は見学者でにぎわう



▲4メートル四方で折られた筆者の「トラ」



▲ぴよんぴよん蛙を使った受験のお守り

◆スクエア「折紙の最前線」

つづいては、9月19～24日に新宿・ギャラリーきらりで行われた折り紙創作集団スクエアによる第1回展覧会「折紙の最前線」。「スクエア」は、本誌でもおなじみ東京大学折紙サークル「Orist」のOBを中心として今年結成されたばかりのグループです。

この第1回展覧会は、貸しギャラリーの選定から図録（16p オールカラー）の制作に至るまで、全てを自分たちで企画・準備したものとのこと。

展示作品は、作家10名で約20作品と数は多くはありませんでしたが、各々の若い個性が見える作品群となっていました。中でも、展覧会の指揮をとった現スクエア代表の柏村さんの作品は「今まさに成長中」というパワフルな熱気を放っていました。

話を聞くと、「（表現方法としての）折り紙の存在をもっと一般の人に知ってもらいたい」との思いが展覧会開催の原動力となっているようで、その行動力に感心するばかりです。継続して開催していきたいとのことで、今後の活動にも期待です。

筆者が訪問できた展示会は上記2つだけですが、この秋には他にも、9月29・30日に早稲田中・高「興風祭」で折り紙同好会の展示、10月6・7日に東京工業大学「工大祭」で折り紙同好会の展示などがありました。今号が発行される頃の11月23～25日にも、東大「駒場祭」でOristの展示会が控えています。若い世代の活動が、現代折り紙の認知に一役買っている模様です。



▲スクエア代表、柏村卓朗さんの「獅子」

◆Ultimate Origami Convention 2012 レポート 宮島 登

フランスのリヨンで2012年11月2日から3日間にわたって開催された「Ultimate Origami Convention 2012」に参加してきました。今回で5回目となる本コンベンションはフランス折紙協会(MFPP)の有志によって企画運営され、「Ultimate(究極の)」の名のとおり、難度の高い作品の講習ばかりを集めた異色かつ先鋭的なコンベンションです。参加者は約80人と中規模ですが、ヨーロッパを中心に10以上の国から腕に自信のある折り紙ファンが集まりました。



▲参加者が集まっての記念撮影

私は5人の招待作家のうちの1人で、主催者からは「コンプレックス作品で、かつ折図が公開されていないもの」というハードルの高いリクエストをいただきました(とほほ)。実際に講習したのは「ユニコーン」「サイ」「ヘラジカ」とレアで難度の高い作品ばかり。1回3時間の講習を3日連続で行ったわけですが、長時間の上に慣れない英語での講習にすっかり体力をすり減らしてしまう始末。3日目には声が枯れました(まさにアルティメット)。ありがたいことに参加者は非常に熱心で、毎回20人以上の方が受講してくださいました。私のウェブサイトを熱心に見てくれている方もおり「稲荷の狐の後ろ足の折り方を教えてくれ」なんてマニアックな質問に面食らうこともしばしば。

会場は宿泊施設との一体型で非常に快適な反面、夜まで予定が組

まれたハードなプログラム。そしてプログラム終了後も局所的にミニ教室が行われるなど、会場では濃密な交流が夜中まで続きました(まさにアルティメット)。

1日目の夜には英語でのスピーチ(プレゼン)も初めて経験。自分の創作スタイルなどについてお話ししたのですが「私のポリシーは蛇腹折りを使わないことです」と言ったときの満場の拍手は忘れられません(笑)。

帰国後に当地で知り合った方から次々と「フェイスブック」の友達申請をいただきました。ここで得た多くの縁をこれからも大切にしたいと思います。



▲招待作家のガシュバピアーさんと

◆10.Origamitag 2012 レポート

山口 真

ミュンヘンに住む富美子・チュルクさんから誘いを受け、ミュンヘン郊外のNeubibergで開かれた10. Origamitagに参加してきた。コンベンションというよりファミリーパーティーといった感じの会であった。

この会は134号の「ペーパーフォルダーの横顔」で紹介されたスザンネ・シュミットさんが主催しており、小規模ながらドイツ国外からの参加者も多く、アメリカ、イタリア、オランダ、フランス、スペインと、近隣の国からの参加者も多い。宮島さんのレポートに紹介されているフ

ランスのガシュバピアーさんも参加していた。

この会はスザンネさんの自宅を開放して開かれていて、彼女を中心に家族総出で参加者をもてなしていた。なかでも母親であるスザンネさんの言う事を素直に聞き、参加者に対応する娘さんの姿はとても気持ちのよい光景であった(ご主人もだが)。

参加者は40-50人と少なめであるがその分参加者同士が触れ合う時間が多く、とても有意義な時間を過ごせた。

特に教室といった形はなく、自然の流れでお互いに教えあうといった、とても

自由な雰囲気の中で皆さん折り紙を楽しんでおられた。

遠方からの参加者の多くが、スザンネさんのお宅に宿泊するなど、彼女達が接待をする姿を見ていると、並大抵な事でなく大変だと思う。しかし彼女の動きを見ていると、ご本人がいちばん楽しんでいるかのように思えた。

この会は、3日連続の懇親会のように感じた。食事、飲み物などは参加者が持ち寄るようになっているそうだが、持っていない人の方が多いという事だった。



▲集合写真



▲教室風景(?)



▲小さな会だが、立派な折り図集を出していた

▲参加者のなかで珍しいコンプレックスモデルのAlessandro Beberさん(イタリア)

第13回折り紙の科学・数学・教育研究集会のお知らせ

第13回折り紙の科学・数学・教育研究集会を下記要項で行います。折り紙の科学・数学・教育に関する研究者の、最新研究の発表が行われます。どなたでも聴講ができますので、興味のある方はぜひご参加ください。また、発表者を公募します。日程などの詳細は、決定次第、お知らせします。

日時:12月16日(日) 会場:JOASホール(東京都文京区白山1-33-8) 参加資格:なし

◆発表者応募要項

次の内容を、12月2日までに、メール

で送付してください。氏名、連絡先、発表タイトル、発表概要(200文字まで)、発表予定時間(30分以下としますが、交渉に応じます) 連絡先:webman@origami.gr.jp(担当:前川 淳)

◆論文集投稿受付中

論文集『折り紙の科学』への投稿論文も受け付けています。随時受け付けますが、当面のメスは2月末です。詳細は、以下をごらんください。

<http://www.origami.gr.jp/OSME/Origami-no-Kagaku.html>

◆WOD(World Origami Days)活動報告

10月24日から11月11日の期間、今年も各地でWODの活動が行われました。

OrigamiUSAのウェブサイト(<http://origamiusa.org/wod>)には、最終日の11月11日に、WOD期間中にハリケーンにより大きな被害を受けたニューヨークにて行われた講習イベントを始め、各地での活動が寄せられています。

JOASによるウェブサイト上での「蛇」をテーマにした「折り紙のへびって」展では、リトアニアからの投稿を含む11点の作品の投稿がありました。もう1つのテーマ展「OUSAおよびJOASの新旧ボードメンバーによる2012年のMy Best、My Favorite作品」展では、19名より23

作品が投稿されました。また同時におりがみはうすで行われた特別展示には、合計22点の作品が寄せられました。また11月10日には、JOASホールにて神谷哲史氏による特別教室が行われました。来年も引き続き活動を続けていきます。



▲おりがみはうすでのリアル展示風景

303号室/参加費=大人500円(中学生以下は200円)/時間=13:00~16:30

●12月15日(土)/講師:藤原天馬、作品:いちご

●1月19日(土)/講師、作品:未定

関西友の会※折り紙は各自持参

●12月23日(日)/会場=西宮市大学交流センター/参加費=高校生以上500円/時間=10:00~12:00 講師:立石浩一/作品:OD Ball (David Brill作)/時間=13:00~15:30/講師:藤原天馬/作品:ランドセル(のりが必要) ※詳細は、http://tatekoo.net/KT/fold_it_or_go/

九州友の会※折り紙は各自持参

会場=佐賀県立アバンセ4階/参加費=500円(中学生以下は100円)

●12月23日(日)/13:00~16:00/会場=第4研修室/講師:江口 颯/作品:イヌ

●1月20日(日)/時間=13:00~16:00/会場=第2研修室B/講師:藤田 洸/講習内容:展開図の読み方、折り方の解説

JOASホール今後の予定

◆「知子の部屋」

12月15日(土)/講師=布施知子/参加費=2,500円/12:30~16:00
アットホームな雰囲気の中で、どなたでもご参加頂けます。15cmの折り紙持参。

◆「実用折り紙教室」

1月12日(土)/講師=松浦英子(おりがみはうすスタッフ)/参加費=2,500円(材料費込み)/13:00~16:00/講習作品=ギフ用ミニブーツ(山口 真・作)/定員=20名(定員になり次第締切)

▶ブーツの作例



◆「ある折り紙作家の教室」

2月3日(日)、10日(日)(2日とも同じ内容)/講師=神谷哲史/参加費=3,000円(材料費込み)/11:00~16:00/講習作品=スティラコサウルス/定員=各28名(定員になり次第締切)

※小学生の方が参加される場合は、必ず保護者の同伴をお願いします。

※会場へは参加者および同伴者(会場費500円が必要)のみ入場可能です。

参加のお申し込みはFAX(03-5684-6080)又は、メールinfo@origamihouse.jpで氏名、住所、Email、電話番号、参加希望教室名、希望日をお知らせください。

編集後記

■疲れた、今年ばかりは本当に疲れた。■人に言えば当たり前だと言われると思う。■今回の旅で今年の海外出張が100日を超えた。■来年も既に2月にエジプト、モロッコ、ヨルダンへ国際交流基金の派遣が決まっている。■その後も例年参加しているところには行かなければならない。■しかし、ハッキリ言って老体だ。■どこかでストップしなければ周りに迷惑をかけることになってしまうだろう。■寂しい。(や)

日本折紙学会公式HP

折紙探偵団 <http://www.origami.gr.jp/>

折紙探偵団

2012年11月25日発行 第23巻4号 通巻136号

発行所/日本折紙学会

〒113-0001

東京都文京区白山1-33-8-216

Phone & Fax / 03-5684-6080

発行人/西川誠司

編集人/山口 真

編集スタッフ/松浦英子、神谷哲史

デザイン/おりがみはうす

翻訳/立石浩一

●本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

■ORIGAMITANTEIDAN / No.136 / Published on 25, November 2012 by Japan Origami Academic Society, 1-33-8-216 Hokusai Bunkyo-ku 113-0001 Tokyo JAPAN / Cover Photo: "Actress" Produced by Matsui Erika: Photographed by ORIGAMI HOUSE / Publisher: Nishikawa Seiji / Editor in Chief: Yamaguchi Makoto / Editor: Matsuura Eiko, Kamiya Satoshi / Editorial Design: ORIGAMI HOUSE / Translator: Tateishi Koichi

おりがみはうす商品案内

website = <http://www.origamihouse.jp/>

E-mail = info@origamihouse.jp

このページの商品の取扱いはずべておりがみはうすです。

日本折紙学会とは別になります。

ATTENTION! : This advertisement is for Japan-internal use only.
For overseas shipment, please refer to the OrigamiHouse Web Site.



第18回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.18

日本折紙学会 編 / 2,200円 / 送料420円
B5判 / 全272頁 / 48作品収録

16P 増量!

ミルフィオリ：川村みゆき、チャボ：北條高史、にんじん：前川 淳、キリン：萩原 元、ヘラクレスオオカブト：神谷哲史、ミサゴ：クエンティン・トロリッパ、オニオオハシ：ホアン・ティン・クエット、ピクセルユニットのきつね：マックス・ヒューム等、国内外の48作品を収録。



神谷哲史作品集2 NEW!

神谷哲史・著 山口真・編 立石浩一・翻訳
4,000円 / 送料420円 / B5判 / 全232頁 / カラー口絵8頁 / 16作品収録

好評発売中!

コンプレックス折り紙界の最先端を走り続ける神谷氏の、約8年ぶりとなる作品集。描き下ろしの「フェニックス」をはじめ、レア度の高かった折り紙教室向けの折り図を含む16作品を収録。一層難易度を増した作品があなたの挑戦を待ち受ける!

小松英夫作品集

小松英夫・著 山口真・編 立石浩一・翻訳
4,000円 / 送料420円 / B5判 / 全232頁 / カラー口絵8頁 / 20作品収録

折り図も一つの作品として捉え、常に新しい表現方法を追求する小松英夫氏の作品集が、満を持して登場! 「ライオン」「道化面2」など描き下ろし作品4点の他、過去に発表された作品もさまざまな形でリニューアル。シンプルからコンプレックスまで20作品を収録。

書籍名/著者・編者	価格(税込)	送料	内 容
神谷哲史作品集 神谷哲史 著 山口 真 編 立石浩一 訳	4,000円	国内一律 1冊 420円 (梱包込) ※ 複数冊は 異なります	B5判 / 全228頁 / カラー口絵4頁 / 19作品収録 超複雑系折り紙の創作活動8年間の集大成。
西川誠司作品集 西川誠司 著 山口 真 編 立石浩一 訳	3,200円		B5判 / 全196頁 / カラー口絵4頁 / 32作品収録 シンプルからコンプレックスまで幅広く楽しめる本
折紙図鑑「昆虫2」 ロバート・J・ラング 著 山口 真 編 立石浩一 訳	3,500円		B5判 / 全196頁 / カラー口絵4頁 / 18作品収録 初心者お断り、世界で一番難しい昆虫折り紙の本
面～The Mask～ 布施知子 著 山口 真 編	3,300円		B5判 / 全200頁 / 全27作品カラー写真紹介 作者がユニットに出会う前の、お面だけの作品集
エリック・ジョワゼル 山口 真 編著 —折り紙のマジシャン— 立石浩一 訳	4,800円		B5判ハードカバー全144頁 / カラー80頁 2010年に逝去したジョワゼル氏の作品写真集
第17回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.17 日本折紙学会 編	2,000円		B5判 / 全256頁 国内・外から集まった秀作50作品を収録
第16回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.16 日本折紙学会 編	2,000円		B5判 / 全256頁 国内・外から集まった秀作47作品を収録
第11回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.11 日本折紙学会 編	2,000円		B5判 / 全256頁 国内・外から集まった秀作55作品を収録
第10回記念折紙探偵団 国際コンベンション 折り図集vol.10 日本折紙学会 編	2,000円		B5判 / 全256頁 国内・外から集まった秀作50作品を収録

書籍2冊の送料は530円です。3冊以上は本によって異なりますので、お問い合わせください。書籍と紙、Tシャツなどはそれぞれ別発送となります

商品名	価格(税込)	送 料	内 容
恐竜柄おりがみ用紙	1,000円	1~2セット	35×35cm / 10枚入り / 70kgの洋紙(コルキー)に細かな恐竜柄を印刷
恐竜柄おりがみ用紙 折り図つきセット	1,200円	440円	恐竜柄おりがみ用紙+ドラゴン(北條高史・作)の折り図セット
『折紙探偵団』専用ファイル	750円	1冊250円 2冊350円	193×268×28mm / 箔押しロゴ入り / 雑誌『折紙探偵団』1年分(6冊)と、会員特別配布物が収納可能なプラスチックファイル

※PayPalによるお支払いも可能です。詳細は公式HP <http://www.origamihouse.jp>まで

GALLERY ギャラリー **おりがみはうす**
〒113-0001 東京都文京区白山1-33-8-216
TEL:(03) 5684-6040 FAX:(03) 5684-6080
E-mail: info@origamihouse.jp
月～金 12時～15時 土・日・祝 10時～18時

折り紙用紙専門のオンラインショップ!
(株)トーヨーの商品を中心とした豊富な品揃えです。
<http://origamihouse.store-web.net/>
※本ページ商品は取り扱っておりません。ご注意ください

商品のお申し込み方法

先に郵便振替か現金書留で料金(商品価格+送料)をお送り下さい。入金を確認後、商品を発送させていただきます。ご希望の商品名と連絡先の記入(郵便振替の場合は振替用紙の「通信欄」に記入)をお忘れのない様お願いします。

郵便振替番号 **00120-9-715400**
加入者名 **おりがみはうす**

※折紙探偵団の購読申込みとは別の口座です。くれぐれもご注意ください。
※郵便振替用紙は郵便局備え付けのものをご利用ください。
※現金書留の場合は左記の住所へお送りください。
※商品のお届けは通常、送金から約1週間～10日です(お盆・年末年始等を除く)。
※商品名、数量及び料金をよくお確かめの上ご注文ください。

11種類のかわいい星が作れます！



¥600
(税抜き)

 株式会社ト-ヨ-
ホームページ <http://www.kidstoyo.co.jp>

●写真は印刷ですので実際の商品とは色は違う場合があります。
※表示価格には消費税は含まれておりません。※内容・デザインは一部変更になることがあります。
本社 〒120-0044東京都足立区千住緑町2-12-12 TEL03-3882-8161
大阪支店 / 名古屋営業所 / 福岡出張所 / 札幌出張所